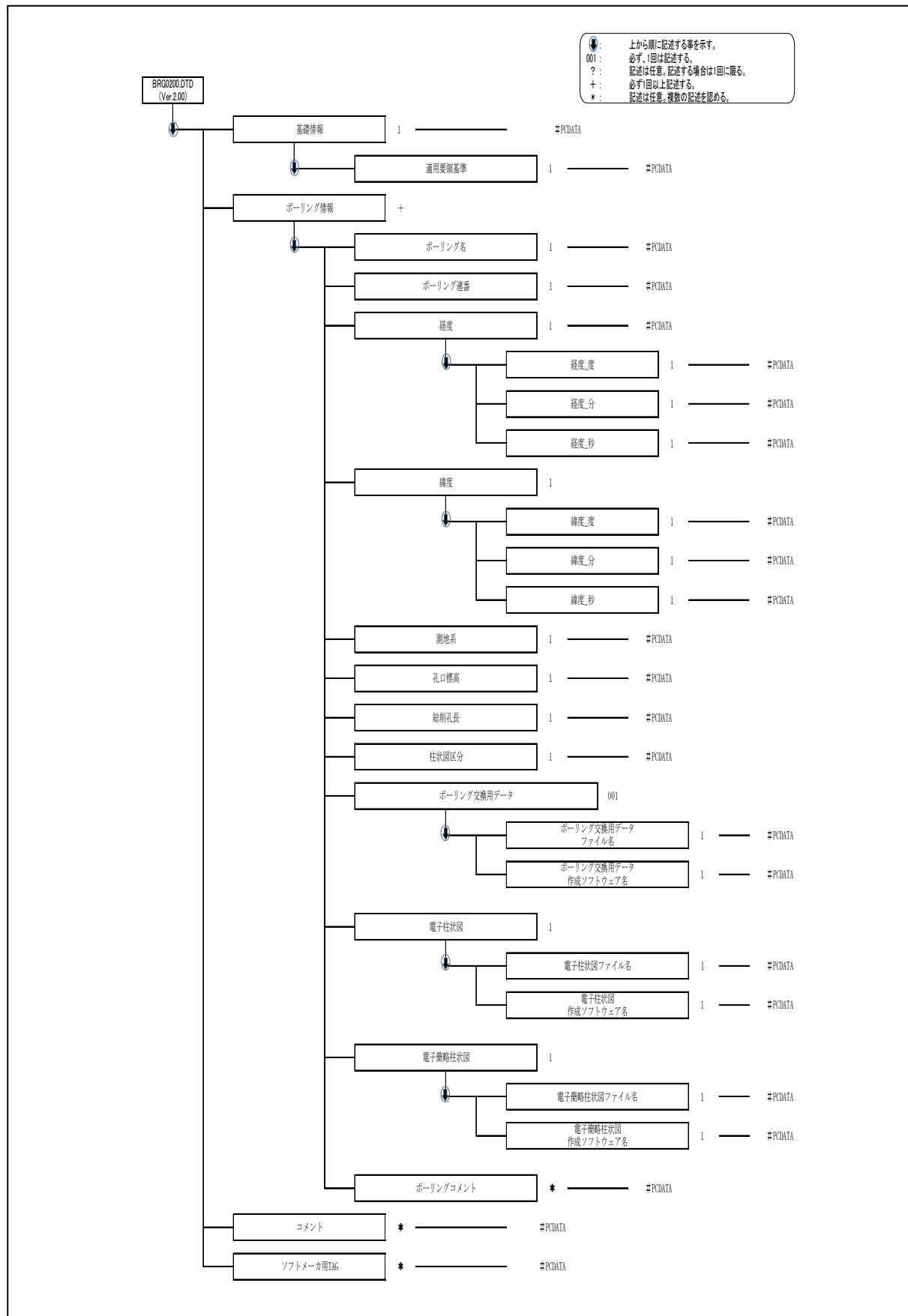


付属資料1 地質情報管理ファイル

1 地質情報管理ファイルの構造図



2 地質情報管理ファイルの DTD

地質情報管理ファイルの DTD (BRG0200.DTD) を次に示す。なお、DTD ファイルは、農林水産省のホームページから入手できる。

(農林水産省 HP → http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/index.html)

```
<!ELEMENT BORING (基礎情報, ボーリング情報+, コメント*, ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST BORING DTD_version CDATA #FIXED "2.00">

<!--*****-->
<!--                基礎情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
    <!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                ボーリング情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリング情報 (ボーリング名, ボーリング連番, 経度, 緯度, 測地系, 孔口標高, 総削孔長, 柱状図区分, ボーリング交換用データ, 電子柱状図, 電子簡略柱状図, ボーリングコメント*)>
    <!ELEMENT ボーリング名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT ボーリング連番 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 経度 (経度_度, 経度_分, 経度_秒)>
        <!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 緯度 (緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒)>
        <!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔口標高 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 総削孔長 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 柱状図区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                ボーリング交換用データ                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリング交換用データ (ボーリング交換用データファイル名, ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名)>
    <!ELEMENT ボーリング交換用データファイル名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                電子柱状図                -->
<!--*****-->
```

<!ELEMENT 電子柱状図 (電子柱状図ファイル名, 電子柱状図作成ソフトウェア名)>

<!ELEMENT 電子柱状図ファイル名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 電子柱状図作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- 電子簡略柱状図 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT 電子簡略柱状図 (電子簡略柱状図ファイル名, 電子簡略柱状図作成ソフトウェア名)>

<!ELEMENT 電子簡略柱状図ファイル名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 電子簡略柱状図作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- ボーリングコメント -->

<!--*****-->

<!ELEMENT ボーリングコメント (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- コメント -->

<!--*****-->

<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>

3 地質情報管理ファイルの XML 記入例

地質情報管理ファイル(BORING.XML)の記入例を以下に示す。なお、サンプル XML ファイルは、発注者側から提供を受けることができる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE BORING SYSTEM "BRG0200.DTD">
<BORING DTD_version="2.00">
```

<基礎情報>

<適用要領基準>農村振興土木 201903-01</適用要領基準>

</基礎情報>

<ボーリング情報>

<ボーリング名>B-001</ボーリング名>

<ボーリング連番>1</ボーリング連番>

<経度>

<経度_度>135</経度_度>

<経度_分>49</経度_分>

<経度_秒>58.2000</経度_秒>

</経度>

<緯度>

<緯度_度>34</緯度_度>

<緯度_分>59</緯度_分>

<緯度_秒>53.2000</緯度_秒>

</緯度>

<測地系>02</測地系>

<孔口標高>102.00</孔口標高>

<総削孔長>50.00</総削孔長>

<柱状図区分>土質（オールコア用）</柱状図区分>

<ボーリング交換用データ>

<ボーリング交換用データファイル名>BED0001.XML</ボーリング交換用データファイル名>

<ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>ボーリングデータ簡易作成 LT2.0</ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>

</ボーリング交換用データ>

<電子柱状図>

<電子柱状図ファイル名>BRG0001.PDF</電子柱状図ファイル名>

<電子柱状図作成ソフトウェア名>Adobe Acrobat DC</電子柱状図作成ソフトウェア名>

</電子柱状図>

<電子簡略柱状図>

<電子簡略柱状図ファイル名>BRG0001.P21</電子簡略柱状図ファイル名>

<電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>ボーリング CAD2.0</電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>

</電子簡略柱状図>

<ボーリングコメント>〇〇〇〇にて調査</ボーリングコメント>

</ボーリング情報>

<ボーリング情報>

<ボーリング名>B-002</ボーリング名>

<ボーリング連番>2</ボーリング連番>

<経度>

<経度_度>135</経度_度>

<経度_分>47</経度_分>

<経度_秒>26.4000</経度_秒>

</経度>

<緯度>

<緯度_度>35</緯度_度>

<緯度_分>53</緯度_分>

<緯度_秒>15.8000</緯度_秒>

</緯度>

<測地系>02</測地系>

<孔口標高>123.00</孔口標高>

<総削孔長>60.00</総削孔長>

<柱状図区分>岩盤</柱状図区分>

<ボーリング交換用データ>

<ボーリング交換用データファイル名>BED0002.XML</ボーリング交換用データファイル名>

<ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>ボーリングデータ簡易作成 LT2.0</ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>

</ボーリング交換用データ>

<電子柱状図>

<電子柱状図ファイル名>BRG0002.PDF</電子柱状図ファイル名>

<電子柱状図作成ソフトウェア名>Adobe Acrobat DC</電子柱状図作成ソフトウェア名>

</電子柱状図>

<電子簡略柱状図>

<電子簡略柱状図ファイル名>BRG0002.P21</電子簡略柱状図ファイル名>

<電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>ボーリング CAD2.0</電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>

</電子簡略柱状図>

<ボーリングコメント>〇〇〇〇にて調査</ボーリングコメント>

</ボーリング情報>

<ボーリング情報>

<ボーリング名>B-3</ボーリング名>

<ボーリング連番>3</ボーリング連番>

<経度>

<経度_度>135</経度_度>

<経度_分>41</経度_分>

<経度_秒>41.2000</経度_秒>

</経度>

<緯度>

<緯度_度>34</緯度_度>

<緯度_分>57</緯度_分>

<緯度_秒>18.2000</緯度_秒>

</緯度>

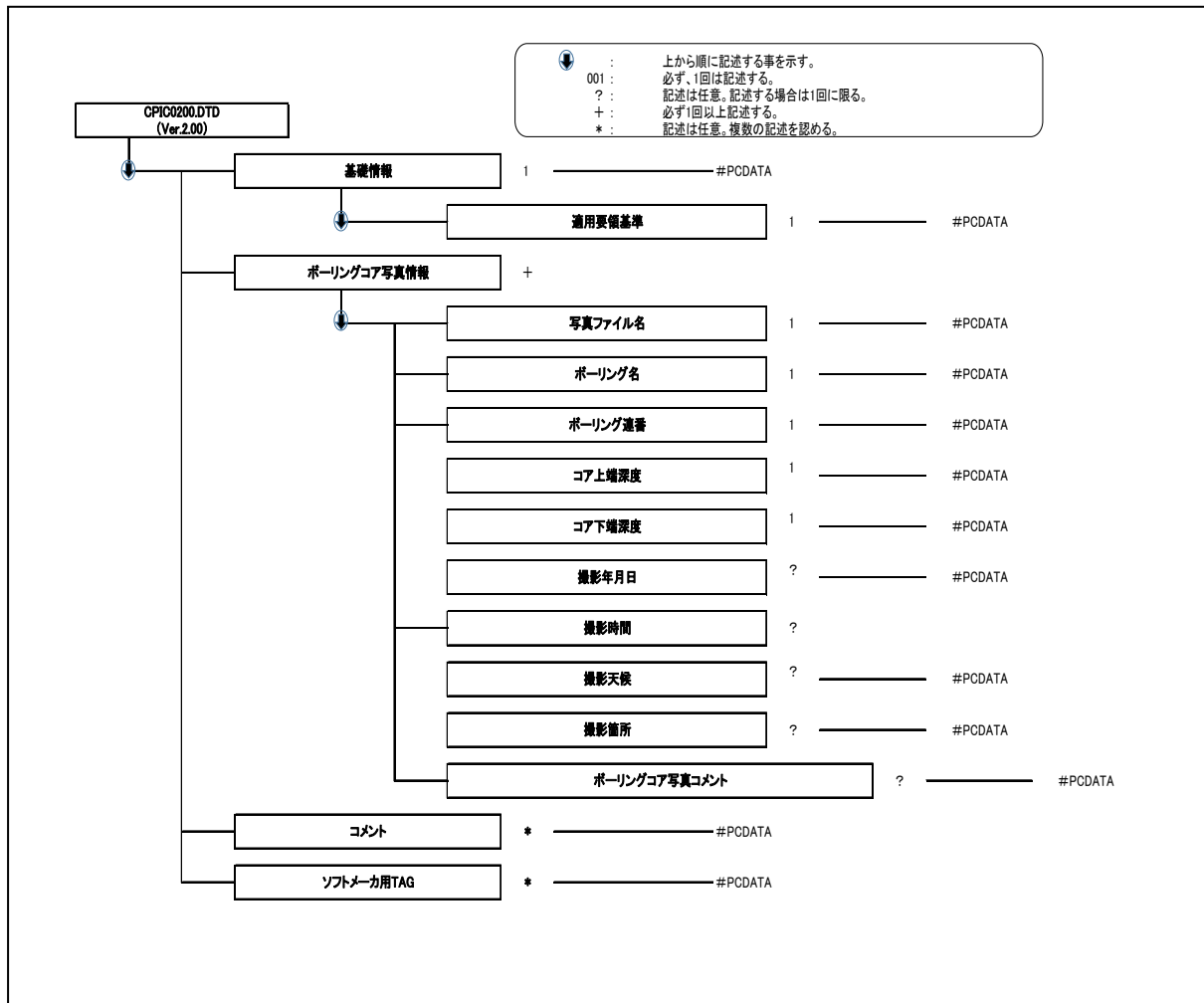
<測地系>02</測地系>
<孔口標高>10.00</孔口標高>
<総削孔長>50.00</総削孔長>
<柱状図区分>地すべり（オールコア用）</柱状図区分>
<ボーリング交換用データ>
 <ボーリング交換用データファイル名>BED0003.XML</ボーリング交換用データファイル名>
<ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>ボーリングデータ簡易作成 LT2.0</ボーリング交換用データ作成ソフトウェア名>
</ボーリング交換用データ>
<電子柱状図>
 <電子柱状図ファイル名>BRG0003.PDF</電子柱状図ファイル名>
 <電子柱状図作成ソフトウェア名>Adobe Acrobat DC </電子柱状図作成ソフトウェア名>
</電子柱状図>
<電子簡略柱状図>
 <電子簡略柱状図ファイル名>BRG0003.P21</電子簡略柱状図ファイル名>
 <電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>ボーリング CAD2.0</電子簡略柱状図作成ソフトウェア名>
</電子簡略柱状図>
<ボーリングコメント>〇〇〇〇にて調査</ボーリングコメント>
</ボーリング情報>

<コメント>〇〇〇〇にて調査</コメント>
<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</BORING>

付属資料2 ボーリングコア写真管理ファイル

1 ボーリングコア写真管理ファイルの構造図



2 ボーリングコア写真管理ファイルの DTD

ボーリングコア写真管理ファイルの DTD (CPIC0200.DTD) を次に示す。なお、DTD ファイルは、農林水産省のホームページから入手できる。

(農林水産省 H P → http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/index.html)

```
<!ELEMENT COREPICTURE (基礎情報, ボーリングコア写真情報+, コメント*, ソフトメーカ用
TAG*)>
<!ATTLIST COREPICTURE DTD_version CDATA #FIXED "2.00">

<!--*****-->
<!--          基礎情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
  <!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          ボーリングコア写真情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリングコア写真情報 (写真ファイル名, ボーリング名, ボーリング連番, コ
ア上端深度, コア下端深度, 撮影年月日?, 撮影時間?, 撮影日天候?, 撮影箇所?, ボーリン
グコア写真コメント?)>
  <!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング連番 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コア上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コア下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影時間 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影日天候 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 撮影箇所 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリングコア写真コメント (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          コメント          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

3 ボーリングコア写真管理ファイルの XML 記入例

ボーリングコア写真管理ファイル(COREPIC.XML)の記入例を次に示す。なお、サンプル XML ファイルは、発注者側から提供を受けることができる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE COREPICTURE SYSTEM "CPIC0200.DTD">

<COREPICTURE DTD_version="2.00">

<基礎情報>
  <適用要領基準>農村振興土木 201903-01</適用要領基準>
</基礎情報>

<ボーリングコア写真情報>
  <写真ファイル名>C0001001.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>1</ボーリング連番>
  <コア上端深度>0.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>5.00</コア下端深度>
  <撮影年月日>2019-04-09</撮影年月日>
  <撮影時間>14:30</撮影時間>
  <撮影日天候>晴れときどき曇り</撮影日天候>
  <撮影箇所>つくば研究所実験棟</撮影箇所>
  <ボーリングコア写真コメント>〇〇〇〇にて調査</ボーリングコア写真コメント>
</ボーリングコア写真情報>

<ボーリングコア写真情報>
  <写真ファイル名>C0001002.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>1</ボーリング連番>
  <コア上端深度>5.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>10.00</コア下端深度>
  <撮影年月日>2019-05-09</撮影年月日>
  <撮影時間>14:35</撮影時間>
  <撮影日天候>晴れときどき曇り</撮影日天候>
  <撮影箇所>つくば研究所実験棟</撮影箇所>
  <ボーリングコア写真コメント>〇〇〇〇にて調査</コボーリングコア写真コメント>
</ボーリングコア写真情報>

<ボーリングコア写真情報>
  <写真ファイル名>C0001003.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>1</ボーリング連番>
  <コア上端深度>10.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>15.00</コア下端深度>
  <撮影年月日>2019-05-09</撮影年月日>
  <撮影時間>14:40</撮影時間>
  <撮影日天候>晴れときどき曇り</撮影日天候>
  <撮影箇所>つくば研究所実験棟</撮影箇所>
  <ボーリングコア写真コメント>〇〇〇〇にて調査</ボーリングコア写真コメント>
</ボーリングコア写真情報>

<ボーリングコア写真情報>
  <写真ファイル名>R0001001.JPG</写真ファイル名>
  <ボーリング名>T001</ボーリング名>
  <ボーリング連番>1</ボーリング連番>
  <コア上端深度>0.00</コア上端深度>
  <コア下端深度>15.00</コア下端深度>
  <撮影年月日></撮影年月日>
  <撮影時間></撮影時間>
```

<撮影日天候></撮影日天候>
<撮影箇所></撮影箇所>
<ボーリングコア写真コメント>連続ボーリングコア写真。C0001001～C0001003 の写真ファイルを使用。
</ボーリングコア写真コメント>
</ボーリングコア写真情報>

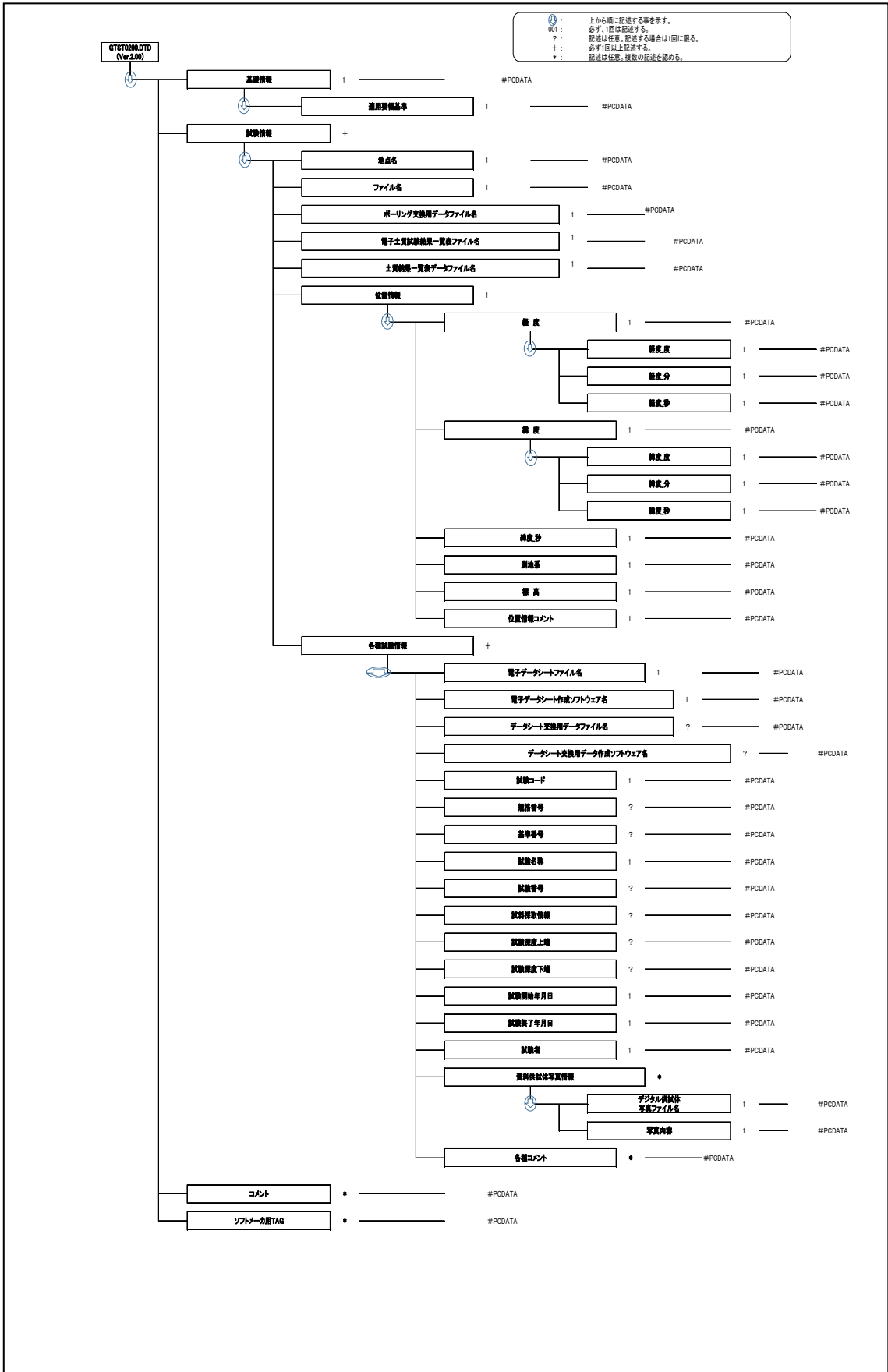
<コメント>ボーリングコア写真、連続ボーリングコア写真の管理ファイルの例。</コメント>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</COREPICTURE>

付属資料3 土質試験及び地盤調査管理ファイル

1 土質試験及び地盤調査管理ファイルの構造図



2 土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD

土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD (GTST0200.DTD) を次に示す。なお、DTD ファイルは、農林水産省のホームページから入手できる。

(農林水産省 H P → http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/index.html)

```
<!ELEMENT GRNDTEST (基礎情報, 試験情報+, コメント*, ソフトメーカ用TAG*)>
<!ATTLIST GRNDTEST DTD_version CDATA #FIXED "2.00">

<!--*****-->
<!--          基礎情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
<!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          試験情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 試験情報 (地点名, フォルダ名, ボーリング交換用データファイル名?, 電子土質
試験結果一覧表ファイル名?, 土質試験結果一覧表データファイル名? 位置情報, 各種試験
情報+)>
<!ELEMENT 地点名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ボーリング交換用データファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 電子土質試験結果一覧表ファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果一覧表データファイル名 (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!--          位置情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 位置情報 (経度, 緯度, 測地系, 標高, 位置情報コメント*)>
<!ELEMENT 経度 (経度_度, 経度_分, 経度_秒)>
<!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 緯度 (緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒)>
<!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標高 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 位置情報コメント (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!--          各種試験情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 各種試験情報 (電子データシートファイル名, 電子データシート作成ソフトウ
ェア名, データシート交換用データファイル名?, データシート交換用データ作成ソフトウ
ェア名?, 試験コード, 規格番号?, 基準番号?, 試験名称, 試料番号?, 試料採取情報?, 試験上
端深度?, 試験下端深度?, 試験開始年月日, 試験終了年月日, 試験者, 試料供試体写真情報
*, 各種試験コメント*)>
<!ELEMENT 電子データシートファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 電子データシート作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT データシート交換用データファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT データシート交換用データ作成ソフトウェア名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 規格番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 基準番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験上端深度 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 試験下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験開始年月日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験終了年月日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験者 (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!--          試料供試体写真情報          -->
<!--*****-->
  <!ELEMENT 試料供試体写真情報 (デジタル試料供試体写真ファイル名, 写真内容)>
    <!ELEMENT デジタル試料供試体写真ファイル名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 写真内容 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 各種試験コメント (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          コメント          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用TAG (#PCDATA)>
```

3 土質試験及び地盤調査管理ファイルの XML 記入例

土質試験及び地盤調査管理ファイル (GRNDTST.XML) の記入例を次に示す。なお、サンプル XML ファイルは、発注者側から提供を受けることができる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE GRNDTEST SYSTEM "GTST0200.DTD">
<GRNDTEST DTD_version="2.00">

<基礎情報>
  <適用要領基準>農村振興土木 201903-01</適用要領基準>
</基礎情報>

<試験情報>
  <地点名>B-1</地点名>
  <フォルダ名>BRG0001</フォルダ名>
  <ボーリング交換用データファイル名>BRG0001.XML</ボーリング交換用データファイル名>
  <電子土質試験結果一覧表ファイル名>STB0001.PDF<電子土質試験結果一覧表ファイル名>
  <土質試験結果一覧表データファイル名>STB0001.XMLF<土質試験結果一覧表データファイル名>

  <位置情報>
    <経度>
      <経度_度>135</経度_度>
      <経度_分>35</経度_分>
      <経度_秒>58.2000</経度_秒>
    </経度>
    <緯度>
      <緯度_度>34</緯度_度>
      <緯度_分>59</緯度_分>
      <緯度_秒>53.2000</緯度_秒>
    </緯度>
    <測地系>02</測地系>
    <標高>93.25</標高>
    <位置情報コメント></位置情報コメント>
  </位置情報>

  <各種試験情報>
    <電子データシートファイル名>TS001001.PDF</電子データシートファイル名>
    <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
    <データシート交換用データファイル名>TS001001.XML</データシート交換用データファイル名>
    <データシート交換用データ作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</データシート交換用データ作成ソフトウェア名>
    <試験コード>A0111</試験コード>
    <規格番号>JIS A 1202-2009</規格番号>
    <基準番号></基準番号>
    <試験名称>土粒子の密度試験</試験名称>
    <試料番号>L001</試料番号>
    <試料採取情報>0</試料採取情報>
    <試験上端深度>1.00</試験上端深度>
    <試験下端深度>1.80</試験下端深度>
    <試験開始年月日>2019-05-09</試験開始年月日>
    <試験終了年月日>2019-05-09</試験終了年月日>
    <試験者>〇〇 〇〇</試験者>
    <試料供試体写真情報>
      <デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010011.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
      <写真内容>試験前試料状況</写真内容>
    </試料供試体写真情報>
    <各種試験コメント></各種試験コメント>
  </各種試験情報>

```

<各種試験情報>
 <電子データシートファイル名>TS001002.PDF</電子データシートファイル名>
 <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
 <データシート交換用データファイル名>TS001002.XML</データシート交換用データファイル名>
 <データシート交換用データ作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</データシート交換用データ作成ソフトウェア名>
 <試験コード>A0131</試験コード>
 <規格番号>JIS A 1204-2009</規格番号>
 <基準番号></基準番号>
 <試験名称>土の粒度試験</試験名称>
 <試料番号>L001</試料番号>
 <試料採取情報>0</試料採取情報>
 <試験上端深度>1.00</試験上端深度>
 <試験下端深度>1.80</試験下端深度>
 <試験開始年月日>2019-05-09</試験開始年月日>
 <試験終了年月日>2019-05-09</試験終了年月日>
 <試験者>〇〇 〇〇</試験者>
 <試料供試体写真情報>
 <デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010021.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
 <写真内容>試験後試料状況</写真内容>
 </試料供試体写真情報>
 <各種試験コメント></各種試験コメント>
</各種試験情報>

 <各種試験情報>
 <電子データシートファイル名>TS001003.PDF</電子データシートファイル名>
 <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</電子データシート作成ソフトウェア名>
 <データシート交換用データファイル名>TS001003.XML</データシート交換用データファイル名>
 <データシート交換用データ作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2.0</データシート交換用データ作成ソフトウェア名>
 <試験コード>A1216</試験コード>
 <規格番号></規格番号>
 <基準番号>JIS 1216-2009</基準番号>
 <試験名称>土の一軸圧縮試験</試験名称>
 <試料番号>L001</試料番号>
 <試料採取情報>0</試料採取情報>
 <試験上端深度>1.00</試験上端深度>
 <試験下端深度>1.80</試験下端深度>
 <試験開始年月日>2019-05-09</試験開始年月日>
 <試験終了年月日>2019-05-09</試験終了年月日>
 <試験者>〇〇 〇〇</試験者>
 <試料供試体写真情報>
 <デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010031.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
 <写真内容>試験前供試体状況</写真内容>
 </試料供試体写真情報>
 <試料供試体写真情報>
 <デジタル試料供試体写真ファイル名>S0010032.JPG</デジタル試料供試体写真ファイル名>
 <写真内容>試験後供試体状況</写真内容>
 </試料供試体写真情報>
 <各種試験コメント></各種試験コメント>
 </各種試験情報>
</試験情報>

<試験情報>
 <地点名>S-1</地点名>
 <フォルダ名>SIT0001</フォルダ名>

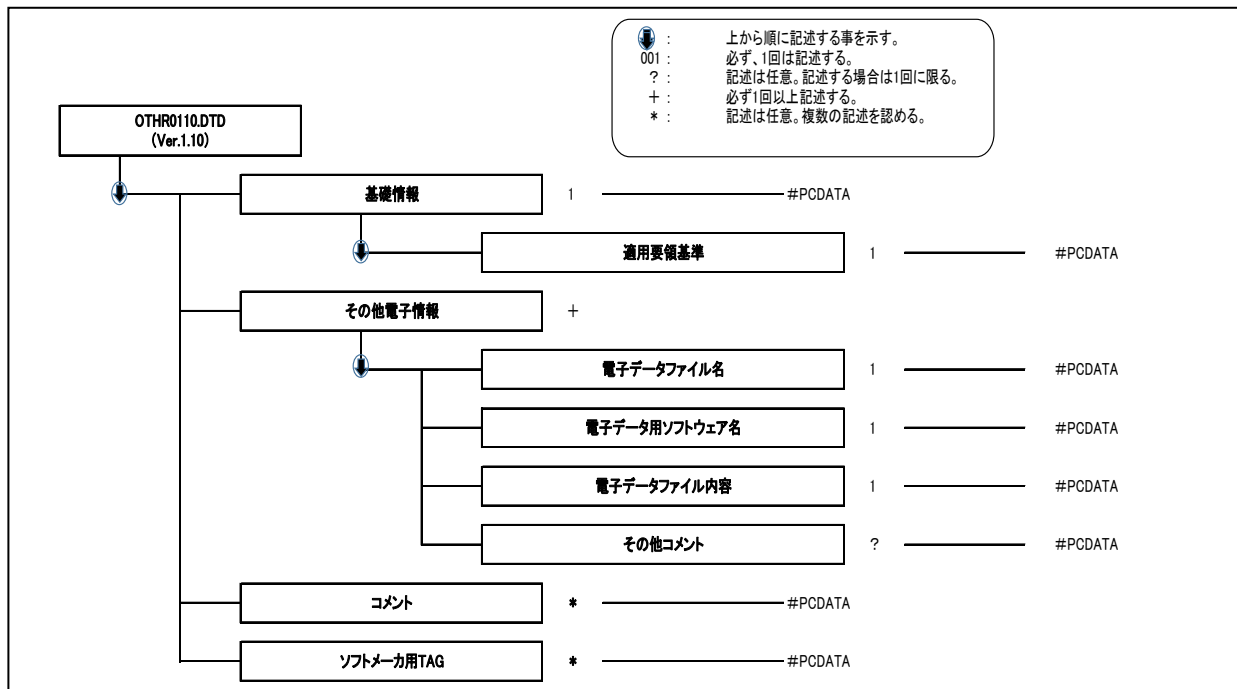
<ボーリング交換用データファイル名></ボーリング交換用データファイル名>
<電子土質試験結果一覧表ファイル名>STS0001. PDF<電子土質試験結果一覧表ファイル名>
<土質試験結果一覧表データファイル名>STS0001. XML<土質試験結果一覧表データファイル名>
<位置情報>
 <経度>
 <経度_度>135</経度_度>
 <経度_分>46</経度_分>
 <経度_秒>23. 1500</経度_秒>
 </経度>
 <緯度>
 <緯度_度>35</緯度_度>
 <緯度_分>2</緯度_分>
 <緯度_秒>16. 8000</緯度_秒>
 </緯度>
 <測地系>02</測地系>
 <標高>102. 00</標高>
 <位置情報コメント></位置情報コメント>
</位置情報>
<各種試験情報>
 <電子データシートファイル名>TS000001. PDF</電子データシートファイル名>
 <電子データシート作成ソフトウェア名>データシート簡易作成 LT2. 0</電子データシート作成ソフトウェア名>
 <試験コード>B1521</試験コード>
 <規格番号></規格番号>
 <基準番号>JGS 1521-2012</基準番号>
 <試験名称>平板載荷試験</試験名称>
 <試料番号></試料番号>
 <試料採取情報></試料採取情報>
 <試験上端深度></試験上端深度>
 <試験下端深度></試験下端深度>
 <試験開始年月日>2019-06-11</試験開始年月日>
 <試験終了年月日>2019-06-11</試験終了年月日>
 <試験者>〇〇〇〇</試験者>
 <各種試験コメント></各種試験コメント>
</各種試験情報>
</試験情報>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</GRNDTEST>

付属資料4 その他管理ファイル

1 その他管理ファイルの構造図



2 その他管理ファイルの DTD

その他管理ファイルの DTD (OTHR0110.DTD) を次に示す。なお、DTD ファイルは、農林水産省のホームページから入手できる。

(農林水産省 H P → http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/index.html)

```
<!ELEMENT OTHERFILES (基礎情報, その他電子情報+, コメント*, ソフトメーカー用 TAG*)>
<!ATTLIST OTHERFILES DTD_version CDATA #FIXED "1.10">
```

```
<!--*****-->
```

```
<!--                基礎情報                -->
```

```
<!--*****-->
```

```
<!ELEMENT 基礎情報 (適用要領基準)>
```

```
<!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>
```

```
<!--*****-->
```

```
<!--                その他電子情報                -->
```

```
<!--*****-->
```

```
<!ELEMENT その他電子情報 (電子データファイル名, 電子データ用ソフトウェア名, 電子データファイル内容, その他コメント?)>
```

```
<!ELEMENT 電子データファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 電子データ用ソフトウェア名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 電子データファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他コメント (#PCDATA)>
```

```
<!--*****-->
```

```
<!--                コメント                -->
```

```
<!--*****-->
```

```
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

3 その他管理ファイルの XML 記入例

その他管理ファイル(OTHRFLS.XML)の記入例を次に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE OTHERFILES SYSTEM "OTHR0110.DTD">

<OTHERFILES DTD_version="1.10">

  <基礎情報>
    <適用要領基準>農村振興土木 201903-01</適用要領基準>
  </基礎情報>

  <その他電子情報>
    <電子データファイル名>D_LIST1.TXT</電子データファイル名>
    <電子データ用ソフトウェア名>液状化解析ツール Ver. 1.20</電子データ用ソフトウェア名>
  >
    <電子データファイル内容>液状化解析結果その 2</電子データファイル内容>
    <その他コメント>2 個あるうちの 1</その他コメント>
  </その他電子情報>

  <その他電子情報>
    <電子データファイル名>D_LIST2.TXT</電子データファイル名>
    <電子データ用ソフトウェア名>液状化解析ツール Ver. 1.20</電子データ用ソフトウェア名>
  >
    <電子データファイル内容>液状化解析結果その 2</電子データファイル内容>
    <その他コメント>2 個あるうちの 2</その他コメント>
  </その他電子情報>

  <その他電子情報>
    <電子データファイル名>B14_0001.JPG</電子データファイル名>
    <電子データ用ソフトウェア名>ボアホール画像管理システム Ver. 1.20</電子データ用ソフトウェア名>
    <電子データファイル内容>ボアホール写真</電子データファイル内容>
    <その他コメント>横孔連続写真もあり</その他コメント>
  </その他電子情報>

  <ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</OTHERFILES>
```

付属資料5 ボーリング交換用データ

1 ボーリング交換用データの記入項目

1-1 ボーリング交換用データのデータ様式

ボーリング交換用データのデータ様式を次に示す。

表 1-1 ボーリング交換用データのデータ様式

様式番号	入力項目	様式番号	入力項目
0	基礎情報	L	試料採取
A	標題情報	N	地盤材料の工学的分類
B	工学的地質区分名・現場土質名	01	地質時代区分
C	色調区分	02	地層・岩体区分
D1	観察記事	P	孔内水位
D2	観察記事枠線	Q1	削孔工程
E1	標準貫入試験	Q2	孔径・孔壁保護
E2	標準貫入試験詳細データ	Q3	削孔速度
E3	ルジオン試験	Q4	コアチューブ・ビット
E4	ルジオン試験詳細データ	Q5	給圧
F	相対密度・相対稠度	Q6	回転数
G1	硬軟区分	Q7	送水条件
G1S	硬軟区分判定表	R	断層・破砕帯区分
G2	ボーリングコア形状区分	S1	コア採取率
G2S	ボーリングコア形状区分判定表	S2	最大コア長
G3	割れ目の状態区分	S3	RQD
G3S	割れ目の状態区分判定表	S4	コア質量
G4	風化の程度区分	T1	岩級区分
G4S	風化の程度区分判定表	T1S	岩級区分判定表
G5	熱水変質の程度区分	U1	保孔管
G5S	熱水変質の程度区分判定表	U2	計測機器
G6	破砕度	V1	トレーサーによる地下水流動層検層
G6S	破砕度判定表	V2	トレーサーによる地下水流動層検層 詳細データ
H	孔内载荷試験	V3	トレーサーによる地下水流動層検層 判定結果
I	ボーリング孔を利用した透水試験	Y	備考
J	弾性波速度検層	Z	フリー情報
K	その他の原位置試験		

1-2 ボーリング交換用データの記入項目

ボーリング交換用データの記入項目を次に示す。

表 1-2 ボーリング交換用データの記入項目

様式	様式名	記入項目		単位	形式
0	基礎情報	適用規格		－	文字
		公開フラグ	コード	－	コード
			備考	－	備考
A	標題情報	調査基本情報	事業・工事名	－	文字
			調査名	－	文字
			調査目的	－	コード
			調査対象	－	コード
			ボーリング名	－	文字
			ボーリング総数	－	整数
			ボーリング連番	－	整数
		経度緯度情報	経度一度	度	整数
			経度一分	分	整数
			経度一秒	秒	実数
			緯度一度	度	整数
			緯度一分	分	整数
			緯度一秒	秒	実数
			取得方法コード	－	コード
			取得方法説明	－	文字
			読み取り精度	－	コード
			測地系	－	コード
		ローカル座標	座標定義	－	文字
			座標値	－	文字
		調査位置	調査位置住所	－	文字
			メッシュコード1次	－	コード
			メッシュコード2次	－	コード
			メッシュコード3次	－	コード
		発注機関	名称	－	文字
			テクリスコード	－	コード
		調査期間	開始年	年	整数
			開始月	月	整数
			開始日	日	整数
			終了年	年	整数
			終了月	月	整数
			終了日	日	整数
		調査会社	名称	－	文字
			電話番号	－	文字
			主任技師／管理技術者氏名	－	文字
			主任技師／管理技術者地質調査技士登録番号	－	文字
			現場代理人／氏名		文字
			現場代理人／地質調査技士登録番号		文字
			コア鑑定者 氏名	－	文字

様式	様式名	記入項目		単位	形式
			コア鑑定者／地質調査技士登録番号		文字
			ボーリング責任者 氏名	-	文字
			ボーリング責任者 地質調査技士登録番号	-	文字
			電子納品管理者 氏名	-	文字
			電子納品管理者 地質情報管理士登録番号	-	文字
		ボーリング基本情報	孔口標高	m	実数
			総削孔長	m	実数
			柱状図様式の種類	-	コード
			角度	度	実数
			方向	度	実数
			地盤勾配	度	実数
A	標題情報	試錐機	名称	-	文字
			能力	m級	整数
			方法	-	コード
		エンジン	名称	-	文字
			能力	-	整数
			単位	-	文字
		ポンプ	名称	-	文字
			能力	-	整数
			単位	-	文字
		櫓種類	コード	-	コード
			名称	-	文字

様式	様式名	記入項目		単位	形式
B	工学的地質区分名・現場土質名	下端深度		m	実数
		工学的地質区分名・現場土質名		-	文字
		工学的地質区分名・現場土質名		-	文字
		岩石群コード		-	コード
		岩石・土コード	岩相	-	コード
			岩石	-	コード
			変成岩岩相	-	コード
			変成岩岩石	-	コード
C	色調区分	下端深度		m	実数
		色調名		-	文字
D1	観察記事	上端深度		m	実数
		下端深度		m	実数
		記事		-	文字
D2	観察記事枠線	枠線下端深度		m	実数
E1	標準貫入試験	開始深度		m	実数
		0～100mm打撃回数		回	整数
		0～100mm貫入量		mm	整数
		100～200mm打撃回数		回	整数
		100～200mm貫入量		mm	整数
		200～300mm打撃回数		回	整数
		200～300mm貫入量		mm	整数

E2	標準貫入試験 詳細データ	合計打撃回数		回	整数
		合計貫入量		mm	整数
		備考		-	文字
		開始深度		m	実数
		打撃	打撃回数	回	整数
			貫入量	mm	整数
			累積貫入量	mm	整数
			備考	-	文字

様式	様式名	記入項目		単位	形式
E3	ルジオン試験	ルジオン試験番号		-	整数
		試験深度	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		圧力管理方法	コード	-	コード
			方法	-	
		圧力最大スケール(Pmax)		MPa	実数
		注入量最大スケール(Qmax)		L/min/m	実数
		圧力開始点(Psta)		MPa	実数
		注入量開始点(Qsta)		L/min/m	実数
		ルジオン値区分		-	コード
		ルジオン値・換算ルジオン値		L/min/m	実数
		限界圧力		MPa	実数
E4	ルジオン試験詳細 データ	ルジオン試験番号		-	整数
		有効圧力		MPa	実数
		注入量		L/min/m	実数
F	相対密度 ・相対稠度	下端深度		m	実数
		相対密度	コード	-	コード
			状態	-	文字
		相対稠度	コード	-	コード
			状態	-	文字
G1S	硬軟区分判定表	コード		-	コード
		記号		-	文字
		区分		-	文字
		説明		-	文字
G1	硬軟区分	下端深度		m	実数
		硬軟区分		-	コード
G2S	ボーリングコア形 状区分判定表	コード		-	コード
		記号		-	文字
		区分		-	文字
		説明		-	文字
G2	ボーリングコアの 形状区分	下端深度		m	実数
		ボーリングコアの形状区分		-	コード
G3S	割れ目の状態区分 判定表	コード		-	コード
		記号		-	文字
		区分		-	文字
		説明		-	文字
G3	割れ目の状態区分	下端深度		m	実数
		割れ目の状態区分		-	コード

様式	様式名	記入項目		単位	形式
G4S	風化の程度区分判定表	コード		-	コード
		記号		-	文字
		区分		-	文字
		説明		-	文字
G4	風化の程度区分	下端深度		m	実数
		風化の程度区分		-	コード
G5S	熱水変質の程度区分判定表	コード		-	コード
		記号		-	文字
		区分		-	文字
		説明		-	文字
G5	熱水変質の程度区分	下端深度		m	実数
		熱水変質の程度区分		-	コード
G6S	破碎度判定表	項目名			文字
		判定	コード		コード
			記号		文字
			説明		文字
G6	破碎度	上端深度		m	実数
		下端深度		m	実数
		破碎度区分		-	コード
H	孔内載荷試験	試験深度		m	実数
		試験方法	コード	-	コード
			方法	-	文字
		積荷パターン		-	文字
		試験結果	初期圧	kN/m ²	実数
			降伏圧	kN/m ²	実数
			変形係数	kN/m ²	実数
			割線弾性係数	kN/m ²	実数
			接線弾性係数	kN/m ²	実数
I	ボーリング孔を利用した透水試験	試験深度	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		試験方法	コード	-	コード
			方法	-	文字
		透水係数		cm/s	実数
J	弾性波速度検層	P波試験	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
			起振方式	-	文字
			速度	m/s	整数
		S波試験	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
			起振方式	-	文字
			速度	m/s	整数
K	その他の 原位置試験	試験名		-	文字
		試験深度	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		試験結果等		-	文字
L	試料採取	採取深度	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		試料番号		-	文字

		採取方法	コード	-	コード
			採取方法	-	文字
		試験名		-	文字

様式	様式名	記入項目		単位	形式
N	地盤材料の工学的分類	下端深度		m	実数
		地盤材料の工学的分類記号		-	文字
01	地質時代区分	上端深度		m	実数
		下端深度		m	実数
		地質時代名		-	文字
		形成年代上限		-	コード
		形成年代下限		-	コード
		変成年代上限		-	コード
		変成年代下限		-	コード
02	地層・岩体区分	上端深度		m	実数
		下端深度		m	実数
		地層名		-	文字
P	孔内水位	測定年月日	年	年	整数
			月	月	整数
			日	日	整数
		削孔状況	コード	-	コード
			状況	-	文字
		孔内水位		m	実数
		水位種別・備考	文字	-	文字
			備考	-	文字
Q1	削孔工程	測定年月日	年	年	整数
			月	月	整数
			日	日	整数
		削孔深度		m	実数
		ケーシング下端深度		m	実数
Q2	孔径・孔壁保護	下端深度		m	実数
		孔径		mm	整数
		孔壁保護	コード	-	コード
			保護方法	-	文字
Q3	削孔速度	削孔速度		cm/h	整数
		下端深度		m	実数
		給圧		MPa	整数
Q4	コアチューブ・ビット	下端深度		m	実数
		コアチューブ名		-	文字
		ビット名		-	文字
Q5	給圧	下端深度		m	実数
		給圧		MPa	整数
Q6	回転数	下端深度		m	実数
		回転数		rpm	整数
Q7	送水条件	下端深度		m	実数
		送水圧		MPa	整数
		送水量		L/min	整数
		排水量		L/min	整数
		送水種類	コード	-	コード
			送水種類	-	文字

様式	様式名	記入項目		単位	形式
R	断層・破砕帯区分	上端深度		m	実数
		下端深度		m	実数
		性状	コード	-	コード
			性状	-	文字
		備考		-	文字
S1	コア採取率	下端深度		m	実数
		コア採取率		%	整数
S2	最大コア長	下端深度		m	実数
		最大コア長		cm	整数
S3	RQD	下端深度		m	実数
		RQD		%	整数
S4	コア質量	下端深度		m	実数
		コア質量		Kg	実数
T1S	岩級区分判定表	項目名			文字
		判定	コード	-	コード
			記号		文字
			説明	-	文字
T	岩級区分	下端深度		m	実数
		岩級区分		-	コード
U1	保孔管	下端深度		m	実数
		種別		-	コード
		備考		-	文字
U2	計測機器	設置区間	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		機器種別		-	文字
		備考		-	文字
V1	トレーサーによる地下水流動層検層	地下水流動層検層番号		-	整数
		検層区間	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		削孔深度		m	実数
		孔内水位		m	実数
		検層方法		-	コード
		電解質溶液濃度		%	実数
		測定時間		分	文字
V2	トレーサによる地下水流動層検層詳細データ	地下水流動層検層番号		-	整数
		測定深度		m	実数
		比抵抗値	投入前	$\Omega \cdot m$	整数
			投入直後	$\Omega \cdot m$	整数
			各経過時間	$\Omega \cdot m$	整数
V3	トレーサによる地下水流動層検層判定結果	区間	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		地下水流動層検層結果		-	文字
Y	備考	タイトル		-	文字
		区間	上端深度	m	実数
			下端深度	m	実数
		備考内容		-	文字
Z	フリー情報			-	文字

2 ボーリング交換用データの記入方法

2-1 0 様式：基礎情報

基礎情報には次の項目を記入する。

- ・適用規格
- ・公開フラグ

【解説】

(1) 適用規格

電子成果物の作成で適用した岩石・土コード及び地質時代コードの基となる規格名称を制定または改正年次も含めて記入する。

本要領では、J I S 規格から引用する形で岩石・土コード、地質時代コードを定めているが、将来において、基となった J I S 規格が改定された場合、複数のコード体系が存在することになり、ソフトウェアなどによるデータ入出力時に障害が発生する可能性がある。

適用したコード体系の情報を将来にわたり保持し、ソフトウェアなどによるデータの再現性を担保するため、基となった規格名称をデータとともに XML ファイルに記入する方針とした。

本要領に従い、電子成果物を作成した場合は、「JIS A 0205-2012」、「JIS A 0206-2013」を記入する。

例：JIS A 0205-2012、JIS A 0206-2013 →

JIS A 0205-2012
JIS A 0206-2013

(2) 公開フラグ

外部公開の可否を表 2-1 から選択し、コードで記入する。外部公開不可の場合は、その理由を備考欄に必ず記入する。

例：公開可の場合 →

1	
---	--

例：公開不可の場合 →

0	ルート選定段階のため
---	------------

表 2-1 公開可否コード

コード	方 法
0	公開不可
1	公開可

2-2 A 様式: 標題情報

ボーリング柱状図に含まれる標題情報は、A 様式に定める項目を記入する。

【解説】

標題情報は、個々のボーリングの一般的事項を整理・登録するもので、データベースから必要な情報を取り出す際に重要な役割を持つ、いわばインデックス部にあたる。

(1) 事業・工事名(文字)

事業名または工事名を記入する。記入に当たっては、記号などを省略してはならない。

例:〇〇農政局〇〇〇〇事業 →

〇〇農政局〇〇〇〇事業

(2) 調査名(文字)

調査件名を記入する。記入に当たっては、記号などを省略してはならない。

例:〇〇幹線用水路地質調査業務 →

〇〇幹線用水路地質調査業務

(3) 調査目的・調査対象(コード)

ボーリング調査目的、調査対象を、コードで記入する。

調査目的を表 2-2 から選択し、コードで記入する。

例：用水路（管水路） →

6 5

調査対象を表 2-3 から選択し、コードで記入する。

例：地下水路 →

0 8

表 2-2 調査目的コード表

コード	目 的
51	測量
52	かんがい事業計画
53	排水事業計画
54	ほ場整備事業計画
55	農地再編開発事業計画
56	農道整備事業計画
57	地域農業開発計画
58	農村整備事業計画
59	農地防災事業計画
60	土地改良施設管理事業計画
61	ほ場整備設計
62	農地造成
63	農道
64	用水路（開水路）
65	用水路（管水路）
66	排水路
67	畑地かんがい

表 2-3 調査対象コード表

コード	目 的
01	構造物基礎
02	舗装路盤(道路路盤・空港路盤)
03	鉄道路盤
04	トンネル・地下空洞
05	橋梁・高架
06	ダム・溜池
07	地上水路
08	地下水路
09	護岸
10	砂防
11	掘削・掘削のり面
12	盛土・埋立て盛土のり面
13	地すべり・斜面崩壊
14	環境
15	地盤沈下
16	地震・耐震
17	水資源調査

68	頭首工
69	ため池
70	用水機場
71	排水機場
72	集落排水
73	農村環境整備
74	干拓・埋立て
75	農業用ダム
76	トンネル
77	橋梁
78	機械設備
79	電気・通信設備
80	情報処理システム
81	土構造／防災
82	営農飲雑用水
83	地質／土質
84	環境調査・解析・保全
85	水文・水利
86	ダム
99	その他

18	地熱温泉調査
19	資源調査
20	岩石(土)材料調査
22	自然斜面
99	その他

(4) ボーリング名(文字)

調査現場におけるボーリング名を記入する。

例:現場で使用したボーリング名が“B-2”であった場合 →

B-2

(5) ボーリング本数

当該調査のボーリング本数について、次の項目を記入する。

1) ボーリング総数(整数)

当該調査のボーリングの総本数を記入する。

例:当該調査のボーリングの総本数が10本の場合 →

		1	0
--	--	---	---

2) ボーリング連番(整数)

ボーリング総数に対するボーリングの通し番号を記入する。ボーリング総数が10本の場合は、1～10の範囲で記入する。

例:1本目のボーリングの場合 →

			1
--	--	--	---

(6) 経度・緯度

当該調査の経度・緯度に関する次の事項について記入する。

1) 経度(整数・実数)

ボーリング孔口の経度を記入する。小数点以下の精度は、必要に応じて1/10～1/10,000

の範囲とする。

例：135 度 49 分 58.2 秒の場合(小数点以下の秒精度 1 桁の場合) →

1	3	5	4	9	5	8	.	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例：135 度 49 分 58.2345 秒の場合(小数点以下の秒精度 4 桁の場合) →

1	3	5	4	9	5	8	.	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2) 緯度(整数・実数)

ボーリング孔口の緯度を記入する。小数点以下の精度は、必要に応じて 1/10～1/10,000 の範囲とする。

例:34 度 59 分 53.2 秒の場合(小数点以下の秒精度 1 桁の場合) →

3	4	5	9	5	3	.	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例:34 度 59 分 52.2345 秒の場合(小数点以下の秒精度 4 桁の場合) →

3	4	5	9	5	2	.	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

3) 取得方法(コード・文字)

経度・緯度の取得方法を表 2-4 から選択し、コードで記入する。また、必要に応じて、取得方法に関する補足説明を記入する。

例：測量により経緯度を取得した場合 →

0	1	許容範囲 30"
---	---	----------

例：経度・緯度を地形図で読み取って取得した場合 →

0	2	1/1,000 地形図を 0.1mm 単位で読み取り
---	---	----------------------------

例:ディファレンシャル GPS(仮想基準点方式)の GPS システムで経緯度を取得した場合 →

0	3	ディファレンシャル GPS(仮想基準点方式)
---	---	------------------------

表 2-4 経度・緯度取得方法コード

コード	方 法
01	測量(GPS 測量含む)
02	地形図読み取り
03	単独測位 GPS システム
09	その他の方法・不明

注) コード「01」の GPS 測量は農林水産省測量作業規程の他、公共測量作業規程等に基づき実施した場合。

市販の単独 GPS システムを用いた場合、コード「03」を記入する。

4) 経度・緯度の読み取り精度(コード)

経度・緯度の読み取り精度を表 2-5 から選択し、コードで記入する。

なお、取得方法で「03: 単独測位 GPS システム」を選択した場合、読み取り精度は必ず「0: 整数部まで」を記入する。

例：秒の精度が 1/10 秒までの場合 →

1

表 2-5 経緯度の読み取り精度コード

入力値 (コード)	秒の精度
0	整数部まで
1	1/10 秒(約 3m)まで (小数部 1 桁)
2	1/100 秒(約 30cm)まで (小数部 2 桁)
3	1/1,000 秒(約 3cm)まで (小数部 3 桁)
4	1/10,000 秒(約 3mm)まで (小数部 4 桁)

例として、1/2.5 万の地形図での読み取り精度を示す。

日本は南北に細長く、北海道と九州では 1 秒当たりの長さが若干異なるが、関東付近では緯度の 1 秒が 1/2.5 万の地形図上で 1.23mm、経度の 1 秒が 1/2.5 万の地形図上で 1.01mm に相当する。したがって、1/2.5 万地形図上で 1mm 精度で位置情報を取得した場合には、経度・緯度はそれぞれ 0.99 秒、0.81 秒となり、整数部までの精度しか確保できないことが分かる。この場合は、コード“0”を入力する。

同様の考えで、表2-6 に図面縮尺と、地形図上で 1mm 単位で位置情報を取得した場合の読み取り精度の関係を示す。読み取りの際に 1mm 以上の精度が確保できる場合には、1mm との比率によって、精度を再算定する必要がある。

表 2-6 図面縮尺と読み取り精度の関係

図面縮尺	地形図上における 1 秒当たりの長さ(mm)		1mm の秒数		1mm 単位で位置情報を 取得した場合の精 度
	経度	緯度	経度	緯度	
1/25,000	1.01 mm	1.23 mm	0.99	0.8	整数部まで (コード:0)
1/10,000	2.51 mm	3.08 mm	0.40	0.3	
1/5,000	5.03 mm	6.16 mm	0.20	0.1	
1/2,500	10.05 mm	12.32 mm	0.10	0.08	1/10 まで (コード:1)
1/1,000	25.13 mm	30.81 mm	0.040	0.03	
1/500	50.26 mm	61.62 mm	0.020	0.01	
1/250	100.51 mm	123.24 mm	0.0099	0.0081	1/100 まで (コード:2)

注) 地形図上での 1 秒当たりの長さは関東付近を対象とした値

5) 測地系(コード)

測地系を表 2-7 から選択し、コードで記入する。

例:世界測地系 (JGD2011) →

0	2
---	---

表 2-7 測地系コード

コード	地測系
00	日本測地系
01	世界測地系 (JGD2000)
02	世界測地系 (JGD2011)

(7) ローカル座標 (文字)

事業単位・施工単位での独自の座標を使用する場合、ローカル座標の座標定義、座標値を記入する。座標定義は任意に設定可能であり、必要な項目分だけ繰返し記入を行う。

例: X=3000.000, Y=4000.000, DL.=50.00 の場合 →

X	3000.000
Y	4000.000
DL.	50.00

例: STA 100+10m R2.0 (上り) の場合 →

ST1	100
ST2	10
STD	R2.0
上下線	上り

(8) 調査位置

1) 名称 (文字)

調査現場の住所・位置名称を記入する。

ボーリング孔口位置の地名について都道府県、郡、市町村、地区名、番地を記入する。地すべりボーリングの場合は、地すべりブロック名を括弧書きで記入する。

例: ○○県○○郡○○町字○○ →

○○県○○郡○○町字○○

例: 地すべりブロック名を記入する場合 →

○○県○○郡○○町字○○ (○○ブロック)

2) メッシュコード (コード)

ボーリング孔口の標準メッシュコード^(*)を記入する。

標準メッシュには、1/20 万地勢図の大きさに相当する第 1 次地域区画 (1 次コード)、1/2.5 万地形図の大きさに相当する第 2 次地域区画 (2 次コード)、及び第 2 次地域区画を縦横 10 等分した第 3 次地域区画 (3 次コードあるいは基準メッシュ) がある。

例: 東経 139° 40' 19.6"、北緯 35° 52' 02.1" の場合

1 次メッシュ: 5339、2 次メッシュ: 65、3 次メッシュ: 43 →

5	3	3	9	6	5	4	3
---	---	---	---	---	---	---	---

(※1) 出典先：統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード
(昭和 48 年 7 月 12 日 行政管理庁 公示 143 号)

(9) 発注機関

1) 名称(文字)

設計図書に示されている発注機関事業(務)所の名称を記入する。

例：〇〇農政局〇〇〇〇事業所 →

〇〇農政局〇〇〇〇事業所

2) テクリスコード

テクリスコードについて農林水産省では、発注者が定める「発注機関コード」を記入する。
なお、発注機関コードは、農林水産省ホームページで閲覧が可能である。

(農林水産省HP→

http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/sonota.html)

例：北陸農政局土地改良技術事務所 →

0 3 0 0 6 0 0 7

(10) 調査期間(整数)

ボーリング削孔の開始から終了までの期日を年・月・日で記入する。

例：自)2019 年 5 月 1 日～至)2019 年 5 月 20 日 →

1 9 9 9 年 0 5 月 0 1 日 ～ 1 9 9 9 年 0 5 月 2 0 日

(11) 調査会社(文字)

調査会社名・電話番号・主任技師・現場代理人・コア鑑定者・ボーリング責任者・電子納品管理者（電子納品要領に則り、データが作成、チェックされていることを確認する者）を省略せずに記入する。主任技師、現場代理人、コア鑑定者、ボーリング責任者の各々が地質調査技士の資格保有者であれば、登録番号を併記する。電子納品管理者が地質情報管理士の資格保有者であれば、登録番号を併記する。

例：調査会社名 株式会社〇〇コンサルタンツ →

株式会社〇〇コンサルタンツ

例：電話番号 012-3455-6789 →

012-3455-6789

例：主任技師 地質一郎 →

地質一郎

例：地質調査技士登録番号 第 54321 号 →

54321

(12) 基本情報

1) 孔口標高(実数)

孔口標高を記入する。標高基準は、T.P.(東京湾平均海面:トーキョーペール)を使用する。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。標高がプラスの場合は+符号を省略するが、マイナスの時は、1桁目に－符号を入れて記入する。参

例:T.P. +0.23m →

			0	.	2	3
--	--	--	---	---	---	---

2) 総削孔長(実数)

最終深度を入力する。最終深度での標準貫入試験による貫入量は総削孔長に含めない。また、オールコアボーリングの場合の余堀についても総削孔長に含めない。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例:総削孔長 23m →

	2	3	.	0	0
--	---	---	---	---	---

3) 柱状図様式の種類(コード)

ボーリング柱状図の出力様式の種類を表 2-8 から選択し、コードを記入する。

例:土質ボーリング柱状図様式(オールコアボーリング用) →

11

表 2-8 ボーリング柱状図様式の種類

コード	様式の種類	備考
11	土質ボーリング柱状図様式 (オールコアボーリング用)	
12	土質ボーリング柱状図様式 (標準貫入試験用)	
21	岩盤ボーリング柱状図様式	
31	地すべりボーリング柱状図様式 (オールコアボーリング用)	
32	地すべりボーリング柱状図様式 (標準貫入試験用)	
99	その他(上記以外)	

4) 角度・方位(実数)

ボーリングの削孔方向の角度・方位を記入する。

角度は鉛直下方を0度、鉛直上方を180度とする。方位は真北から右回り(時計回り)の方位角度で記入する。北は0度、南は180度とする。角度・方位ともに単位は度とし、小数点以下2桁まで記入する。

例:角度15度、方位10度の場合 →

	1	5	.	0	0		1	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

5) 地盤勾配(実数)

ボーリング地点の地盤の勾配を記入する。単位は度とし、小数点以下2桁まで記入する。

例:地盤の勾配が 15 度の場合 →

	1	5	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(13) 試錐機

試錐機について、次の項目を記入する。

1) 名称(文字)

試錐機の名称を記入する。

例:○○○○→

○	○	○	○
---	---	---	---

2) 能力(整数)

試錐機的能力について記入する。単位は m 級とする。

例:150m 級の場合 →

	1	5	0
--	---	---	---

3) 方法(コード)

削孔方法を表 2-9 より選択し、コードで記入する。

例:ケーシング方式 →

1

表 2-9 削孔方法コード

コード	方法
1	ケーシング方式
2	コアチューブ方式
3	両者併用
9	その他

(14) エンジン

エンジンについて、次の項目を記入する。

1) 名称(文字)

エンジンの名称を記入する。

例:△△△△ →

△	△	△	△
---	---	---	---

2) 能力(整数)

エンジンの能力を記入する。

例:10PS の場合 →

		1	0
--	--	---	---

3) 単位(文字)

エンジンの能力の単位を記入する。

例:10PS の場合 →

PS

(15) ポンプ

ポンプについて、次の項目を記入する。

1) 名称(文字)

ポンプの名称を記入する。

例:××× →

×××

2) 能力(整数)

ポンプの能力を記入する。

例:ポンプ容量 120 L/min の場合 →

1 2 0

3) 単位(文字)

ポンプの能力の単位を記入する。

例:ポンプ容量 120 L/min の場合 →

L/min

(16) 櫓種類 (コード)

海上・水上ボーリングの場合、櫓種類のコードを記入する。その他の場合はコード：9とし、名称を併せて記入する。

例：農地等 →

9

農地等

表 2-10 櫓の種類コード

コード	方法
1	海上鋼製櫓
2	海上木製櫓
3	陸上
4	台船
9	その他

2-3 B 様式：工学的地質区分名・現場土質名

ボーリング柱状図に含まれる工学的地質区分名・現場土質名情報は、B 様式に定める項目を入力する。

B様式: 工学的地質区分名・現場土質名																
下端深度(m)					工学的地質区分名・現場土質名	工学的地質区分名・現場土質名記号	岩石群1	岩相1-1	岩石1-1	変成岩岩相1-1	変成岩岩石1-1	岩相1-2	岩石1-2	変成岩岩相1-2	変成岩岩石1-2	...
		1	.	8 0	埋土(砂)	FI	1	599200002	531211000							
		3	.	0 0	シルト質砂	SM	1		531231030							
		7	.	4 0	シルト混じり砂	S-M	1		531213003							
1	0	.	6 0	シルト質砂	SM	1		531231030								
2	2	.	4 5	シルト	M	1		532110000								
2	3	.	7 0	粘性土	C	1		532100000								
2	4	.	5 5	シルト混じり砂	S-M	1		531213003								
2	7	.	9 5	砂・シルト互層	S.M	2		531211000				532110000				
3	0	.	1 5	礫	G	1		531111000								
3	2	.	1 5	軟岩	WR	1		999010004								

【解説】

B 様式は工学的地質区分名・現場土質名、記号、岩石群を示すコード、岩石・土を示すコードを記入する。

(1) 下端深度(実数)

工学的地質区分名・現場土質名を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。最終深度で標準貫入試験を行った場合は、貫入量を含んだ深度とする。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 工学的地質区分名・現場土質名(文字)

ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説に従って、判定結果を文字で記入する。互層の場合は工学的地質区分名・現場土質名を優勢な順に並べる。

工学的地質区分名・現場土質名は、形容詞句を付けて表現してもかまわない。

例: 礫混じり砂質シルト →

工学的地質区分名・現場土質名

礫混じり砂質シルト

例：砂・粘土互層 →

工学的地質区分名・現場土質名

砂・粘土互層

例：中硬岩 →

工学的地質区分名・現場土質名

中硬岩

例：粗粒花崗岩（粒度に関する形容詞句を付加した場合） →

工学的地質区分名・現場土質名

粗粒花崗岩

例：普通輝石紫蘇輝石安山岩（鉱物に関する形容詞句を付加した場合） →

工学的地質区分名・現場土質名

普通輝石紫蘇輝石安山岩

例：混在岩 →

工学的地質区分名・現場土質名

混在岩

例：砂岩・頁岩互層（砂岩優勢互層の場合） →

工学的地質区分名・現場土質名

砂岩・頁岩互層

(3) 工学的地質区分名・現場土質名記号(文字)

工学的地質区分名・現場土質名に対応する記号を記入する。

記号はボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領（案）・同解説を参考に、現場の地質状況などを考慮し、自由に設定してもかまわない。記号を新設する場合は、大文字アルファベット「A～Z」、小文字アルファベット「a～z」、数字「0～9」、ハイフン「-」、アンダースコア「_」の組み合わせとし、先頭は必ずアルファベットを使用する。

例：砂・粘土互層 →

記号

S_CH

例：砂岩を細分する場合 →

記号

Ss1

Ss2

例：粗粒花崗岩（粒度に関する形容詞句を付加した場合） →

記号

CGr

例：普通輝石紫蘇輝石安山岩（鉱物に関する形容詞句を付加した場合） →

記号

av - hy - An

(4) 岩石群(コード)

単一の岩石からなる地質体、互層・混在岩など分ち難い複数の岩石種からなる地質体の区分として、表 2-11 の岩石群コードを記入する。

表 2-11 岩石群を示すコード表

岩石群名	コード
単一種の岩石	1
互層	2
混在岩	3

(5) 工学的地質区分名・現場土質名コード

1) タグとコードの関係

岩石・土を示すコードを、堆積岩岩石コード、堆積岩岩相コード、火成岩岩石コード、火成岩岩相コード、変成岩岩石コード、変成岩岩相コード、土コード、その他（岩石）コード、その他（岩相）コードから選択し、記入する。

コードの記入項目は、岩相タグ、岩石タグ、変成岩岩相タグ、変成岩岩石タグから構成されるが、各タグに記入するコードを次に示す。

- ・岩相タグには、堆積岩岩相コード、火成岩岩相コード、またはその他（岩相）コードを記入する。
- ・岩石タグには、堆積岩岩石コード、火成岩岩石コード、土コード、またはその他（岩石）コードを記入する。
- ・変成岩岩相タグには、変成岩岩相コードを記入する。
- ・変成岩岩石タグには、変成岩岩石コードを記入する。

岩相タグ、岩石タグ、変成岩岩相タグの各タグには、コードを併記してもよい。

例 1：泥岩（沖浜堆積物）の場合、岩相タグに沖浜堆積物、岩石タグに泥岩のコードをそれぞれ記入する。

例 2：安山岩溶岩の場合、岩相タグに溶岩、溶岩タグに安山岩のコードをそれぞれ記入する。

例 3：泥質片岩の場合、岩石タグに泥岩、変成岩岩石タグに片岩のコードをそれぞれ記入する。

さらに、互層、混在岩の場合は、岩相タグ、岩石タグ、変成岩岩相タグ、変成岩岩石タグを1セットとして、岩石・土コードを繰り返し記入することができる。

例：砂岩泥岩互層 →

項目	コード	コードの意味
岩石群 1	2	互層
岩相 1-1	(省略)	—
岩石 1-1	111200002	砂岩
変成岩岩相 1-1	(省略)	—
変成岩岩石 1-1	(省略)	—
岩相 1-2	134700000	沖浜堆積物
岩石 1-2	111300002	泥岩

例：安山岩溶岩 →

項目	コード	コードの意味
岩石群 1	1	単一種の岩石
岩相 1-1	240000000	溶岩
岩石 1-1	221141000	安山岩
変成岩岩相 1-1	(省略)	—
変成岩岩石 1-1	(省略)	—

例：泥質片岩 →

項目	コード	コードの意味
岩石群 1	1	単一種の岩石
岩相 1-1	(省略)	—
岩石 1-1	111300002	泥岩
変成岩岩相 1-1	(省略)	—
変成岩岩石 1-1	311010000	片岩

2) 土質・岩盤・地すべりボーリングにおける留意点

土質ボーリング、岩盤ボーリング、地すべりボーリングにおける留意点を次に示す。

【土質ボーリング】

土質ボーリングでは、原則として、土、その他（岩石）、その他（岩相）コードから未固結なものを示すコードを用いる。

土質ボーリングにおける岩盤の記載は、その他（岩石）コードから硬岩、中硬岩、軟岩、風化岩のコードを選択し、名称は「D1 様式：観察記事」に記載することを原則とするが、必要に応じて堆積岩岩石、堆積岩岩相、火成岩岩石、火成岩岩相、変成岩岩石、変成岩岩相、その他（岩石）、その他（岩相）コードから固結した岩石を示すコードを用いてもよい。

【岩盤ボーリング】

岩盤ボーリングでは、原則として、堆積岩岩石、堆積岩岩相、火成岩岩石、火成岩岩相、変成岩岩石、変成岩岩相、その他（岩石）、その他（岩相）コードから固結した岩石を示すコードを用いる。

岩盤ボーリングにおける土の記載は、土、その他（岩石）、その他（岩相）コードから未固結なものを示すコードを用いる。

【地すべりボーリング】

地すべりボーリングでは、未固結部分は、土、その他（岩石）、その他（岩相）コードから未固結なものを示す分類コード、または堆積岩岩相コードを用いる。固結部分は、堆積岩岩石、堆積岩岩相、火成岩岩石、火成岩岩相、変成岩岩石、変成岩岩相、その他（岩石）、その他（岩相）コードから固結した岩石を示すコードを用いる。

3) コード

堆積岩岩石コード、堆積岩岩相コード、火成岩岩石コード、火成岩岩相コード、変成岩岩石コード、変成岩岩相コード、土のコード、その他（岩石）コード、その他（岩相）コードは、JIS A 0205、JIS A 0206 による。

表 2-12～表 2-20 に主なコードを示すが、本要領のコード表にないものについては、JIS A 0205、JIS A 0206 で定められているコードを用いてもよい。

コードに関する留意点を次に示す。

- (a) ボーリング変換用データは、「工学的地質区分名・現場土質名」の文字データを利用して、データ変換を行うことを基本とする。「コード」は地盤の統一的な分類を行うために付与するものである。
- (b) 粗粒花崗岩、風化花崗岩など、形容詞句を付けて岩石・土名を表現した場合、形容詞句を抜いた名称に対応するコードを選択する。（例：粗粒花崗岩、風化花崗岩の場合、花崗岩のコード「2191222000」を選択する。）
- (c) コード表にない岩石・土の場合、コード「999999999」を用い、「D1 様式：観察記事」欄に詳細を記入する。ただし、コード表にある岩石・土に形容詞句を付加し細分する場合や、現場におけるフィールドネームなど別称を用いる場合などは、コード「999999999」を使用してはいけない。

表 2-12 主な堆積岩岩石コード

堆積岩岩石名	コード	備考
礫岩	111101002	
角礫岩	111102002	
巨礫岩	111111002	記号、図模様は礫岩を参考とする
大礫岩	111121002	同上
中礫岩	111131002	同上
細礫岩	111141002	同上
砂岩	111200002	
極粗粒砂岩	111210002	記号、図模様は砂岩を参考とする
粗粒砂岩	111220002	同上
中粒砂岩	111230002	同上

堆積岩岩石名	コード	備考
細粒砂岩	111240002	同上
極細粒砂岩	111250002	同上
泥岩	111300002	
頁岩	111300012	
シルト岩	111400002	
粘土岩	111500002	
礫質砂岩	112190002	
砂質泥岩	112220002	
泥質砂岩	112230002	
砂質シルト岩	113170002	
ワッケ	114200002	
石灰質粘土岩	121005002	
石灰岩	121100002	
ドロマイト	121500002	
チャート	131000002	
褐炭	171120002	
石炭	172300002	

表 2-13 主な堆積岩岩相コード

堆積岩岩相名	コード	備考
崖錐堆積物	111000000	
扇状地堆積物	121000000	
河床堆積物	126100000	
自然堤防堆積物	126200000	
氾濫原堆積物	126300000	
砂丘堆積物	127000000	
湖沼堆積物	128000000	
地すべり堆積物	100061000	
土石流堆積物	100063000	
泥流堆積物	100064000	
タービダイト	100067000	
段丘堆積物	100000400	
付加コンプレックス	100000003	

表 2-14 主な火成岩岩石コード

火成岩岩石名	コード	備考
かんらん岩	219111000	
ダナイト	219111100	
輝石岩	219112000	
角閃石岩	219113000	
花崗岩	219122200	
花崗閃緑岩	219122500	
トーナラル岩	219122600	
閃長岩	219123500	

火成岩岩石名	コード	備考
石英閃緑岩	219124400	
閃緑岩	219124500	
斑れい岩	219125500	
ドレライト	219125503	
流紋岩	221112000	
デイサイト	221121000	
粗面岩	221135000	
安山岩	221141000	
玄武岩	221151000	
フォノライト	221161000	
ベイサナイト	221174000	
粗面玄武岩	221225300	

表 2-15 主な火成岩岩相コード

火成岩岩相名	コード	備考
火山礫	221010400	
火山岩塊	221010500	
火山弾	221016500	
火山碎屑岩	210020000	
火山角礫岩	210020600	
火砕岩	220020000	
アグルチネート	220035000	
アグロメレート	220006000	
凝灰岩	221020300	
軽石質凝灰岩	221024300	
スコリア質凝灰岩	221025300	
火山礫凝灰岩	222020400	
火山礫岩	221020400	
凝灰角礫岩	222020600	
溶結凝灰岩	221030300	
凝灰質泥岩	231020100	
凝灰質シルト岩	231020200	
凝灰質砂岩	231020300	
火山碎屑物	210000000	
火砕降下堆積物	221100010	
火山灰降下堆積物	221100310	
軽石降下堆積物	221104410	
スコリア降下堆積物	221105410	
火砕流堆積物	222100030	
火山灰流堆積物	222100330	
軽石流堆積物	222104030	
スコリア流堆積物	222105030	
溶岩	240000000	記号、図模様は他の溶岩を参考とする
パホイホイ溶岩	240100010	

火成岩岩相名	コード	備考
アア溶岩	240100020	
クリンカー	240100025	
ブロック溶岩	240100030	
塊状溶岩	240100031	記号、図模様は他の溶岩を参考とする
溶岩ドーム	240100034	
流動角礫岩	240100035	
枕状溶岩	240200013	
ハイアロクラスタイト	240210035	

表 2-16 主な変成岩岩石コード

変成岩岩石名	コード	備考
片岩	311010000	
片麻岩	311020000	
グラノフェルス	311030000	
粘板岩	312010000	
千枚岩	312020000	
ホルンフェルス	312030000	
ミグマタイト	312040000	
石英片岩	312050000	
黒色片岩	312060000	
緑色片岩	312070000	
角閃岩	312080000	
エクロジヤイト	312090000	
グラニュライト	312100000	
石灰珪質岩	312110000	
大理石	312120000	
珪岩	312130000	
蛇紋岩	312140000	
スカルン	312150000	
カタクラサイト	322020000	
マイロナイト	322030000	
シュードタキライト	322040000	

表 2-17 変成岩岩相コード

変成岩岩相名	コード	備考
広域変成岩	310000000	
造山変成岩	311000000	
埋没変成岩	312000000	
海洋底変成岩	313000000	
局所変成岩	320000000	

変成岩岩相名	コード	備考
熱変成岩	321000000	
接触変成岩	321100000	
熱水変成岩	321200000	
高温スラブ変成岩	321300000	
変位変成岩	322000000	
衝撃変成岩	323000000	
高 P/T 型変成岩	300010000	
低 P/T 型変成岩	300020000	
中 P/T 型変成岩	300030000	
らんせん石片岩相(青色片岩相)	300001000	
ローソン石・青色片岩相	300001100	
緑れん石・青色片岩相	300001200	
エクロジャイト相	300002000	
ローソン石・エクロジャイト相	300002100	
緑れん石・エクロジャイト相	300002200	
藍晶石・エクロジャイト相	300002300	
角閃石・エクロジャイト相	300002400	
緑色片岩相	300003000	
角閃岩相	300004000	
アルバイト・緑れん石・角閃岩相	300004100	
グラニュライト相	300005000	
ホルンブレンド・グラニュライト相	300005100	
輝石・グラニュライト相	300005200	
準緑色片岩相	300006000	
パンペリー石・アクチノせん石相	300006100	
ぶどう石・アクチノせん石相	300006200	
沸石相	300007000	
輝石ホルンフェルス相	300008000	
サニディナイト相	300009000	

※ JIS A 0205 で規定されている変成岩岩相コードをすべて網羅している。

表 2-18 主な土コード

土名	コード	備考
玉石	510000010	
玉石混じり礫	521111000	注 1
礫質土	531100000	
礫	531111000	
粗礫	531111100	
中礫	531111200	
細礫	531111300	
砂混じり礫	531112000	注 1
砂混じり粗礫	531112100	注 1

土名	コード	備考
砂混じり中礫	531112200	注 1
砂混じり細礫	531112300	注 1
シルト混じり礫	531113003	注 1
粘土混じり礫	531113004	注 1
腐植物混じり礫	531113005	注 1
火山灰混じり礫	531113006	注 1
貝殻混じり礫	531113007	注 1
サンゴ混じり礫	531113008	注 1
シルト混じり粗礫	531113103	注 1
粘土混じり粗礫	531113104	注 1
腐植物混じり粗礫	531113105	注 1
火山灰混じり粗礫	531113106	注 1
貝殻混じり粗礫	531113107	注 1
サンゴ混じり粗礫	531113108	注 1
シルト混じり中礫	531113203	注 1
粘土混じり中礫	531113204	注 1
腐植物混じり中礫	531113205	注 1
火山灰混じり中礫	531113206	注 1
貝殻混じり中礫	531113207	注 1
サンゴ混じり中礫	531113208	注 1
シルト混じり細礫	531113303	注 1
粘土混じり細礫	531113304	注 1
腐植物混じり細礫	531113305	注 1
火山灰混じり細礫	531113306	注 1
貝殻混じり細礫	531113307	注 1
サンゴ混じり細礫	531113308	注 1
砂礫	531120000	
シルト混じり砂礫	531120003	注 1
粘土混じり砂礫	531120004	注 1
腐植物混じり砂礫	531120005	注 1
火山灰混じり砂礫	531120006	注 1
貝殻混じり砂礫	531120007	注 1
サンゴ混じり砂礫	531120008	注 1
砂質礫	531121000	注 1
砂質粗礫	531121100	注 1
砂質中礫	531121200	注 1
砂質細礫	531121300	注 1
シルト質礫	531131030	注 1
粘土質礫	531131040	注 1
有機質礫	531131050	注 1
火山灰質礫	531131060	注 1
シルト質粗礫	531131130	注 1
粘土質粗礫	531131140	注 1
有機質粗礫	531131150	注 1
火山灰質粗礫	531131160	注 1
シルト質中礫	531131230	注 1

土名	コード	備考
粘土質中礫	531131240	注 1
有機質中礫	531131250	注 1
火山灰質中礫	531131260	注 1
シルト質細礫	531131330	注 1
粘土質細礫	531131340	注 1
有機質細礫	531131350	注 1
火山灰質細礫	531131360	注 1
砂質土	531200000	
砂	531211000	
粗砂	531211100	
中砂	531211200	
細砂	531211300	
礫混じり砂	531212000	注 1
礫混じり粗砂	531212100	注 1
礫混じり中砂	531212200	注 1
礫混じり細砂	531212300	注 1
シルト混じり砂	531213003	注 1
粘土混じり砂	531213004	注 1
腐植物混じり砂	531213005	注 1
火山灰混じり砂	531213006	注 1
貝殻混じり砂	531213007	注 1
サンゴ混じり砂	531213008	注 1
シルト混じり粗砂	531213103	注 1
粘土混じり粗砂	531213104	注 1
腐植物混じり粗砂	531213105	注 1
火山灰混じり粗砂	531213106	注 1
貝殻混じり粗砂	531213107	注 1
サンゴ混じり粗砂	531213108	注 1
シルト混じり中砂	531213203	注 1
粘土混じり中砂	531213204	注 1
腐植物混じり中砂	531213205	注 1
火山灰混じり中砂	531213206	注 1
貝殻混じり中砂	531213207	注 1
サンゴ混じり中砂	531213208	注 1
シルト混じり細砂	531213303	注 1
粘土混じり細砂	531213304	注 1
腐植物混じり細砂	531213305	注 1
火山灰混じり細砂	531213306	注 1
貝殻混じり細砂	531213307	注 1
サンゴ混じり細砂	531213308	注 1
礫質砂	531221000	注 1
礫質粗砂	531221100	注 1
礫質中砂	531221200	注 1
礫質細砂	531221300	注 1
シルト質砂	531231030	注 1
粘土質砂	531231040	注 1

土名	コード	備考
有機質砂	531231050	注 1
火山灰質砂	531231060	注 1
シルト質粗砂	531231130	注 1
粘土質粗砂	531231140	注 1
有機質粗砂	531231150	注 1
火山灰質粗砂	531231160	注 1
シルト質中砂	531231230	注 1
粘土質中砂	531231240	注 1
有機質中砂	531231250	注 1
火山灰質中砂	531231260	注 1
シルト質細砂	531231330	注 1
粘土質細砂	531231340	注 1
有機質細砂	531231350	注 1
火山灰質細砂	531231360	注 1
粘性土	532100000	
シルト	532110000	
礫質シルト	532110010	注 1
砂質シルト	532110020	注 1
粘土質シルト	532110040	注 1
有機質シルト	532110050	注 1
火山灰質シルト	532110060	注 1
礫混じりシルト	532110001	注 1
砂混じりシルト	532110002	注 1
粘土混じりシルト	532110004	注 1
腐植物混じりシルト	532110005	注 1
火山灰混じりシルト	532110006	注 1
貝殻混じりシルト	532110007	注 1
サンゴ混じりシルト	532110008	注 1
粘土	532120000	
礫質粘土	532120010	注 1
砂質粘土	532120020	注 1
シルト質粘土	532120030	注 1
有機質粘土	532120050	注 1
火山灰質粘土	532120060	注 1
礫混じり粘土	532120001	注 1
砂混じり粘土	532120002	注 1
シルト混じり粘土	532120003	注 1
腐植物混じり粘土	532120005	注 1
火山灰混じり粘土	532120006	注 1
貝殻混じり粘土	532120007	注 1
サンゴ混じり粘土	532120008	注 1
有機質土	532200000	
火山灰混じり有機質土	532200006	注 1
火山灰質粘性土	532300000	
有機質火山灰	532300050	

土名	コード	備考
高有機質土	533100000	
泥炭	533101000	
黒泥	533102000	
廃棄物	534110100	
瓦礫	534110200	
改良土	534120100	
風化土	540110000	
まさ土	540111000	
赤色土	540112000	
くさり礫	540113000	
火山灰	540120000	
関東ローム	540121000	
黒ぼく	540122000	
あかほや	540123000	
軽石	540130000	
しらす	540131000	
ぼら	540132000	
鹿沼土	540133000	
スコリア	540140000	

注 1) 混じり、質を表現する場合は、図 2-4 補助記号を参考とする。

表 2-19 その他(岩石)コード

その他(岩石)名	コード	備考
砂質岩	199100001	
アルコース	199100002	
グレイワッケ	199100003	
泥質岩	199100004	
斑岩	299100001	記号、図模様は他の斑岩を参考とする
石英斑岩	299100002	
花崗斑岩	299100003	
文象斑岩	299100004	
アプライト	299100005	
花崗閃緑斑岩	299100006	記号、図模様は他の斑岩を参考とする
石英閃緑斑岩	299100007	記号、図模様は他の斑岩を参考とする
ひん岩	299100008	
ペグマタイト	299100009	
珪長岩	299100010	
真珠岩	299100011	
固結シルト	599100001	記号、図模様はシルトを参考とする
固結粘土	599100002	
空洞	999010001	
硬岩	999010002	

その他(岩石)名	コード	備考
中硬岩	999010003	
軟岩	999010004	
風化岩	999010005	
断層岩	999020001	
断層角礫岩	999020002	
断層角礫	999020003	
断層粘土	999020004	
シーム	999010005	
鉍物脈	999030001	記号、図模様は他の鉍物脈を参考とする
石英脈	999030002	
沸石脈	999030003	
緑泥石脈	999030004	記号、図模様は他の鉍物脈を参考とする
方解石脈	999030005	
岩盤	999040001	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
固結した砂	999040002	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
土丹盤	999040003	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
密実なれき層	999040004	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
密実な砂質地盤	999040005	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
砂質地盤	999040006	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
堅い粘土質地盤	999040007	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
粘土質地盤	999040008	建築基準法施行令第93条による地盤の分類
堅いローム層	999040009	建築基準法施行令第93条による地盤の分類

その他(岩石)名	コード	備考
ローム層	999040010	建築基準法施行令第93条による地盤の分類

※ JIS A 0206 で規定されているその他(岩石)コードをすべて網羅している。

表 2-20 その他(岩相)コード

その他(岩相)名	コード	備考
盛土	599200001	
埋土	599200002	
表土	599200003	
崩積土	599200004	
沖積層	999200001	
洪積層	999200002	
破碎帯	999010001	

※ JIS A 0206 で規定されているその他(岩相)コードをすべて網羅している。

2-4 C 様式：色調区分

ボーリング柱状図に含まれる色調情報は、C 様式に定める項目を記入する。

C 様式：色調区分									
下端深度 (m)						色調名			
		1	.	8	0	黄褐			
		3	.	0	0	黒灰			
		7	.	4	0	暗灰			
1	0	.	6	0		暗灰			
2	2	.	4	5		暗緑灰			
2	3	.	7	0		灰～暗灰			
2	4	.	5	5		暗灰			
2	7	.	9	5		淡灰			
3	0	.	1	5		淡灰			

【解説】

(1) 下端深度(実数)

色調で区分される地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

3	0	.	1	5
---	---	---	---	---

(2) 色調名(文字)

ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領（案）・同解説に従って、色調名を文字で記入する。

例: 黄褐 →

黄褐

2-5 D1 様式: 観察記事

ボーリング柱状図に含まれる観察記事情報は、D1 様式に定める項目を記入する。

D1様式: 観察記事														
上端深度 (m)					下端深度 (m)					観察記事				
		0	.	0 0			1	.	8 0	含水量少ない。¥n 木片混入。				
		1	.	8 0			3	.	0 0	含水量多い。¥n 腐植物混入。				
		3	.	0 0			7	.	4 0	含水量多い。¥n 腐植物混入。¥n 部分的に砂を挟む。				
		7	.	4 0		1	0	.	6 0	含水量多い。¥n 所々、腐植物混入。				
	1	0	.	6 0		2	2	.	4 5	含水量中位。¥n 部分的に凝固している。				
	2	2	.	4 5		2	3	.	7 0	含水量中位。¥n 部分的にシルトを挟む。				
	2	3	.	7 0		2	4	.	5 5	含水量中位。¥n 部分的に砂を挟む。				
	2	4	.	5 5		2	7	.	9 5	割れ目に沿い風化が見られる。岩片は硬い。				
	2	7	.	9 5		3	0	.	1 5	ほぼ新鮮な状態。				

¥n : 改行マーク

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(実数)

観察記事を記入する範囲の上端深度・下端深度を記入する。柱状図の観察記事欄に記入する枠線の位置情報は、D2 様式の「観察記事 枠線下端深度」で記入する。

単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。最終深度で標準貫入試験を行った場合は、貫入量を含んだ深度とする。

例: 30.15m →

3	0	.	1	5
---	---	---	---	---

(2) 観察記事(文字)

ボーリング試料の観察結果を記入する。

改行を必要とする場合は、“¥n” (半角、n は小文字) を記入する。

例: 含水量少ない。

木片混入。 →

含水量少ない。¥n 木片混入。

2-6 D2 様式：観察記事枠線

ボーリング柱状図に含まれる観察記事枠線は、D2 様式に定める項目を記入する。

D2様式：観察記事枠線				
枠線下端深度 (m)				
		1	.	8 0
		3	.	0 0
		7	.	4 0
	1	0	.	6 0
	2	2	.	4 5
	2	3	.	7 0
	2	4	.	5 5
	2	7	.	9 5
	3	0	.	1 5

【解説】

(1) 観察記事枠線下端深度(実数)

ボーリング柱状図において、観察記事欄を区分する枠線位置を下端深度で記入する。

単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 10.60m →

	1	0	.	6	0
--	---	---	---	---	---

2-7 E1 様式:標準貫入試験

ボーリング柱状図に含まれる標準貫入試験結果情報は、E1 様式に定める項目を記入する。

[illegible]

【解説】

(1) 測定開始深度(実数)

標準貫入試験の測定開始深度を孔口からの深度で記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 1.15m $\rightarrow$

		1	.	1	5
--	--	---	---	---	---

(2) 100mm ごとの打撃数・貫入量(整数)

100mm ごとの打撃回数・貫入量(mm)について記入する。打撃回数・貫入量は、完全に埋めるようにすべての値を記入する。ロッド自沈あるいはハンマー自沈の場合は、打撃回数欄に“00”を記入し、貫入量欄に貫入量を記入する。

100mm 毎の打撃回数・貫入量を記録していない場合は、空白とし、合計欄にのみ、結果を記入する。

例:1 回・100mm →

	1
--	---

1	0	0
---	---	---

(3) 合計打撃回数・貫入量(整数)

合計打撃回数・貫入量(mm)を記入する。省略せずに必ず記入すること。

例:合計欄(N 値 20 の場合) →

2	0
---	---

3	0	0
---	---	---

(4) 備考(文字)

試験仕様(硬軟判定用、設計に用いる N 値)、自沈、貫入不能などの場合は、備考欄に内容を記入する。自沈の場合は、ロッド自沈、ハンマー自沈の区別を記入する。

例:ハンマー自沈 →

ハンマー自沈

2-8 E2 様式:標準貫入試験詳細データ

自動記録装置を用いて標準貫入試験の詳細データを取得した場合は、E2 様式に定める項目を記入する。

E2様式:標準貫入試験詳細データ															
測定開始深度 (m)						打撃 回数	打撃1回毎の 貫入量(mm)				累積 貫入量(mm)		備 考		
		1	.	1	5		1	1	5	0	1	5	0		
							2	1	6	0	3	1	0		
		2	.	1	5		1	1	2	0	1	2	0		
							2	1	2	0	2	4	0		
							3		5	0	2	9	0		
							4	1	1	0	4	0	0		
		3	.	1	5		1		1	8		1	8		
							2		1	6		3	4		
							3		2	3		5	7		
							4		3	1		8	8		
							5		1	8	1	0	6		
							6		1	3	1	1	9		
							7		2	2	1	4	1		
							8		1	6	1	5	7		
							9		1	9	1	7	6		
							1	0		1	5	1	9	1	
							1	1		1	2	2	0	3	
							1	2		1	1	2	1	4	
							1	3		1	3	2	2	7	
							1	4		1	6	2	4	3	
							1	5		2	0	2	6	3	
							1	6		1	9	2	8	2	
							1	7		1	8	3	0	0	

【解説】

(1) 測定開始深度(実数)

標準貫入試験の測定開始深度を孔口からの深度で記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:1.15m →

		1	.	1	5
--	--	---	---	---	---

(2) 打撃回数・打撃 1 回毎の貫入量・累積貫入量(整数)

打撃回数、打撃 1 回毎の貫入量(mm)、及び累積貫入量(mm)について繰り返し記入する。ロッド自沈あるいはハンマー自沈の場合は、打撃回数欄に“00”を入力し、貫入量欄に貫入量を記入する。反発の場合は、貫入量 0 を記入する。

例:1回目・貫入量 150mm・累積貫入量 150mm

2回目・貫入量 160mm・累積貫入量 310mm→

	1	1	5	0	1	5	0
	2	1	6	0	3	1	0

(3) 備考(文字)

自沈、貫入不能、反発などの場合は、備考欄に内容を記入する。自沈の場合は、ロッド自沈、ハンマー自沈の区別を記入する。

例:ハンマー自沈 →

ハンマー自沈

2-9 E3 様式:ルジオン試験

ボーリング柱状図に含まれるルジオン試験結果情報は、E3 様式に定める項目を記入する。

E3様式:ルジオン試験																												
ルジオン 試験番号	上端深度 (m)				下端深度 (m)				圧力管理方法	Pmax圧力 最大スケール (Mpa)	Qmax注入量 最大スケール (L/min/m)	Psta 圧力開始点 (Mpa)	Qsta 注入量開始点 (L/min/m)	ルジ オン 値	ルジオン値 換算ルジオン値 (L/min/m)	限界圧力 (Mpa)												
0 0 0 1	3	0	0	0	8	0	0	1		1	2	0	0	2	0	0	3	3	0	2	1	1	2	0	0	7	2	0
0 0 0 2	2	7	9	5	3	0	1	5	1	1	2	0	0	2	0	0	2	3	0	2	1	5	7	0	0	6	0	0

【解説】

- (1) ルジオン試験番号(整数)

ルジオン試験番号を 0001 から連番で付ける。番号は E4 様式と対応させる。

- (2) 上端深度・下端深度(実数)

ルジオン試験の試験区間の上端深度と下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

- (3) 圧力管理方法(コード・文字)

圧力管理方法を表 2-21 より選択し、コード入力を行う。「9 その他」を選択した場合には文字で移入する。

例:圧力センサー管理 →

2	
---	--

表 2-21 圧力管理方法コード

コード	圧力管理方法
1	口元圧力管理
2	圧力センサー管理
9	その他(不明含む)

- (4) Pmax:圧力最大スケール(整数)

圧力最大スケールは MPa 単位で記入する。

例:1 (MPa) →

		1
--	--	---

(5) Q_{max}:注入量最大スケール(整数)

注入量最大スケールは $L / \text{min}/\text{m}$ (単位長さ当たりの注水量)単位で記入する。

例:20 ($L / \text{min}/\text{m}$) →

	2	0
--	---	---

(6) P_{sta}:圧力開始点(実数)

圧力開始点は MPa 単位で小数点以下 3 桁まで記入する。

例:0.200 (MPa) →

	0	.	2	0	0
--	---	---	---	---	---

(7) Q_{sta}:注入量開始点(実数)

注入開始点は $L/\text{min}/\text{m}$ 単位で小数点以下 2 桁まで記入する。

例:11.20 ($L / \text{min}/\text{m}$) →

	1	1	.	2	0
--	---	---	---	---	---

(8) ルジオン値区分(コード)

ルジオン値、換算ルジオン値の区分を、表 2-22 から選択し、コードで記入する。

例:換算ルジオン値 →

2

表 2-22 ルジオン値区分コード

コード	ルジオン値区分
1	ルジオン値
2	換算ルジオン値

(9) ルジオン値・換算ルジオン値(実数)

ルジオン値・換算ルジオン値は $L / \text{min}/\text{m}$ (単位長さ当たりの注水量)の単位で小数点以下 2 桁まで記入する。

例:15.00 ($L / \text{min}/\text{m}$) →

	1	5	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(10) 限界圧力(実数)

限界圧力は MPa 単位で小数点以下 3 桁まで記入する。測定不能の場合は「-1」を記入する。

例:0.700 (MPa) →

	0	.	7	0	0
--	---	---	---	---	---

2-10 E4 様式：ルジオン試験詳細データ

ボーリング柱状図に含まれるルジオン試験詳細データは、E4 様式に定める項目を記入する。

E4様式：ルジオン試験詳細データ									
ルジオン 試験番号				有効圧力(MPa)				注入量 (L/min/m)	
0	0	0	1		0	.	2	0	0
0	0	0	1		0	.	4	0	0
0	0	0	1		0	.	6	0	0
0	0	0	1		0	.	8	0	0
0	0	0	1		1	.	0	0	0
0	0	0	2		0	.	2	0	0
0	0	0	2		0	.	4	0	0
0	0	0	2		0	.	6	0	0

【解説】

- (1) ルジオン試験番号(整数)

E3 様式のルジオン試験番号に対応する番号を記入する。

- (2) 有効圧力(実数)

有効圧力の測定値を MPa 単位で小数点以下 3 桁まで記入する。

例:0.200 (MPa) →

	0	.	2	0	0
--	---	---	---	---	---

- (3) 注入量(実数)

注入量の測定値を L/min/m 単位で小数点以下 2 桁まで記入する。

例:3.30 (L/min/m) →

		3	.	3	0
--	--	---	---	---	---

2-11 F 様式: 相対密度・相対稠度

ボーリング柱状図に含まれる相対密度・相対稠度情報は、F 様式に定める項目を記入する。

F 様式: 相対密度・相対稠度										
下端深度(m)					相 対 密 度		相 対 稠 度			
					コード	状態	コード	状態	コード	状態
	1	.	8	0	0	0		0	0	
	3	.	0	0	2	0		1	0	
	7	.	4	0	2	0		1	0	
1	0	.	6	0	2	0		1	0	
2	2	.	4	5	2	0		1	0	
2	3	.	7	0	3	0		2	0	
2	4	.	5	5	4	0		3	0	
2	7	.	9	5	5	0		4	0	
3	0	.	1	5	9	9		9	9	〇〇〇〇
		.								

【解説】

(1) 下端深度(実数)

相対密度・相対稠度を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで入力する。

例: 30.00m →

3	0	.	0	0
---	---	---	---	---

(2) 相対密度(コード・文字)

相対密度を表 2-23 から選択し、該当コードを選んで記入する。その他(99)を選んだ場合にはその状態を記入する。

例: 相対密度 「30 中ぐらい」 →

3	0	
---	---	--

例: 相対密度 「99 その他」 →

9	9	〇〇〇〇
---	---	------

(3) 相対稠度(コード・文字)

相対稠度を表 2-24 のコード表から該当コードを選んで記入する。その他(99)を選んだ場合にはその状態を記入する。

例: 相対稠度 「50 非常に硬い」 →

5	0	
---	---	--

例: 相対稠度 「99 その他」 →

9	9	〇〇〇〇
---	---	------

表 2-23 砂地盤の相対密度の表現法

コード	相対密度	記号	N 値
00	(空白)		—
10	非常に緩い	rc1	0～4
20	緩い	rc2	4～10
30	中ぐらい	rc3	10～30
40	密な	rc4	30～50
50	非常に密な	rc5	50 以上
99	その他		—

表 2-24 細粒土の相対稠度区分と状態表現 (ASTM D 2488 参考)

コード	相対稠度 (状態表現)	記号	現場における判別方法 (原位置土に対する親指試験)
00	(空白)		—
10	非常に軟らかい	rc1	親指を 25mm 以上押し込める。
20	軟らかい	rc2	親指を 25mm くらい押し込める。
30	締まった	rc3	親指を 6mm くらい押し込める。
40	硬い	rc4	親指を押し込めないが、親指の爪はたやすく入る。
50	非常に硬い	rc5	親指の爪も入らない。
99	その他		—

2-12 G1 様式：硬軟区分

ボーリング柱状図に含まれる硬軟区分情報は、G1 様式に定める項目を記入する。

G1様式：硬軟区分						
下端深度(m)				硬軟区分 (コード)		
1	.	6	0	9	5	0
2	.	0	0	9	4	0
2	.	2	0	9	3	0
3	.	9	0	9	4	0
4	.	1	6	9	3	0
5	.	5	0	9	2	0
5	.	8	0	9	3	0
.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

硬軟区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 硬軟区分(コード)

硬軟区分については、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領（案）・同解説に従い判定結果を記入する場合、表2-25～表2-30のコード表に従い、コードを記入する。

表 2-25～表 2-30 以外の区分を新たに作成する場合には、G1S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードをG1 様式に記入する。

例: 表 2-25 に従って「中硬」と判定した場合 →

0	1	3
---	---	---

例: 表 2-32 に従って「中硬」と判定した場合 →

9	1	0
---	---	---

表 2-25 硬軟の区分基準の例

コード	記号	区分	説明
011	A	極硬	ハンマーで容易に割れない。
012	B	硬	ハンマーで金属音。
013	C	中硬	ハンマーで容易に割れる。
014	D	軟	ハンマーでボロボロに碎ける。
015	E	極軟	マサ状、粘土状。

表 2-26 硬軟の区分基準の例(花崗岩)

コード	記号	区分	説明
021	A	極硬	ハンマーで叩くと金属音、DB で 2 cm/min 以下。
022	B	硬	ハンマーで軽い金属音、DB で 2～4cm/min 以下。
023	C	中硬	ハンマーで叩くと濁音、容易に割れる。DB で 3cm/min 以上。
024	D	軟	脆弱で指で割れ潰れる。MC で掘進可。
025	E	極軟	粉体になりやすい。MC で無水掘可。

DB:ダイヤモンドビット、MC:メタルクラウン

表 2-27 一軸圧縮強さによる硬軟の区分基準の例((a)Bieniawski (1974)による区分)

コード	表現	一軸圧縮強度 (MPa)	点載荷強度 (MPa)
031	非常に強い(very high)	>200	>8
032	強い(high)	100～200	4～8
033	普通 (medium)	50～100	2～4
034	弱い(low)	25～50	1～2
035	非常に弱い(very low)	1～25	<1

表 2-28 一軸圧縮強さによる硬軟の区分基準の例((b)I. A. E. G. による区分)

コード	表現	一軸圧縮強度 (MPa)
041	特に強い(extremely strong)	230 以上 MPa
042	非常に強い(very strong)	120～230 MPa
043	強い(strong)	50～120 MPa
044	中程度(moderately strong)	15～50 MPa *2
045	弱い(weak)	1.5～15 MPa *1

*1:1.5MPa 以下のものは硬質土として扱う。

*2:50MPa 以下を軟岩、以上を硬岩とする。

1MPa≒10kgf/cm²

表 2-29 一軸圧縮強さによる硬軟の区分基準の例 (JGS 3811 から作成)

コード	記号	岩石の強さ (MN/m ²)
051	A	100 以上
052	B	100～50
053	C	50～25
054	D	25～10
055	E	10～5
056	F	5～1
057	G	1 以下

表 2-30 硬軟の区分と一軸圧縮強さの関係の例 (ISO に加筆)

コード	記号	Term	Field Identification	Unconfined compressive strength (MPa)
061	G	Extremely weak ^a	Indented by thumbnail	less than 1
062	F	Very weak	Crumbles under firm blows with point of geological hammer, can be peeled by a pocket knife	1 to 5
063	E	Weak	Can be peeled by a pocket knife with difficulty, shallow indentations made by firm blow with point of geological hammer	5 to 25
064	D	Medium strong	Cannot be scraped or peeled with a pocket knife, specimen can be fractured with single firm blow of geological hammer	25 to 50
065	C	Strong	Specimen requires more than one blow of geological hammer to fracture it	50 to 100
066	B	Very strong	Specimen requires many blows of geological hammer to fracture it	100 to 250
067	A	Extremely strong	Specimen can only be chipped with geological hammer	greater than 250

a) Some extremely weak rocks will behave as soils and should be described as soils according to ISO 14688-1

(3) G1S 様式：硬軟区分判定表

- 1) コードは整数 3 桁とし、901～999 を使用する。将来的な区分の変更や細区分の追加などを想定して、10 ごと (910、920…) にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す硬軟区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には硬軟区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

表 2-31 硬軟区分判定表 (G1S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			

G1S 様式の記入例を表 2-32 に示す。

表 2-32 硬軟区分判定表 (G1S 様式) 記入例

コード	記号	区分	説明
910	A	中硬	ハンマーで容易に砕ける。
920	B	軟 1	ピックでキズがつく。
930	C	軟 2	カッターで削れる。
940	D	極軟	指先でへこむ。

G1 様式の「硬軟区分」記入例を次に示す。

例: 表 2-32 に従って「中硬」と判定した場合 →

9	1	0
---	---	---

2-13 G2 様式：ボーリングコアの形状区分

ボーリング柱状図に含まれるボーリングコアの形状区分は、G2 様式に定める項目を記入する。

G2様式：ボーリングコアの形状区分

下端深度(m)			ボーリングコアの形状区分 (コード)		
1	.	6 0	9	7	0
2	.	0 0	9	5	0
2	.	2 0	9	4	0
3	.	9 0	9	5	0
4	.	1 6	9	4	0
5	.	5 0	9	3	0
5	.	8 0	9	4	0
	.				

【解説】

(1) 下端深度(実数)

ボーリングコアの形状区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) コア形状区分(コード)

ボーリングコア形状区分については、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説に従い判定結果を記入する場合、表2-33、表2-34のコード表に従い、コード入力で記入する。

表 2-33～表 2-34 以外の区分を新たに作成する場合には、G2S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードをG2 様式に記入する。

例: 表 2-33 に従って「III」と判定した場合 →

0	1	3
---	---	---

例: 表 2-36 に従って「れき状」と判定した場合 →

9	5	0
---	---	---

表 2-33 ボーリングコア形状区分基準の例

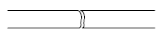
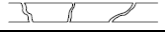
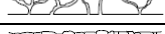
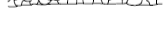
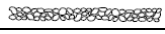
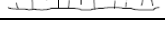
コード	記号	ボーリングコアの形状のイラストの追加	
011	I		長さ 50 cm以上の棒状コア。
012	II		長さが 50～15cm の棒状コア。
013	III		長さが 15～5 cmの棒状～片状コア。
014	IV		長さが 5 cm以下の棒状～片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
015	V		主として角礫状のもの。
016	VI		主として砂状のもの。
017	VII		主として粘土状のもの。
018	VIII		コアの採取ができないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

表 2-34 不連続面の間隔の区分基準の例（JGS 3811 から抜粋）

コード	記号	不連続面の間隔 (mm)
031	I	2000 以上
032	II	2000～600
033	III	600～200
034	IV	200～60
035	V	60～20
036	VI	20 以下

(3) G2S 様式：ボーリングコアの形状区分判定表

- 1) コードは整数 3 桁とし、901～999 を使用する。将来的に区分の変更や細区分の追加などを想定して、10 ごと(910、920…)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示すボーリングコア形状区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄にはボーリングコア形状区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

表 2-35 ボーリングコア形状区分判定表 (G2S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			

G2S 様式の記入例を表 2-36 に示す。

表 2-36 ボーリングコア形状区分判定表 (G2S 様式) 記入例

コード	記号	区分	説明
910	I	棒状	長さ 50 cm以上の棒状コア。
920	II	長柱状	長さが 50～20 cmの棒状コア。
930	III	短柱状	長さが 20～10 cmの棒状～短柱状コア。
940	IV	岩片状	長さが 10 cm以下の短柱状～片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
950	V	れき状	主として角礫状のもの。
960	VI	砂状	主として砂状のもの。
970	VII	粘土状	主として粘土状のもの。
980	VIII	採取不可	コアの採取ができないもの。スライムも含む。

注) ローマ数字は、アルファベット大文字「I」、「V」、「X」の組み合わせにより表現する。

2-14 G3 様式：割れ目の状態区分

ボーリング柱状図に含まれる割れ目の状態区分は、G3 様式に定める項目を記入する。

G3様式：割れ目の状態区分						
下端深度 (m)					割れ目の状態区分 (コード)	
	3	.	9	0	9	4 0
	4	.	1	6	9	3 0
	7	.	0	0	9	2 0
	8	.	9	0	9	4 0
		.				
		.				
		.				
		.				

【解説】

(1) 下端深度 (実数)

割れ目区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 割れ目の状態区分 (コード)

割れ目の状態については、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領 (案)・同解説に従い判定結果を記入する場合、表2-37～表2-43のコード表に従い、コードを記入する。表2-37～表2-43以外の区分を新たに作成する場合には、G3S様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードをG3様式に記入する。

例: 表 2-37 に従って「d」と判定した場合 →

0	1	4
---	---	---

例: 表 2-45 に従って「c」と判定した場合 →

9	3	0
---	---	---

表 2-37 割れ目状態の区分基準の例

コード	記号	説明
011	a	密着している、あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
012	b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
013	c	割れ目沿いの岩片に風化・変質が認められ軟質となっている。
014	d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コアとなっている。

表 2-38 割れ目の開口幅の区分基準の例（ISRM を翻訳し、加筆）

コード	記号	間隙	表示	
021	a1	< 0.1mm	非常にしっかりとした	密着状の
022	a2	0.1 ~ 0.25mm	しっかりとした	
023	a3	0.25 ~ 0.5mm	一部開いた	
024	a4	0.5 ~ 2.5mm	開いた	すきま状の
025	a5	2.5 ~ 10mm	やや広く開いた	
026	a6	> 10mm	広く開いた	
027	a7	1 ~ 10cm	非常に広い	開口状の
028	a8	10 ~ 100cm	極端に広い	
029	a9	> 1m	洞穴状の	

表 2-39 割れ目の開口幅の区分基準の例（JGS 3811 に加筆）

コード	記号	開口幅(mm)
031	a1	0.1 以下
032	a2	0.1~0.25
033	a3	0.25~0.5
034	a4	0.5~2.5
035	a5	2.5~10
036	a6	10 以上

表 2-40 不連続面の粗さの区分基準の例（ISRM を翻訳し、加筆）

コード	記号		カテゴリー
041	r1	粗い（または不規則）、階段状	I
042	r2	平滑、	II
043	r3	鏡肌、	III
044	r4	粗い（または不規則）、波状	IV
045	r5	平滑、	V
046	r6	鏡肌、	VI
047	r7	粗い（または不規則）、平坦	VII
048	r8	平滑、	VIII
049	r9	鏡肌、	IX

表 2-41 不連続面の粗さのカテゴリーの代表断面（IAEG を翻訳）

コード	記号	
051	I	階段状
052	II	I 粗い
053	III	II 平滑
054	IV	III 鏡肌
055	V	波状
056	VI	IV 粗い
057	VII	V 平滑
058	VIII	VI 鏡肌
059	IX	平坦
		VII 粗い
		VIII 平滑
		IX 鏡肌

表 2-42 不連続面の粗さの区分の例

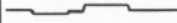
コード	記号	
061	rsr	小スケール (10cm) 大スケール (1~2m) 粗い:r  やや粗い:m  滑らか:s  階段状:s  r_{sr} r_{sm} r_{ss} 波状:w  r_{wr} r_{wm} r_{ws} 平面状:p  r_{pr} r_{pm} r_{ps}
062	rsm	
063	rss	
064	rwr	
065	rwm	
066	rws	
067	rpr	
068	rpm	
069	rps	

表 2-43 不連続面の粗さの区分の例 (ISO に加筆)

コード	記号																						
071	r1	<table><thead><tr><th></th><th>Rough (irregular)</th><th></th><th>Smooth</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">Stepped</td><td>記号:r1 </td><td></td><td>記号:r2 </td></tr><tr><td>記号:r3 </td><td></td><td>記号:r4 </td></tr><tr><td rowspan="2">Undulating</td><td>記号:r5 </td><td></td><td>記号:r6 </td></tr><tr><td colspan="3"> Key 1 stepped rough surface 4 undulating smooth surface 2 stepped smooth surface 5 planar rough surface 3 undulating rough surface 6 planar smooth surface </td></tr></tbody></table>					Rough (irregular)		Smooth	Stepped	記号:r1 		記号:r2 	記号:r3 		記号:r4 	Undulating	記号:r5 		記号:r6 	Key 1 stepped rough surface 4 undulating smooth surface 2 stepped smooth surface 5 planar rough surface 3 undulating rough surface 6 planar smooth surface		
	Rough (irregular)						Smooth																
Stepped	記号:r1 						記号:r2 																
	記号:r3 						記号:r4 																
Undulating	記号:r5 						記号:r6 																
	Key 1 stepped rough surface 4 undulating smooth surface 2 stepped smooth surface 5 planar rough surface 3 undulating rough surface 6 planar smooth surface																						
072	r2																						
073	r3																						
074	r4																						
075	r5																						
076	r6																						

(3) G3S 様式：割れ目の状態区分判定表

- 1) コードは整数 3 桁とし、901~999 を使用する。将来的な区分の変更や細区分の追加などを想定して、10 ごと(910、920...)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す割れ目の状態区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には割れ目の状態区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

表 2-44 割れ目の状態区分判定表 (G3S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			

G3S 様式の記入例を表 2-45 に示す。

表 2-45 割れ目の状態区分判定表 (G3S 様式) 記入例

コード	記号	区分	説明
910	a		密着している、割れ目は新鮮。
920	b		割れ目沿いの酸化・変質は認められるが、岩芯はほとんど風化・変質していない。
930	c		割れ目沿いの岩芯まで風化・変質が認められ軟質となっている。
940	d		角礫状、砂状、粘土状コア。

2-15 G4 様式：風化の程度区分

ボーリング柱状図に含まれる風化の程度区分は、G4 様式に定める項目を記入する。

G4様式：風化の程度区分						
下端深度(m)				風化の程度区分 (コード)		
	1	.	0 5	9	5	0
	4	.	0 4	9	4	0
	8	.	0 3	9	3	0
		.				
		.				
		.				
		.				
		.				

【解説】

(1) 下端深度(実数)

風化区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 風化の程度区分(コード)

風化の程度については、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説に従い判定結果を記入する場合、表2-46～表2-52のコード表に従い、コードを記入する。

表 2-46～表 2-52 以外の区分を新たに作成する場合には、G4S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードをG4 様式に記入する。

例: 表 2-46 に従って「w2」と判定した場合 →

0	1	2
---	---	---

例: 表 2-54 に従って「w1」と判定した場合 →

9	1	0
---	---	---

表 2-46 風化の程度区分基準の例(花崗岩の例)

コード	記号	説明
011	w1	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
012	w2	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
013	w3	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
014	w4	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
015	w5	強風化している。石英及び一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

表 2-47 風化の程度の区分基準の例(火山岩)

コード	記号	説明
021	w1	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質は全くない。
022	w2	新鮮である。長石の変質はないが、有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。
023	w3	弱風化している。有色鉱物の周辺が濁っており、やや黄色を帯びている。長石は一部白濁している。鉱物の一部が溶脱している。
024	w4	風化している。長石は変質し白色となっている。有色鉱物が褐色粘土化している。黄褐色化が著しい。
025	w5	強風化している。原岩組織が失われている。

表 2-48 風化の程度の区分基準の例(泥質岩)

コード	記号	説明
031	w1	非常に新鮮である。
032	w2	新鮮である。層理面、片理面にそって僅かに変色があり割れやすい。
033	w3	弱風化している。層理面、片理面にそって風化している。
034	w4	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
035	w5	強風化している。黄褐色化し、指先で簡単に壊すことができる。

表 2-49 風化の程度の区分基準 (IAEG を翻訳し、加筆)

コード	記号		区分	内容
051	w1	I	新鮮な	岩石の風化は見られない。主な不連続面が僅かに変色していることがある。
052	w2	II	やや風化した	岩石と不連続面に風化を示す変色がある。
053	w3	III	中程度に風化した	岩石の 35%以下が分解し、及び(あるいは)土になっている。新鮮あるいは変色した岩石は連続した骨格あるいは芯として存在する。
054	w4	IV	非常に風化した	岩石の 35%以上が分解し、及び(あるいは)土になっている。新鮮あるいは変色した岩石は連続した骨格あるいは芯として存在する。
055	w5	V	極めて風化した	すべての岩石が分解し、及び(あるいは)土になっている。もともとの岩盤の構造はほとんど損なわれている。
056	w6	VI	残留土	すべての岩石は土に変化している。岩盤の構造と岩石の組織は破壊されている。大きな体積変化が起きているが、土ははっきりと移動しているわけではない。

表 2-50 鉱物の変質の割合による風化の程度の区分の目安

コード	風化の程度	変質の割合(%)
061	新鮮	0
062	わずかに	0 ~ 10
063	中程度に	10 ~ 35
064	非常に	35 ~ 75
065	著しく	75 以上

表 2-51 風化の程度の区分基準（JGS 3811 に加筆）

コード	記号	用語	風化／変質の状態
071	w1	新鮮な	岩石には変色などの風化／変質の兆候は見られない。 主な不連続面にはわずかな変色が認められる程度。
072	w2	わずかに風化／変質	岩石や不連続面に変色が認められる。
073	w3	かなり風化／変質	岩石の変色、褪色範囲が岩盤の半分以下。 新鮮あるいは変色・褪色した岩石は不連続な骨格構造としてまたは核状に見られる。
074	w4	強く風化／変質	岩石の変色、褪色範囲が岩盤の半分以上。新鮮あるいは変色・褪色した岩石は不連続な骨格構造としてまたは核状に見られる。
075	w5	完全に風化／変質	岩石はすべて変色、または褪色して土／変質鉱物となっている。岩盤の原岩組織はほとんど変化していない。
076	w6	残積土／変質土	岩石はすべて土／変質鉱物に変化。岩盤の構造と岩石の組織は崩れて認められない。 容積に大きな変化があるが、風化の場合は土の移動は顕著ではない。

表 2-52 風化と変質の区分基準の例（ISO に加筆）

コード	記号	Term	Description
081	w1	Fresh	No visible sign of weathering/alteration of the rock material
082	w2	Discoloured	The colour of the original fresh rock material is changed and is evidence of weathering/alteration. The degree of change from the original colour should be indicated. If the colour change is confined to particular mineral constituents, this should be mentioned
083	w3	Disintegrated	The rock material is broken up by physical weathering, so that bonding between grains is lost and the rock is weathered/alterd towards the condition of a soil in which the original material fabric is still intact. The rock material is friable but the mineral grains are not decomposed
084	w4	Decomposed	The rock material is weathered by the chemical alteration of the mineral grains to the condition of a soil in which the original material fabric is still intact; some or all of the mineral grains are decomposed.

(3) G4S 様式：風化の程度区分判定表

- 5) コードは整数 3 桁とし 901～999 を使用する。将来的に区分の変更や細区分の追加などを想定して、10 ごと(910、920…)にコードを使用することが望ましい。
- 6) 記号は柱状図に示す風化の程度区分の記号を記入する。
- 7) 区分欄には風化の程度区分を記入する。
- 8) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

表 2-53 風化の程度区分判定表 (G4S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			

G4S 様式の記入例を表 2-54 示す。

表 2-54 程度区分判定表 (G4S 様式) 記入例

コード	記号	区分	説明
910	w1		極めて新鮮である。
920	w2		新鮮である。層理面、片理面にそって部分的に酸化している。
930	w3		ほとんどの割れ目が酸化しており、岩芯まで一部弱風化している。
940	w4		岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に割れ易い。
950	w5		岩芯まで強風化し、角礫、砂状または粘土状コア、軟質で、簡単に壊することができる。

2-16 G5 様式:熱水変質の程度区分

ボーリング柱状図に含まれる熱水変質の程度区分は、G5 様式に定める項目を記入する。

G5様式:熱水変質の程度区分						
下端深度 (m)				熱水変質の程度区分 (コード)		
	7	.	0 0	9	1	0
	8	.	9 0	9	2	0
		.				
		.				
		.				
		.				
		.				
		.				
		.				

【解説】

(1) 下端深度(実数)

変質区分を記入する地層の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例:30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 熱水変質の程度区分(コード)

熱水変質の程度区分については、ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説に従い判定結果を記入する場合、表2-55～表2-57のコード表に従い、コード記入する。

表 2-55～表 2-57 以外の区分を新たに作成する場合には、G5S 様式に作成した区分情報を記入して、そこに示した区分コードをG5 様式に記入する。

例:表 2-46 に従って「弱変質」と判定した場合 →

0	1	2
---	---	---

例:表 2-59 に従って「中変質」と判定した場合 →

9	3	0
---	---	---

表 2-55 熱水変質の程度区分基準の例

コード	記号	区分	説明
011	h1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
012	h2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で 50%以上)。
013	h3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または非変質部を残すもの及び網状変質部。
014	h4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

表 2-56 モンモリロナイトを含んだ変質岩のメチレンブルーによる区分基準の例

コード	区分	説明
021	hm1	全く変色しない。
022	hm2	斑点状に淡青色を呈する。
023	hm3	全体に青色を呈する。
024	hm4	濃青色を呈する。

表 2-57 風化と変質の区分基準の例 (ISO に加筆)

コード	記号	Term	Description
031	h1	Fresh	No visible sign of weathering/alteration of the rock material.
032	h2	Discoloured	The colour of the original fresh rock material is changed and is evidence of weathering/alteration. The degree of change from the original colour should be indicated. If the colour change is confined to particular mineral constituents, this should be mentioned.
033	h3	Disintegrated	The rock material is broken up by physical weathering, so that bonding between grains is lost and the rock is weathered/alterd towards the condition of a soil in which the original material fabric is still intact. The rock material is friable but the mineral grains are not decomposed.
034	h4	Decomposed	The rock material is weathered by the chemical alteration of the mineral grains to the condition of a soil in which the original material fabric is still intact; some or all of the mineral grains are decomposed.

(3) G5S 様式：熱水変質の程度区分判定表

- 1) コードは整数 3 桁とし、901～999 を使用する。将来的な区分の変更や細区分の追加などを想定して、10 ごと(910、920…)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 記号は柱状図に示す熱水変質の程度区分の記号を記入する。
- 3) 区分欄には熱水変質の程度区分を記入する。
- 4) 説明欄には記号または区分の説明を記入する。

表 2-58 熱水変質の程度区分判定表 (G5S 様式)

コード	記号	区分	説明
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			
9xx			

G5S 様式の記入例を表 2-59 に示す。

表 2-59 熱水変質の程度区分判定表 (G5S 様式) 記入例

コード	記号	区分	説明
910	1	非変質	極めて新鮮である。
920	2	弱変質	原岩組織を完全に残し、一部変質程度(脱色)が進んでいるものの、20%以上非変質部の割合が高いもの。
930	3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織は残るものの、全体に(脱色)変質程度。50%以上変質部を占めるもの及び網状変質部。
940	4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換されほとんど変質し、30%以下非変質部を残すのみで、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

2-17 G6 様式:破砕度

ボーリング柱状図に含まれる破砕度は、G6 様式に定める項目を記入する。

G6 様式:破砕度											
上端深度(m)				下端深度(m)				破砕度 (コード)			
		5	.	2	0			7	.	0	0
		7	.	0	0			8	.	9	0

【解説】

(1) 上端深度(実数)

破砕度を記入する地層の上端深度を記入する。単位はm とし、小数点以下2 桁(cm)まで記入する。

例:5.20m →

		5	.	2	0
--	--	---	---	---	---

(2) 下端深度(実数)

破砕度を記入する地層の下端深度を記入する。単位はm とし、小数点以下2 桁(cm)まで記入する。

例:7.00m →

		7	.	0	0
--	--	---	---	---	---

(3) 破砕度(コード)

G6S 様式で記入した破砕度コードを記入する。

例:910 →

9	1	0
---	---	---

(4) G6S 様式:破砕度判定表

破砕度判定表を G6S 様式に従い記入する。

- 1) コードは整数 3 桁とし、901～999 を使用する。将来的な区分の変更や細区分の追加などを想定して、10 ごと(910、920…)にコードを使用することが望ましい。
- 2) 区分は柱状図に示す破砕度の記号(C1、Cr4 など)を記入する。
- 3) 破砕度判定には項目とその説明を個々に記入する。

表 2-60 破碎度判定表 (G6S 様式)

コード	記号	破碎度判定			
		項目	項目	項目	項目
9xx	△	説明	説明	説明	説明
9xx	△	説明	説明	説明	説明
9xx	△	説明	説明	説明	説明
9xx	△	説明	説明	説明	説明
9xx	△	説明	説明	説明	説明

G6S 様式の記入例を表 2-61 に示す。

表 2-61 破碎度判定表 (G6S 様式) 記入例

コード	記号	区分	破碎の状態	角礫の中央 粒径	基質の量	粒度分 布	複合面構造
910	C1	地すべ り・断層	粘土～砂	構成物質： 粘土～砂		連続	場合によっ てあり
920	Cr4	地すべり	角礫岩	2-5mm	60%以上	連続	なし
930	Cr3	地すべり	角礫岩	5-15mm	30-60%	不連続	なし
940	Cr2	地すべり	角礫岩	15mm 以上	30%未満	不連続	なし
950	Cr1b	地すべり	開口割れ目 を細粒物が 充填	—	—	不連続	なし
960	Cr1a	地すべり	開口割れ目	—	—	不連続	なし
970	Sh4	断層	角礫岩	2-5mm	60%以上	連続	あり
980	Sh3	断層	角礫岩	5-15mm	30-60%	連続	あり
990	Sh2	断層	角礫岩	15mm 以上	30%未満	連続	あり

2-18 H 様式：孔内载荷試験

ボーリング孔を利用して実施した孔内载荷試験結果を記入する。

H様式：孔内载荷試験																																
試験深度 (m)		試験方法	载荷パターン	初期圧 (kN/m ²)		降伏圧 (kN/m ²)		変形係数 (kN/m ²)		割線弾性係数 (kN/m ²)		接線弾性係数 (kN/m ²)																				
1	0	.	0	0	1	2	繰り返し载荷	1	9	.	6	1	3	3	3	1	.	3	1	E + 0 3	2	.	4	3	E + 0 3	3	.	1	5	E + 0 3		
2	6	.	3	0	1	2	繰り返し载荷	3	1	0	.	7	1	5	5	5	3	2	.	4	7	E + 0 4	4	.	2	0	E + 0 4	5	.	2	3	E + 0 4
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +				E +		
		.																		E +						E +						

(4) 载荷パターン(文字)

初期圧力は kN/m^2 単位で小数点以下 1 桁まで記入する。

例: $310.7 \text{ kN/m}^2 \rightarrow$

	3	1	0	.	7
--	---	---	---	---	---

(5) 降伏圧力(実数)

降伏圧力を kN/m^2 単位で小数点以下 1 桁まで記入する。降伏圧力が算定不能の場合は、「-1」を記入する。

例: $1555.3 \text{ kN/m}^2 \rightarrow$

1	5	5	5	.	3
---	---	---	---	---	---

(6) 変形係数(実数)

変形係数を kN/m^2 単位で記入する。値は有効数字 3 桁の浮動小数点で記入し、基数部は 1.00 ～9.99、指数部は+99～-99 の範囲とする。

例: $2.46 \times 10^4 \text{ kN/m}^2 \rightarrow$

2	.	4	6	E	+	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

(7) 割線弾性係数(実数)

割線弾性係数を kN/m^2 単位で記入する。値は有効数字 3 桁の浮動小数点で記入し、基数部は 1.00 ～9.99、指数部は+99～-99 の範囲とする。

例: $4.20 \times 10^4 \text{ kN/m}^2 \rightarrow$

4	.	2	0	E	+	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

(8) 接線弾性係数(実数)

接線弾性係数を kN/m^2 単位で記入する。値は有効数字 3 桁の浮動小数点で記入し、基数部は 1.00 ～9.99、指数部は+99～-99 の範囲とする。

例: $5.23 \times 10^4 \text{ kN/m}^2 \rightarrow$

5	.	2	3	E	+	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

2-19 I 様式: ボーリング孔を利用した透水試験

ボーリング孔を利用した透水試験結果を記入する。

I様式: ボーリング孔を利用した透水試験																						
試験区間						試験方法			透水係数 (m/sec)													
上端深度(m)			下端深度(m)																			
	6	.	3	0		6	.	8	0	0	2		9	.	3	0	E	-	0	6		
	2	4	.	8	0		2	5	.	3	0	0	2		2	.	5	0	E	-	0	5
	2	8	.	7	5		2	9	.	2	5	0	2		5	.	3	0	E	-	0	5
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				
			.						.								E	-				

【解説】

(1) 試験区間深度(実数)

孔口からの試験区間までの上端深度、下端深度を入力する。単位は小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例: 試験区間 6.30~6.80m →

		6	.	3	0			6	.	8	0
--	--	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---

(2) 試験方法(コード・文字)

透水試験方法を表2-63より選択して入力する。「99 その他」を選択した場合には、その試験方法の名称を記入する。

例: 非定常法(回復法) →

0	1	
---	---	--

例: 99 その他 →

9	9	〇〇試験法
---	---	-------

表 2-63 試験方法コード

コード	試験方法	
01	単孔を利用した透水試験方法 (JGS 1314-2012)	非定常法(回復法)
02		非定常法(注水法)
03		定常法(定水位法)
10	揚水試験方法(JGS 1315-2012)	
20	孔内水位回復法による岩盤の透水試験方法(JGS 1321-2012)	
30	注水による岩盤の透水試験方法(JGS 1322-2012)	
99	その他	

(3) 透水係数(実数)

透水係数を有効数字3桁の浮動小数点で記入する。単位は m/s とし、基数部は 1.00～9.99、指数部は+99～-99 の範囲とする。

例: $9.30 \times 10^{-4} \text{ m/s}$ の場合 →

9	.	3	0	E	-	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

2-20 J 様式：弾性波速度検層

ボーリング孔を利用して実施した弾性波速度検層結果を記入する。

J様式：弾性波速度検層																				
P波試験																				
試験区間						起振方式			速度 (m/s)											
上端深度 (m)			下端深度 (m)																	
		0	.	0	0			2	.	0	0	ハンマーによる打撃					1	0	0	
		2	.	0	0			4	.	0	0	ハンマーによる打撃					3	0	0	
		4	.	0	0			1	0	.	0	0	ハンマーによる打撃					5	0	0
		.						.												
		.						.												
		.						.												
		.						.												

S波試験																				
試験区間						起振方式			速度 (m/s)											
上端深度 (m)			下端深度 (m)																	
		0	.	0	0			2	.	0	0	板たたき					5	0		
		2	.	0	0			4	.	0	0	板たたき					5	0	0	
		4	.	0	0			1	0	.	0	0	板たたき					3	0	0
		.						.												
		.						.												
		.						.												
		.						.												

【解説】

(1) 試験区間深度(実数)

孔口から試験区間までの上端深度、下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例：試験区間 10.00～10.84m →

		1	0	.	0	0			1	0	.	8	4
--	--	---	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	---

(2) 起振方式(文字)

起振方式について表 2-64 を参考に文字で記入する。

例：板たたき →

板たたき

表 2-64 主な起振方式

呼び名 振源 の種類	ダウンホール方式	孔内起振受信方式
P 波振源	ハンマーによる打撃 重錘落下 火薬類 エアガンなど	電磁ハンマー スパーカー 圧電式など
S 波振源	板たたき 機械式など	電磁ハンマー 圧電式など

)

(3) 速 度 (整数)

速度は m/s 単位で記入する。

例: 速度 230 m/s →

	2	3	0
--	---	---	---

2-21 K 様式：その他原位置試験

ボーリング孔を利用して実施したその他の原位置試験結果を記入する。

K様式：その他の原位置試験												
その他の試験の名称	試験区間										試験結果等	
	上端深度 (m)					下端深度 (m)						
原位置ベーンせん断試験	1	0	.	0	0	1	0	.	0	0	20.4kN/m ²	
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				
			.					.				

【解説】

- (1) その他の試験名(文字)

その他の試験名を記入する。

例：原位置ベーンせん断試験 →

原位置ベーンせん断試験

- (2) 試験区間深度(実数)

他の試験と同様に試験区間深度を記入する。点の深度の場合は、上端深度と下端深度の値を一致させる。

例：試験区間 10.00～10.00m →

1 0 . 0 0 1 0 . 0 0

- (3) 試験結果等(文字)

試験結果等を、単位まで含めて記入する。

例：20.4(kN/m²)の場合 →

20.4kN/m²

2-22 L 様式：試料採取

ボーリング孔を利用して実施した試料採取情報を記入する。

L様式：試料採取																	
採取区間						試料番号	採取方法				試験名						
上端深度 (m)			下端深度 (m)														
1	0	.	0	0		1	0	.	8	4	T001	2	0	0			
1	6	.	0	0		1	6	.	8	3	T002	2	0	0			
2	0	.	0	0		2	0	.	9	0	T003	2	0	0			
2	5	.	0	0		2	5	.	5	0	T004	4	5	0		土粒子の密度試験	
		.						.								土の粒度試験	
		.						.								(以下、繰返し記載)	
		.						.									
		.						.									
		.						.									
		.						.									
		.						.									
		.						.									
		.						.									
		.						.									
		.						.									

【解説】

(1) 採取区間(実数)

室内土質試験に供した試料の採取区間について記入する。

孔口から試料採取区間までの上端深度、下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例：採取区間 10.00～10.84m →

	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(2) 試料番号(文字)

試料番号(名称)を記入する。試料番号(名称)は、「第 6 編 土質試験及び地盤調査結果編」の試料番号と一致させること。

例：試料番号 T001 →

T001

(3) 試料採取方法(コード・文字)

試料採取の方法を、表 2-65 より選択してコードで記入する。「999 その他」を選択した場合には、採取方法を記入する。岩盤調査の場合、記入は不要である。

例：「999 その他」を選んだ場合で、採取方法が〇〇〇〇方式の場合 →

9	9	9	〇〇〇〇方式
---	---	---	--------

表 2-65 試料採取方法コード

コード	採取方法
100	標準貫入試験
200	固定ピストン式シンウォールサンプラー水圧式 (JGS 1221 -2012)
250	固定ピストン式シンウォールサンプラーエクテンションロッド式 (JGS 1221 -2012)
300	ロータリー式二重管サンプラー (JGS1222-2012)
350	ロータリー式スリーブ内蔵二重管サンプラー (JGS 1224 -2012)
400	ロータリー式三重管サンプラー (JGS 1223 -2012)
450	ロータリー式チューブサンプリング (JGS3211 -2012)
999	その他

(4) 試験名(文字)

採取した試料を用いて実施した試験の名称を記入する。複数の試験を実施した場合は、繰返し記入する。

例:土粒子の密度試験、土の粒度試験 →

土粒子の密度試験
土の粒度試験

2-23 N 様式:地盤材料の工学的分類

地盤材料の工学的分類は、N 様式に定める項目を記入する。なお、本様式は粒度試験・液性限界試験等を実施し、地盤材料の工学的分類が可能な場合にのみ記入する。

[illegible]

【解説】

(1) 下端深度(実数)

地盤材料の工学的分類の下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 6.30m $\rightarrow$

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

(2) 地盤材料の工学的分類記号(文字)

地盤材料の工学的分類記号を記入する。

例: SG-F $\rightarrow$

SG-F

2-24 01 様式:地質時代区分

地質時代区分は、01 様式に定める項目を記入する。

01様式:地質時代区分

区間深度										地質時代区分					
上限深度 (m)					下限深度 (m)					地質時代名	形成年代上限	形成年代下限	変成年代上限	変成年代下限	
		0	.	0 0		2 4	.	5 5		完新世	111010000	111010000			
		2 4	.	5 5		3 0	.	1 5		更新世	111020000	111020000			
		3 0	.	1 5		4 3	.	2 2		後期中新世	113021000	113021000			
		4 3	.	2 2		6 0	.	3 8		中期中新世	113022000	113022000			
		6 0	.	3 8		8 6	.	3 0		前期白亜紀	121200000	121200000			
		8 6	.	3 0		9 0	.	2 5		地質時代不明	000000000	000000000			
			.				.								
			.				.								
			.				.								
			.				.								

【解説】

(1) 区間深度(実数)

地質時代区分する区間の上端深度、下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 区間深度: 10.00~10.84m →

	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(2) 地質時代名(文字)

地質時代名を文字で記入する。地質時代は、代(Era)、紀(Period)、世(Epoch)を用いて区分を行う。範囲を持つ地質時代の場合は、上限と下限を記入する。また、変成年代を表す場合は、変成年代であることを明記する。

例: 完新世の場合 →

完新世

例: 更新世の場合 →

更新世~鮮新世

例: 地質時代が不明の場合 →

地質時代不明

(3) 地質時代区分(コード)

地質時代区分を表 2-66 から選択し、コードを記入する。地質時代区分コードは形成年代上限、形成年代下限、変成年代上限、変成年代下限に分けて記入する。

範囲のない地質時代の場合は、上限と下限に同一のコードを記入する。

地質時代が不明な場合は、コード「000000000」を記入する。

例：完新世の場合 → （上限：完新世、下限：完新世のコード）

1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例：更新世～鮮新世の場合 → （上限：更新世、下限：鮮新世のコード）

1	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例：地質時代が不明の場合 → （上限、下限：地質時代不明のコード）

1	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

表 2-66 地質時代区分コード

地質時代	コード
顕生代	100000000
新生代	110000000
第四紀	111000000
完新世	111010000
ステージ 1	111010100
完新世後期	111010010
完新世中期	111010020
完新世前期	111010030
更新世	111020000
後期更新世	111021000
後期更新世後期	111021010
後期更新世中期	111021020
後期更新世前期	111021030
ステージ 2	111021100
ステージ 3	111021200
ステージ 4	111021300
ステージ 5a（ステージ 5.1）	111021400
ステージ 5b（ステージ 5.2）	111021500
ステージ 5c（ステージ 5.3）	111021600
ステージ 5d（ステージ 5.4）	111021700
ステージ 5e（ステージ 5.5）	111021800
中期更新世	111022000
中期更新世後期	111022010
中期更新世前期	111022030
ステージ 6	111022100
ステージ 7	111022200
ステージ 8	111022300
ステージ 9	111022400
ステージ 10	111022500
ステージ 11	111022600
ステージ 12	111022700
ステージ 13	111022800
ステージ 19	111022900
前期更新世	111023000
カラブリアン期	111023100
ジェラシアン期	111023200

地質時代	コード
新第三紀	113000000
鮮新世	113010000
後期鮮新世	113011000
ビアセンジアン期	113011100
前期鮮新世	113013000
ザンクリアン期	113013100
中新世	113020000
後期中新世	113021000
メッシニアン期	113021100
トートニアン期	113021200
中期中新世	113022000
サーラバニアン期	113022100
ランギアン期	113022200
前期中新世	113023000
バーディガニアン期	113023100
バーディガニアン期後期	113023110
バーディガニアン期前期	113023130
アキタニアン期	113023200
アキタニアン期後期	113023210
アキタニアン期前期	113023230
古第三紀	114000000
漸新世	114010000
後期漸新世	114011000
チャッティアン期	114011100
チャッティアン期後期	114011110
チャッティアン期前期	114011130
前期漸新世	114013000
ルペリアン期	114013100
ルペリアン期後期	114013110
ルペリアン期前期	114013130
始新世	114020000
後期始新世	114021000
プリアボニアン期	114021100
中期始新世	114022000
バートニアン期	114022100
ルテシアン期	114022200
前期始新世	114023000
ヤプレシアン期	114023100
暁新世	114030000
後期暁新世	114031000
サネティアン期	114031100
セランディアン期	112341200
前期暁新世	114033000
ダニアン期	114033100
中生代	120000000
白亜紀	121000000

地質時代	コード
後期白亜紀	121100000
セノニアン世	121110000
マーストリヒチアン期	121110100
カンパニアン期	121110200
サントニアン期	121110300
コニアシアン期	121110400
ガッリク世	121120000
チューロニアン期	121120100
セノマニアン期	121120200
セノマニアン期後期	121120210
セノマニアン期前期	121120230
前期白亜紀	121200000
アルビアン期	121220100
アプチアン期	121220200
バレミアン期	121220300
ネオコミアン世	121230000
オーテリビアン期	121230100
バラングニアン期	121230200
ベリアシアン期	121230300
ジュラ紀	122000000
後期ジュラ紀（マルム世）	122010000
チトニアン期	122010100
キンメリッジアン期	122010200
オックスフォードニアン期	122010300
中期ジュラ紀（ドッガー世）	122020000
カロビアン期	122020100
バトニアン期	122020200
バジジョシアン期	122020300
アーレニアン期	122020400
前期ジュラ紀（リアス世）	122030000
トアルシアン期	122030100
プリンスバッキアン期	122030200
シネムーリアン期	122030300
ヘッタンギアン期	122030400
三畳紀	123000000
後期三畳紀	123010000
レーティアン期	123010100
ノーリアン期	123010200
カーニアン期	123010300
中期三畳紀	123020000
ラディニアン期	123020100
アニシアン期	123020200
前期三畳紀	123030000
オレネキアン期	123030100
インデュアン期	123030200
古生代	130000000

地質時代	コード
ペルム紀	131000000
後期ペルム紀	131010000
チャンシנגリアン期	131010100
ウーチアピンジアン期	131010200
中期ペルム紀	131020000
キャピタニアン期	131020100
ワーディアン期	131020200
ローディアン期	131020300
前期ペルム紀	131030000
クンゲーリアン期	131030100
アルチンスキアン期	131030200
サクマーリアン期	131030300
アッセリアン期	131030400
石炭紀	132000000
ペンシルバニアン紀	132100000
後期石炭紀	132110000
グーゼリアン期	132110100
カシモービアン期	132110200
中期石炭紀	132120000
モスコビアン期	132120300
バシキーリアン期	132120400
ミシシッピアン紀	132200000
前期石炭紀	132230000
サープクホリアン期	132230100
ビゼーアン期	132230200
トルネーシアン期	132230300
デボン紀	133000000
後期デボン紀	133010000
中期デボン紀	133020000
前期デボン紀	133030000
シルル紀	134000000
プリドリ世	134010000
ラウド世	134020000
ウェンロック世	134030000
ランドベリ世	134040000
オルドビス紀	135000000
後期オルドビス紀	135010000
中期オルドビス紀	135020000
前期オルドビス紀	135030000
カンブリア紀	136000000
後期カンブリア紀 (フロンギアン世)	136010000
中期カンブリア紀	136020000
前期カンブリア紀	136030000
原生代	200000000
新原生代	210000000
エディアカラ紀	211000000

地質時代	コード
キオゲニアン紀	212000000
トニアン紀	213000000
中原生代	220000000
ステニアン紀	221000000
エクタシアン紀	222000000
カリミアン紀	223000000
古原生代	230000000
スタテリアン紀	231000000
オロシリアン紀	232000000
リアキアン紀	233000000
シデリアン紀	234000000
始生代	300000000
新始生代	310000000
中始生代	320000000
古始生代	330000000
原始生代	340000000

2-25 02 様式:地層・岩体区分

地層・岩体区分は 02 様式に定める項目を記入する。

02様式:地層・岩体区分										
区間深度										地層・岩体名
上限深度 (m)					下限深度 (m)					
		0	.	0 0		2 4	.	5 5	〇〇層	
	2 4	.	5 5		3 0	.	1 5	△△層群		
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				
		.				.				

【解説】

(1) 区間深度(実数)

地層・岩体区分を行う区間の上端深度、 ならびに下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 区間深度: 10.00 ~ 10.84m →

	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(2) 地層・岩体名(文字)

対応する地層・岩体名を記入する。

例: △△層群 →

△△層群

例: 〇〇岩類 →

〇〇岩類

例: □□火山 →

□□火山

例: ××花崗岩 →

××花崗岩

2-26 P 様式 : 孔内水位

ボーリング孔の孔内水位は、P 様式の定める項目を記入する。

P様式: 孔内水位																
測定年月日								削孔状況	孔内水位				水位種別・備考			
年				月		日										
2	0	0	1	0	5	2	0	1					9	1	水位無し	
2	0	0	1	0	5	2	1	1		5	.	0	5	1	3	

【解説】

(1) 測定年・月・日(整数)

孔内水位の測定年・月・日を、それぞれ4桁(西暦)、2桁、2桁で記入する。

例:2001年5月1日 →

2	0	0	1	0	5	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 削孔状況(コード・文字)

孔内水位測定時の削孔状況を表 2-67 から選択し、コードで記入する。「9 その他」を選択した場合は、詳細について文字で記入する。

例:作業開始時 →

1	
---	--

表 2-67 削孔状況コード

コード	削孔状況
1	作業開始時
2	作業中
3	作業終了時
4	削孔完了後
9	その他(不明含む)

(3) 孔内水位(実数)

孔内水位について記入する。単位は GL. -m とし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。水位が地表面より高い場合は、-(マイナス)表記とし、「(4) 水位種別・備考」欄に自噴、被圧を明記する。

例:GL. -6.30m →

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

GL. +3.00m →

	-	3	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(4) 水位種別・備考(文字)

孔内水位に関する種別・備考を記入する。

例:清水位、被圧の場合 →

清水位、被圧

例:水位無しの場合 →

水位無し

2-27 Q1 様式:削孔工程

ボーリングの削孔工程は、Q1 様式に定める項目を記入する。

Q1様式: 削孔工程																			
測定年月日						削孔深度				ケーシング 下端深度									
年		月		日															
2	0	0	1	0	5	0	1			3	.	0	0			3	.	0	0
2	0	0	1	0	5	0	8			6	.	0	0			6	.	0	0
2	0	0	1	0	5	0	9		1	0	.	0	0		1	0	.	0	0
2	0	0	1	0	5	1	0		1	5	.	0	0		1	5	.	0	0
2	0	0	1	0	5	1	1		1	7	.	0	0		1	7	.	0	0
2	0	0	1	0	5	1	5		1	8	.	0	0		1	8	.	0	0
2	0	0	1	0	5	1	6		2	1	.	0	0		2	1	.	0	0
2	0	0	1	0	5	1	7		2	4	.	0	0		2	4	.	0	0
2	0	0	1	0	5	1	9		2	7	.	0	0		2	7	.	0	0
											.						.		

【解説】

(1) 削孔年・月・日(整数)

削孔年・月・日を、それぞれ4桁(西暦)、2桁、2桁で記入する。

例:2001年5月1日 →

2	0	0	1	0	5	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 削孔深度(実数)

削孔年月日に対応した作業終了時の削孔深度を記入する。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例:6.30m →

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

(3) ケーシング下端深度(実数)

削孔年月日に対応した作業終了時のケーシング下端深度を記入する。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例:6.30m →

		6	.	3	0
--	--	---	---	---	---

2-28 Q2 様式：孔径・孔壁保護

ボーリングの孔径・孔壁保護は、Q2 様式に定める項目を記入する。

Q2様式：孔径・孔壁保護											
下端深度 (m)					孔径 (mm)			孔壁保護			
								方法		実施理由	
		1	.	8 0			8 6	2			崩壊
		3	.	0 0			8 6	2			崩壊
		7	.	4 0			8 6	2			崩壊
1	0	.	6 0			6 6	3			湧水	
2	2	.	4 5			6 6					
2	3	.	7 0			6 6					
2	4	.	5 5			6 6					
2	7	.	9 5			6 6					
3	0	.	1 5			6 6					
		.									

【解説】

(1) 下端深度(実数)

孔径、孔壁保護を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例：下端深度 10.60m →

	1	0	.	6	0
--	---	---	---	---	---

(2) 孔径(整数)

孔径を mm 単位で記入する。

例：孔径 66mm →

		6	6
--	--	---	---

(3) 孔壁保護方法(コード、文字)

孔壁保護を実施した場合、孔壁保護方法を表 2-68 から選択し、コードで記入する。「9 その他」を選択した場合にはその内容を文字で記入する。

例：ケーシング挿入 →

2	
---	--

表 2-68 孔壁保護方法コード

コード	記号	孔壁保護方法
1	B1	泥水
2	B2	ケーシング
3	B3	セメンティング
9	B4	その他(不明含む)

(4) 孔壁保護実施理由(文字)

孔壁保護を実施した場合、孔壁保護実施理由を、表 2-69 を参考に文字で記入する。

例:崩壊防止のため、ケーシング挿入 →

崩壊

例:湧水防止のため、セメンティング実施 →

湧水

表 2-69 孔壁保護実施理由

孔壁保護の理由	解 説
崩 壊	削孔した区間で、孔壁崩壊の恐れのあるもの。
逸 水	削孔した区間で、孔壁からの地下水の漏水が著しいもの。
湧 水	削孔した区間で、孔壁からの地下水の湧出が著しいもの。
その他	その他の理由により、孔壁保護を必要とするもの。

2-29 Q3 様式:削孔速度

ボーリングの削孔速度は、Q3 様式に定める項目を記入する。

Q3様式:削孔速度									
下端深度(m)						削孔速度(cm/h)			
		1	.	6	0		6	0	
		7	.	0	0	1	0	0	
		9	.	0	0		8	0	
	1	4	.	5	0	1	2	0	
			.						
			.						
			.						
			.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

削孔速度を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例:30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 削孔速度(整数)

削孔速度を、cm/h 単位で記入する。削孔速度は、1 掘進ごとの削孔区間長と実所要時間より求め記入するもので削孔に要する他の工程は含まない。

例:100 cm/h →

1	0	0
---	---	---

2-30 Q4 様式:コアチューブ・ビット

ボーリングのコアチューブ・ビット情報は、Q4 様式に定める項目を記入する。

Q4様式:コアチューブ・ビット									
下端深度(m)					コアチューブ名		ビット名		
		1	.	5	0	シングルコアチューブ	メタルクラウン		
	2	2	.	0	0	ダブルコアチューブ	ダイヤモンドビット		
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

コアチューブ名・ビット名を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) コアチューブ名・ビット名(文字)

コアチューブ名・ビット名には使用したコアチューブ・ビットの種類を記入する。

例: ダブルコアチューブ、ダイヤモンドビット →

ダブルコアチューブ

ダイヤモンドビット

2-31 Q5 様式:給圧

ボーリングの給圧情報は、Q5 様式に定める項目を記入する。

Q5様式:給圧									
下端深度(m)					給圧(MPa)				
		1	.	5	0			1	0
		7	.	0	0			1	5
		9	.	0	0			1	0
	2	2	.	0	0			2	0
			.					.	
			.					.	
			.					.	
			.					.	

【解説】

(1) 下端深度(実数)

給圧を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 給圧(実数)

削孔時の給圧を記入する。単位は MPa とし、小数点以下 1 桁まで記入する。

例: 1MPa →

		1	.	0
--	--	---	---	---

2-32 Q6 様式:回転数

ボーリングの回転数情報は、Q6 様式に定める項目を記入する。

Q6様式:回転数									
下端深度(m)						回転数(rpm)			
		3	.	5	0	1	2	0	
		5	.	2	0	2	5	0	
		7	.	0	0	3	0	0	
	1	4	.	5	0	3	5	0	
			.						
			.						
			.						
			.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

回転数を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例:30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 回転数(整数)

削孔時の回転数を rpm 単位で記入する。

例:120rpm →

1	2	0
---	---	---

2-33 Q7 様式:送水条件

ボーリングの送水条件は、Q7 様式に定める項目を記入する。

Q7様式:送水条件													
下端深度 (m)					送水圧 (MPa)			送水量 (L/min)		排水量 (L/min)		送水種類	
		3	.	5	0		0	.	0			0	1
		5	.	2	0		1	.	0		6	0	2
		7	.	0	0		1	.	0		4	0	2
	1	4	.	5	0		1	.	0		3	0	2
			.					.					
			.					.					
			.					.					
			.					.					

【解説】

(1) 下端深度(実数)

送水条件を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例:30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 送水圧(実数)

削孔時の送水圧を記入する。単位は MPa とし、小数点以下 1 桁まで記入する。

例:1MPa →

		1	.	0
--	--	---	---	---

(3) 送水量(整数)

削孔時の送水量を L/min 単位で記入する。

例:30 L/min →

	3	0
--	---	---

(4) 排水量(整数)

削孔時の排水量を L/min 単位で記入する。

例:15 L/min →

	1	5
--	---	---

(5) 送水種類(コード・文字)

削孔水の種類を表 2-70 から選択し、コードで記入する。また、補足すべき事項がある場合や「9 その他」を選択した場合には文字で記入する。

例:泥水 →

3	ベントナイト泥水
---	----------

表 2-70 削孔水種類コード

コード	記号	削孔水種類
1	W1	無水
2	W2	清水
3	W3	泥水
4	W4	界面活性剤
5	W5	増粘剤
9	W9	その他(不明含む)

2-34 R 様式:断層・破砕帯区分

断層・破砕帯区分は、R 様式に定める項目を記入する。

R様式:断層・破砕帯区分													
上端深度 (m)					下端深度 (m)					性状		備考	
3	0	.	1	5	3	0	.	2	5	4			
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						
		.					.						

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(実数)

断層・破砕帯を区分する上端深度と下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 区間深度: 30.00m~30.15m →

	3	0	.	0	0		3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(2) 性状(コード・文字)

断層・破砕帯の性状を表 2-71 から選択し、コードを記入する。「9 その他」を選択した場合には文字で記入する。

例: 角礫状 →

4	
---	--

例: 圧砕岩 →

9	圧砕岩
---	-----

表 2-71 断層・破砕帯の性状コード

コード	性 状
1	シュードタキライト化
2	マイロナイト化
3	カタクラサイト化
4	角礫状
5	砂・礫混じり粘土状
6	粘土状
7	破砕帯
9	その他(不明含む)

(3) 備考(文字)

必要に応じて、断層・破砕帯に関するコメントを記入する。

例: 白色粘土を挟む →

白色粘土を挟む

2-35 S1 様式:コア採取率

コア採取率は、S1 様式に定める項目を記入する。

S1 様式:コア採取率									
下端深度 (m)						コア採取率 (%)			
		1	.	0	0		7	5	
		2	.	0	0		8	3	
		3	.	0	0		9	3	
		4	.	0	0		9	5	
		5	.	0	0		8	4	
		6	.	0	0		9	4	
		8	.	0	0		9	5	
		9	.	3	0	1	0	0	

【解説】

(1) 下端深度 (実数)

コア採取率を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) コア採取率 (整数)

コア採取率はサンプラー引き上げ毎の値を%単位で記入する。

コア採取率 = (コア総長 × 100%) / 1 削孔長

例: 85% →

	8	5
--	---	---

2-36 S2 様式:最大コア長

最大コア長は、S2 様式に定める項目を記入する。

S2様式:最大コア長									
下端深度(m)						最大コア長(cm)			
		0	.	5	0				5
		1	.	5	0				6
		3	.	5	0				0
		4	.	5	0				0
		5	.	5	0		1		4
		6	.	5	0		1		5
		6	.	5	0		2		7
		7	.	5	0		1		7

【解説】

(1) 下端深度(実数)

最大コア長を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 30.15m →

	3	0	.	1	5
--	---	---	---	---	---

(2) 最大コア長(整数)

最大コア長は 1 削孔長当たりの値を cm 単位で記入する。

例: 25cm →

	2	5
--	---	---

2-37 S3 様式:RQD

RQD は、S3 様式に定める項目を記入する。

S3様式:RQD									
下端深度(m)						RQD (%)			
		4	.	0	0				0
		5	.	0	0				0
		6	.	0	0				0
		7	.	0	0				0
		8	.	0	0		3		1
		9	.	0	0		2		6
	1	0	.	0	0		4		7
	1	1	.	0	0		1		7

【解説】

(1) 下端深度(実数)

RQD を記入する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例:10.00m →

	1	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(2) RQD(整数)

RQD は 1 削孔長当たりの値を%単位で記入する。

$RQD = (10\text{cm 以上のコアの総長} \times 100\%) / 1 \text{ 削孔長}$

例:35% →

	3	5
--	---	---

2-38 S4 様式:コア質量

コア質量は、S4 様式に定める項目を記入する。

S4様式:コア質量									
下端深度 (m)					コア質量 (kg)				
		3	.	0 0	1	2	.		4
		6	.	0 0	1	2	.		5
		9	.	0 0	1	2	.		8
	1	2	.	0 0	1	3	.		5
	1	5	.	0 0	1	6	.		1
	1	8	.	0 0	1	4	.		7
	2	1	.	0 0	1	5	.		3

【解説】

(1) 下端深度(実数)

コア質量を記入する下端深度を記入する。単位はm とし、小数点以下2 桁 (cm) まで記入する。

例:12.00m →

	1	2	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(2) コア質量(実数)

コア質量を記入する。単位はkg とし、小数点以下1 桁まで記入する。

例:12.8kg →

1	2	.	8
---	---	---	---

2-39 T1 様式:岩級区分

岩級区分は、T1 様式に定める項目を記入する。

T1様式:岩級区分									
下端深度(m)					岩級区分 (コード)				
		3	.	5 0	9	6	0		
		5	.	3 0	9	6	0		
		7	.	0 0	9	5	0		
	1	0	.	0 0	9	3	0		
			.						
			.						
			.						
			.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

岩級区分を記入する下端深度を記入する。単位はmとし、小数点以下2桁(cm)まで記入する。

例: 7.00m →

		7	.	0	0
--	--	---	---	---	---

(2) 岩級区分(コード)

T1S 様式で記載した岩級区分コードを記入する。

例: 960 →

9	6	0
---	---	---

(3) T1S 様式:岩級区分判定表

岩級区分判定表を T1S 様式に従い記入する。

- 1) コードは整数 3 桁とし、901～999 を使用する。将来的に区分が変更や細区分が追加などを想定して、10 ごと(910、920…)にコードを使用することを推奨する。
- 2) 区分は柱状図に示す岩級区分の記号(A、B、C_Hなど)を記入する。
- 3) 岩級区分判定には項目とその説明を個々に記入する。

表 2-72 岩級区分判定表 (T1S 様式)

コード			区 分	岩級区分判定					
				項 目	項 目	項 目	項 目	項 目	項 目
9	x	x	△	説 明	説 明	説 明	説 明	説 明	説 明
9	x	x	△	説 明	説 明	説 明	説 明	説 明	説 明
9	x	x	△	説 明	説 明	説 明	説 明	説 明	説 明

表 2-73 岩級区分判定表(T1S 様式) 記入例

(例 1)

コード			区分	岩級区分判定					
				色調	1. 硬軟の程度	2. 風化変質の程度(細区分)	3. 割れ目の状態	4. コアの状態(細区分)	備 考
9	1	0	A	青灰～乳灰	極硬 ハンマーで叩くと金属音。 D.Bで2cm/min以下。	亀裂面ともおおむね新鮮。 未風化。 (A)	亀裂少なく、おおむね20～50cmで密着している。	棒状～長柱状でおおむね30cm以上で採取される。 (1)	—
9	2	0	B	乳灰～(淡)褐灰	硬 ハンマーで軽い金属音。 D.Bで2-4cm/min。	おおむね新鮮なるも、亀裂面に沿って若干風化。 変質褐色を帯びる。(B)	割れ目間隔5～15cmを主とし、一部開口している。	短柱～棒状でおおむね20cm以下。 (2)	3、4Aなるも1、2がBのもの。 1、2Aなるも3、4Bのもの。
9	3	0	CH	褐灰～(淡)灰褐	中硬 ハンマーで叩くと濁音。小刀で傷つく硬さ。D.Bで3cm/min以上。	割れ目に沿って風化進行、長石等は一部変色変質している。(C)	割れ目発達、開口部に一部粘土はさむ。 ヘアクラック発達。 割れ易い。	大岩片状でおおむね10cm以下で、5cm前後のもの多い。原型復旧可。(3)	短柱状なるも風化進行軟質のもの。
9	4	0	CM	灰褐～淡黄褐	やや軟～硬。ハンマーで叩くと軽く割れる。爪で傷つくことあり。D.Bで掘進適。	岩内部の一部を除き風化進行、長石、雲母はおおむね変質している。(D)	割れ目多く発達5cm以下、開口して粘土はさむ。	岩片～細片(角礫)状で砕け易い、不円形多く原型復旧困難。 (4)	軟岩で容易に砕け易いもの。
9	5	0	CL	淡黄褐～黄褐	軟極く脆弱で指で割れ、つぶれる。M.Cで掘進可。	岩内部まで風化進行するも、岩構造を残し石英未風化で残る。(E1)	割れ目多いが粘土化進行、土砂状で密着している。	細片状で岩片残し、指で砕けて粉状。円形コアなし。(5)	破砕帯でコア部のみ細片状で採取のもの。
9	6	0	D	黄褐	極軟粉体になりやすい。M.Cで無水堀可。	おおむね一様に風化進行、マサ土化している。わずかに岩片を残す。(E2)	粘土化進行のためクラックなし。	土砂状(6)	破砕帯・粘土化帯でコア採取不可能なもの。

(例 2)

コード			区分	岩級区分判定	
				評価	細区分の組み合わせ
9	1	0	A	良好	A1a, A1b, B1a, B1b
9	2	0	B	やや良好	A1c, A2a, A2b, B1c, B2a, B2b, C1a
9	3	0	C	やや不良	A2c, C1b, C1c, C2a, C2b
9	4	0	D	不良	残りの組み合わせ

2-40 U1 様式:保孔管

保孔管の設置状況は、U1 様式に定める項目を記入する。

U1様式:保孔管									
下端深度(m)						種別	備考		
	2	2	.	5	0	2	VP40ストレーナ加工塩ビパイプ		
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						
			.						

【解説】

(1) 下端深度(実数)

保孔管の設置区間を区分する下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 22.50m →

	2	2	.	5	0
--	---	---	---	---	---

(2) 種別(コード)

保孔管の設置状況の種別を、表 2-74 から選択し、コードで記入する。

例: 有孔区間 →

2

表 2-74 保孔管設置状況の種別コード

コード	保孔管設置状況の種別	備 考
1	保孔管無し	塩ビパイプ等の保孔管を設置していない区間。
2	有孔区間	塩ビパイプ等の保孔管にストレーナー加工を施している区間。
3	無孔区間	塩ビパイプ等の保孔管に加工を施していない区間。
4	遮水区間	孔をセメント等で充填し、遮水している区間。
9	その他(不明含む)	—

(3) 備考(文字)

必要に応じて、保孔管の設置状況に関するコメントを記入する。

例: VP40 ストレーナ加工塩ビパイプ →

VP40 ストレーナ加工塩ビパイプ

2-41 U2 様式:計測機器

ボーリング孔内に設置した計測機器は、U2 様式に定める項目を記入する。

U2様式:計測機器													
設置区間										計測機器種別	備考		
上端深度(m)					下端深度(m)								
	1	0	.	0	0		1	0	.	0	0	地下水位計	
			.						.				
			.						.				
			.						.				
			.						.				
			.						.				
			.						.				
			.						.				
			.						.				

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(実数)

計測機器を設置した上端深度、及び下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで入力する。なお、設置深度に幅がない計測機器については上端深度・下端深度に同一の値を記入する。

例:設置深度 10.00m →

	1	0	.	0	0		1	0	.	0	0
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(2) 計測機器種別(文字)

設置した計測機器の種別を記入する。

例:地下水位計 →

地下水位計

(3) 備考(文字)

必要に応じて、計測機器設置に関するコメントを記入する。

2-42 V1 様式：トレーサーによる地下水流動層検層

トレーサーによる地下水流動層検層は、V1 様式に定める項目を記入する。

V1様式：トレーサーによる地下水流動層検層																																						
地下水流動層 検層番号		検層区間				削孔深度 (m)	孔内水位 (m)	検層 方法	電解質溶液濃度 (%)	測定時間 (min)																												
		上端深度(m)		下端深度(m)						0	5	10	15	30	60	90	120	150	180																			
0	0	0	1	2	4	.	0	0	3	6	.	2	5	3	7	.	0	0	2	3	.	4	0	1	.	1	.	0	0	5	10	15	30	60	90	120	150	180
0	0	0	2	2	4	.	0	0	3	6	.	2	5	3	7	.	0	0	2	3	.	1	5	2	.	1	.	0	0	5	10	15	30	60	90	120	150	180

【解説】

トレーサーによる地下水流動層検層（電気抵抗測定による方法）は、孔内水に食塩などの電解物質を投入し比抵抗値を人工的に下げた後、経時的に孔内水の比抵抗の変化をとらえることにより、地下水流動層の垂直的分布を推定するために行うものである。孔内に温水を投入し孔内温度の時間変化を測定する温度測定による方法については本様式に含めない。

(1) 地下水流動層検層番号(整数)

地下水流動層検層番号を 0001 から連番で付ける。番号は V2 様式と対応させる。

例:0001 →

0	0	0	1
---	---	---	---

(2) 上端深度・下端深度(実数)

地下水流動層検層の検層区間の上端深度、及び下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:試験区間 24. 00～36. 25m →

	2	4	.	0	0		3	6	.	2	5
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(3) 削孔深度(実数)

地下水流動層検層実施時の削孔深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例: 37. 00m →

	3	7	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(4) 孔内水位(実数)

地下水流動層検層実施前の孔内水位を記入する。単位は GL. -m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。水位が地表面より高い場合は－(マイナス)表記とする。

例:GL. -23. 40m →

	2	3	.	4	0
--	---	---	---	---	---

(5) 検層方法(コード)

地下水流動層検層の検層方法を表 2-75 から選択し、コードで記入する。

例:汲み上げ法 (水位変化法) →

2

表 2-75 地下水流動層検層方法コード

コード	地下水流動層検層方法
1	自然水位法
2	汲み上げ法 (水位変化法)
9	その他(不明含む)

(6) 電解質溶液濃度(実数)

孔内に投入した電解質溶液の濃度について記入する。単位は%とし、小数点以下 1 桁まで記入する。

例:1.0% →

		1	.	0
--	--	---	---	---

(7) 測定時間(文字)

比抵抗値の測定時間について、電解物質投入後の経過時間を記入する。単位は分とし、繰り返し記入する。

例:5, 10, 15, 30, 60, 120, 150, 180 分後 →

5
10
15
30
60
90
120
150
180

2-43 V2 様式：トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ

トレーサーによる地下水流動層検層詳細データは、V2 様式に定める項目を記入する。

V2様式：トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ																																		
地下水流動層 検層番号				測定深度 (m)		比抵抗値(Ω・m)																												
						投入前				投入直後				5分後				10分後				15分後				30分後								
0	0	0	1	2	4	.	0	0	1	2	0	.	4	0	0	.	1	1	0	.	1	5	0	.	1	6	0	.	1	6	0	.	1	0
0	0	0	1	2	4	.	2	5	1	2	1	.	0	0	0	.	1	1	0	.	1	4	0	.	1	5	0	.	1	8	0	.	1	9
0	0	0	1	2	4	.	5	0	1	2	1	.	7	0	0	.	1	1	0	.	1	4	0	.	1	6	0	.	1	8	0	.	2	0
0	0	0	1	2	4	.	7	5	1	2	1	.	5	0	0	.	1	2	0	.	3	2	0	.	4	8	0	.	6	0	0	.	7	0
0	0	0	1	2	5	.	0	0	1	2	1	.	8	0	0	.	1	2	0	.	4	5	0	.	7	1	0	.	9	2	1	.	0	6
						.						.				.				.				.										
						.						.				.				.				.										
						.						.				.				.				.										
						.						.				.				.				.										

【解説】

(1) 地下水流動層検層番号(整数)

V1 様式の地下水流動層検層番号に対応するを層検番号を記入する。

例: 0001 →

0	0	0	1
---	---	---	---

(2) 測定深度(実数)

比抵抗値の測定深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 24.00m →

	2	4	.	0	0
--	---	---	---	---	---

(3) 比抵抗値(実数)

測定深度ごとに比抵抗値を記入する。単位は $\Omega \cdot m$ とし、実数で小数点以下 2 桁まで記入する。比抵抗値は電解物質投入前、投入直後、及び、V1 様式で記入した経過時間ごとの値をそれぞれ記入する。

例: 6.76 $\Omega \cdot m$ →

		6	.	7	6
--	--	---	---	---	---

2-44 V3 様式：トレーサーによる地下水流動層検層判定結果

トレーサーによる地下水流動層検層判定結果は、V3 様式に定める項目を記入する。

V3様式:トレーサーによる地下水流動層検層判定結果												
区間										地下水流動層検層結果		
上端深度(m)					下端深度(m)							
	2	0	.	0	0		2	5	.	0	0	上昇流状検出
	2	5	.	0	0		2	8	.	0	0	非検出
	2	8	.	0	0		3	5	.	0	0	下降流状検出
			.						.			
			.						.			
			.						.			
			.						.			
			.						.			

【解説】

(1) 上端深度・下端深度(実数)

地下水流動層検層判定結果を記入する上端深度、下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁 (cm) まで記入する。

例: 深度 28.00～35.00m →

	2	8	.	0	0		3	5	.	0	0
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(2) 地下水流動層検層結果(文字)

ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説に従い、地下水流動層検層結果を文字で記入する。

例: 上昇流状検出 →

上昇流状検出

2-45 Y 様式:備考

深度ごとに備考・コメント等は、Y 様式に定める項目を記入する。

Y様式:備考												
備考タイトル												
試錐日報解析結果												
区間										備考		
上端深度(m)					下端深度(m)							
	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4	難透水層
	1	0	.	8	4		1	5	.	2	2	逸水層
			.						.			
			.						.			
			.						.			
			.						.			
			.						.			
			.						.			
			.						.			

【解説】

(1) 備考タイトル(文字)

深度ごとに備考・コメント等を記入する場合、記入情報、内容を示す副題を記入する。

例:試錐日報解析結果 →

試錐日報解析結果

(2) 上端深度・下端深度(実数)

深度ごとの備考を記入する場合の上端深度、下端深度を記入する。単位は m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:区間 10.00～10.84m →

	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(3) 備考(文字)

各深度ごとに備考等を記入する。改行を必要とする場合は“¥n” (半角、n は小文字)を用いる。

例:難透水層 →

難透水層

2-46 Z 様式:フリー情報

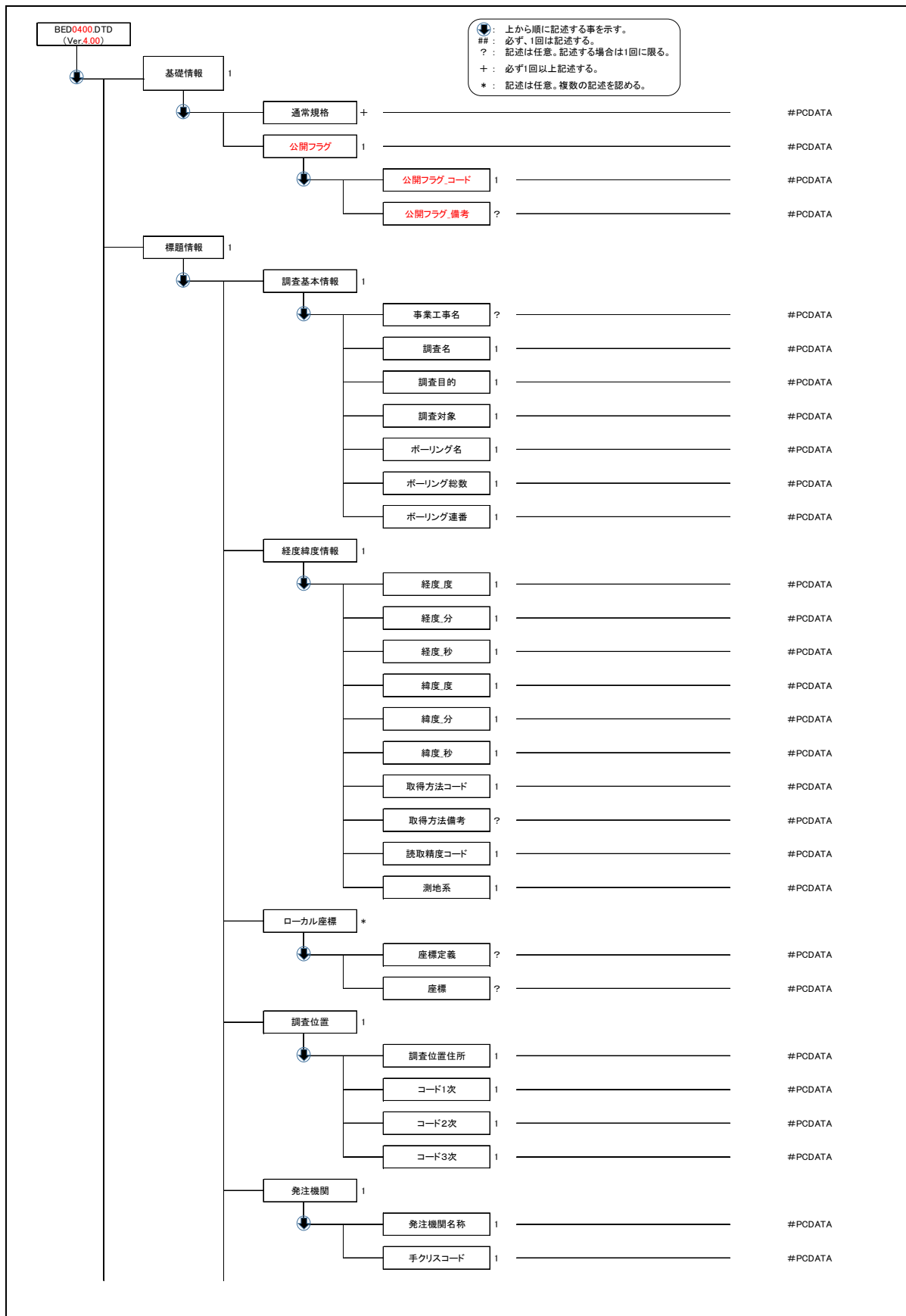
必要に応じて、自由にフォーマットを定義し、記入する。

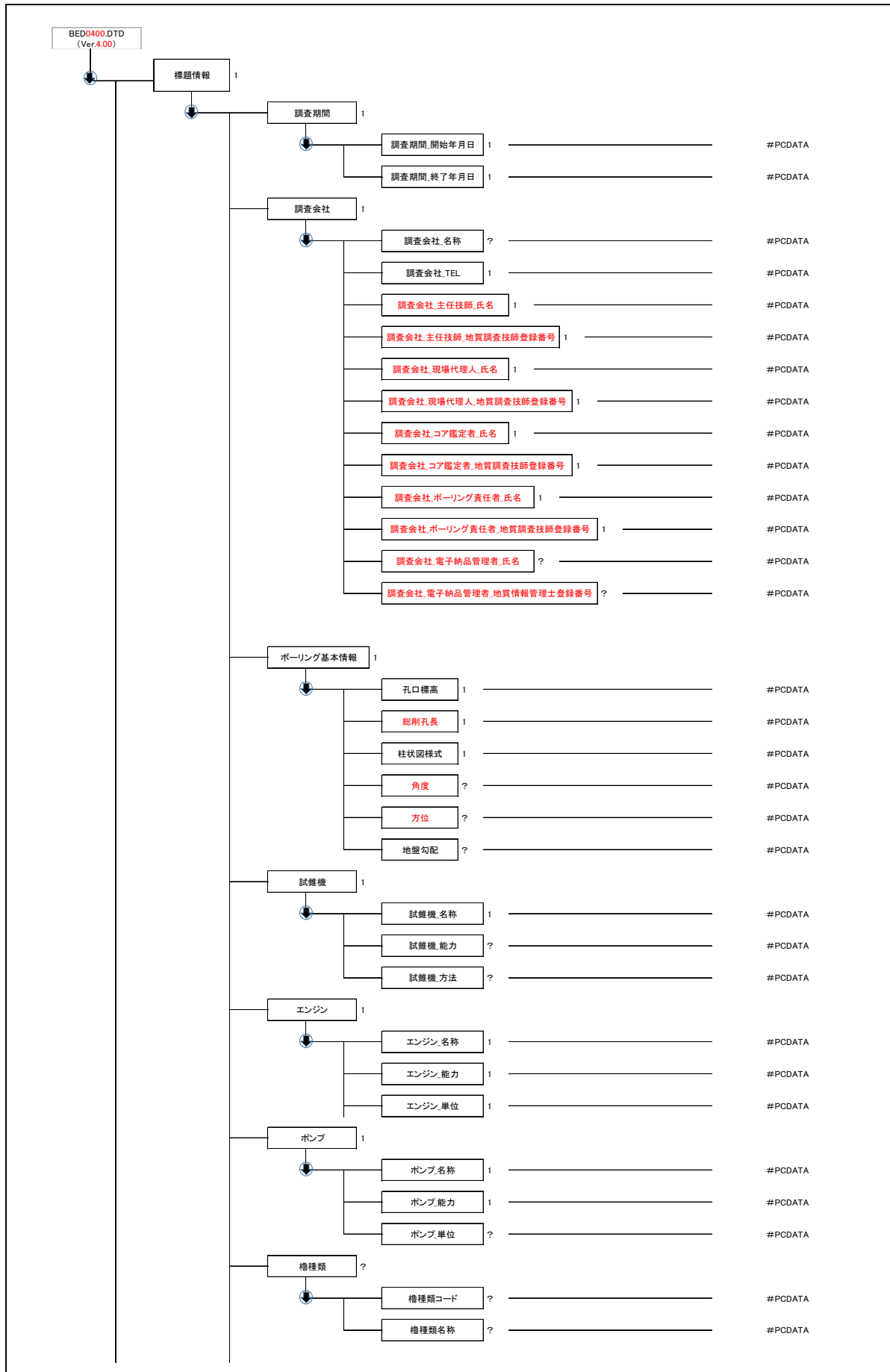
[illegible]

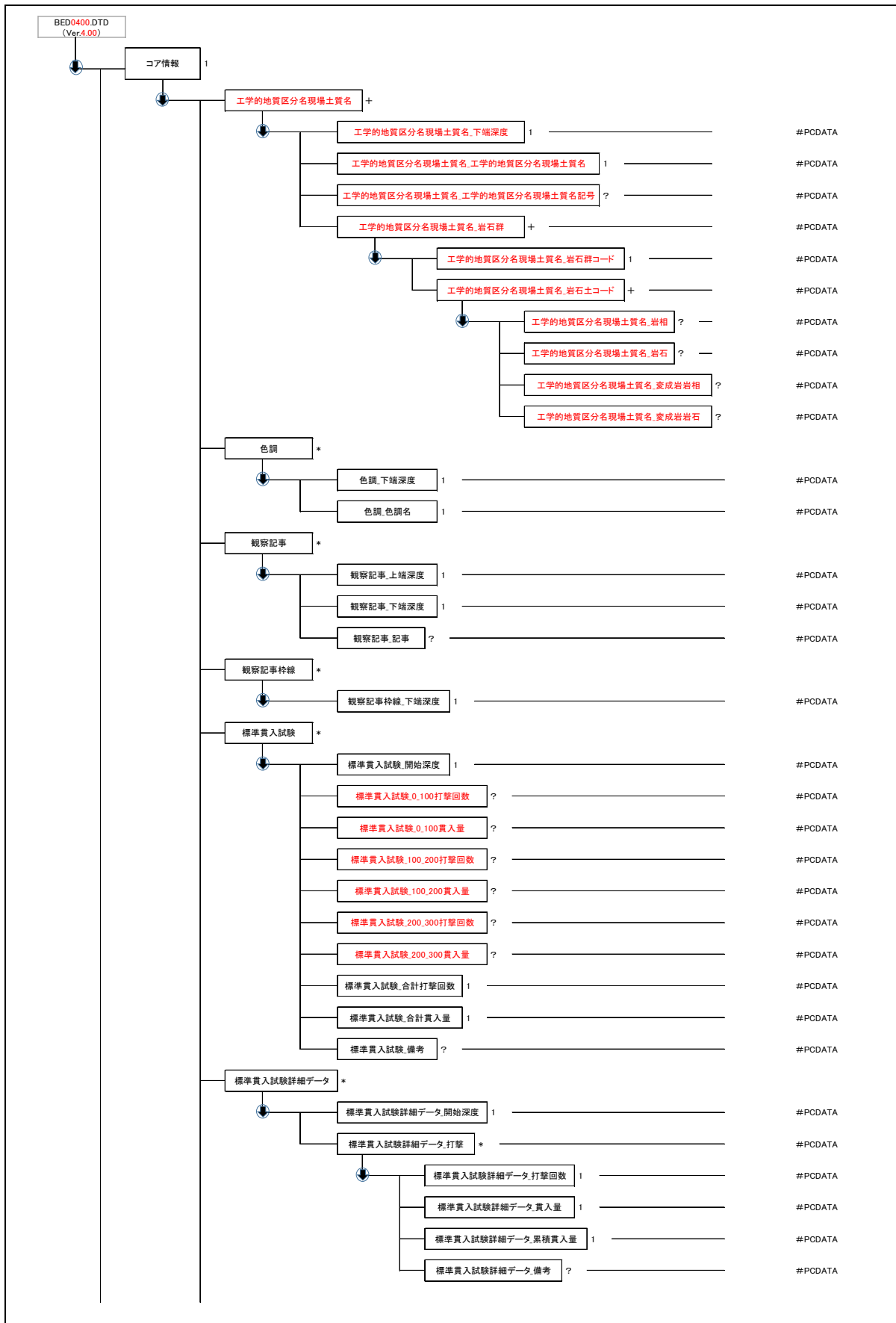
【解説】

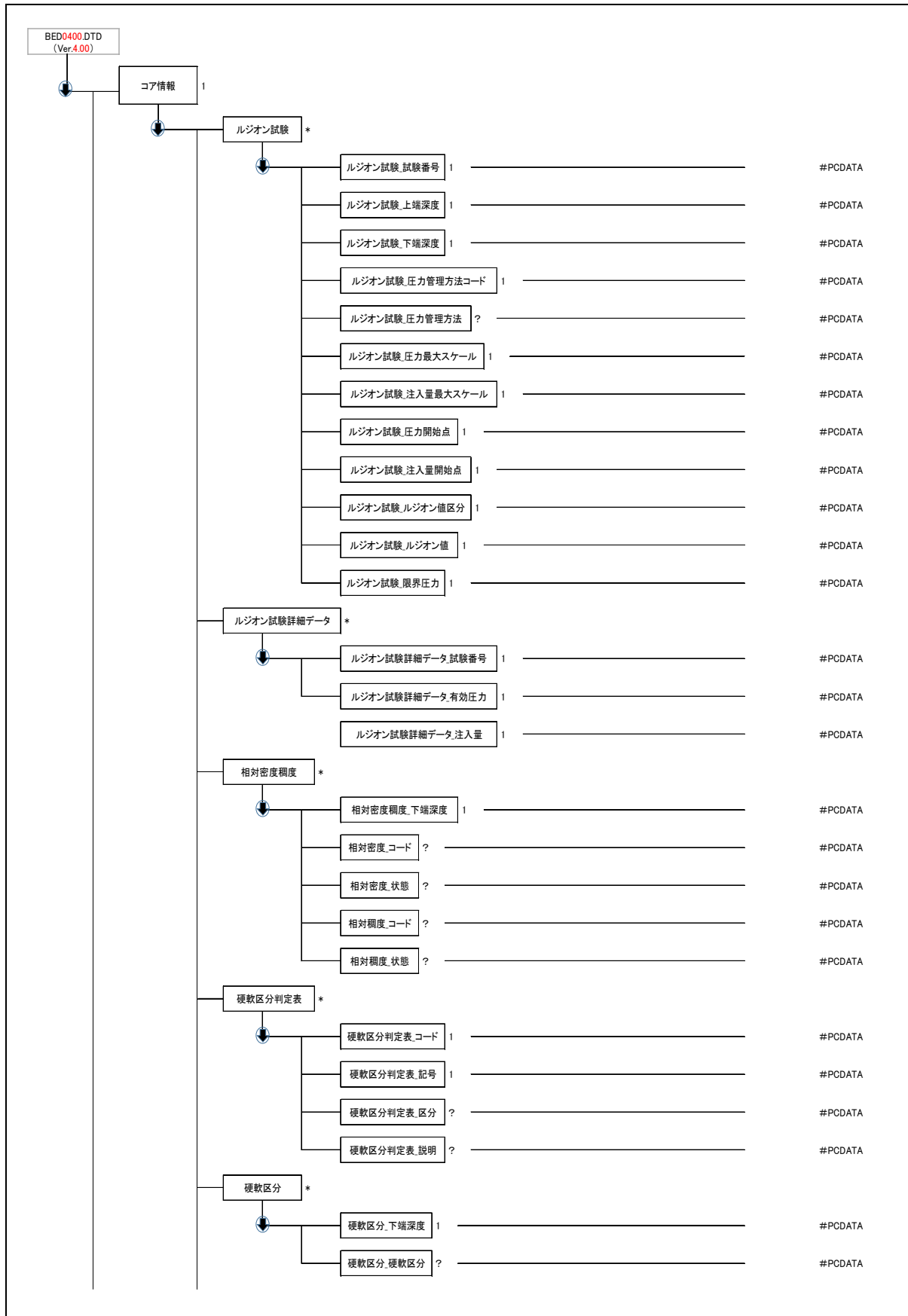
A～Y 様式で記入できない項目について、受発注者協議の上、フォーマットを定めて利用する。

3 ボーリング交換用データの構造図

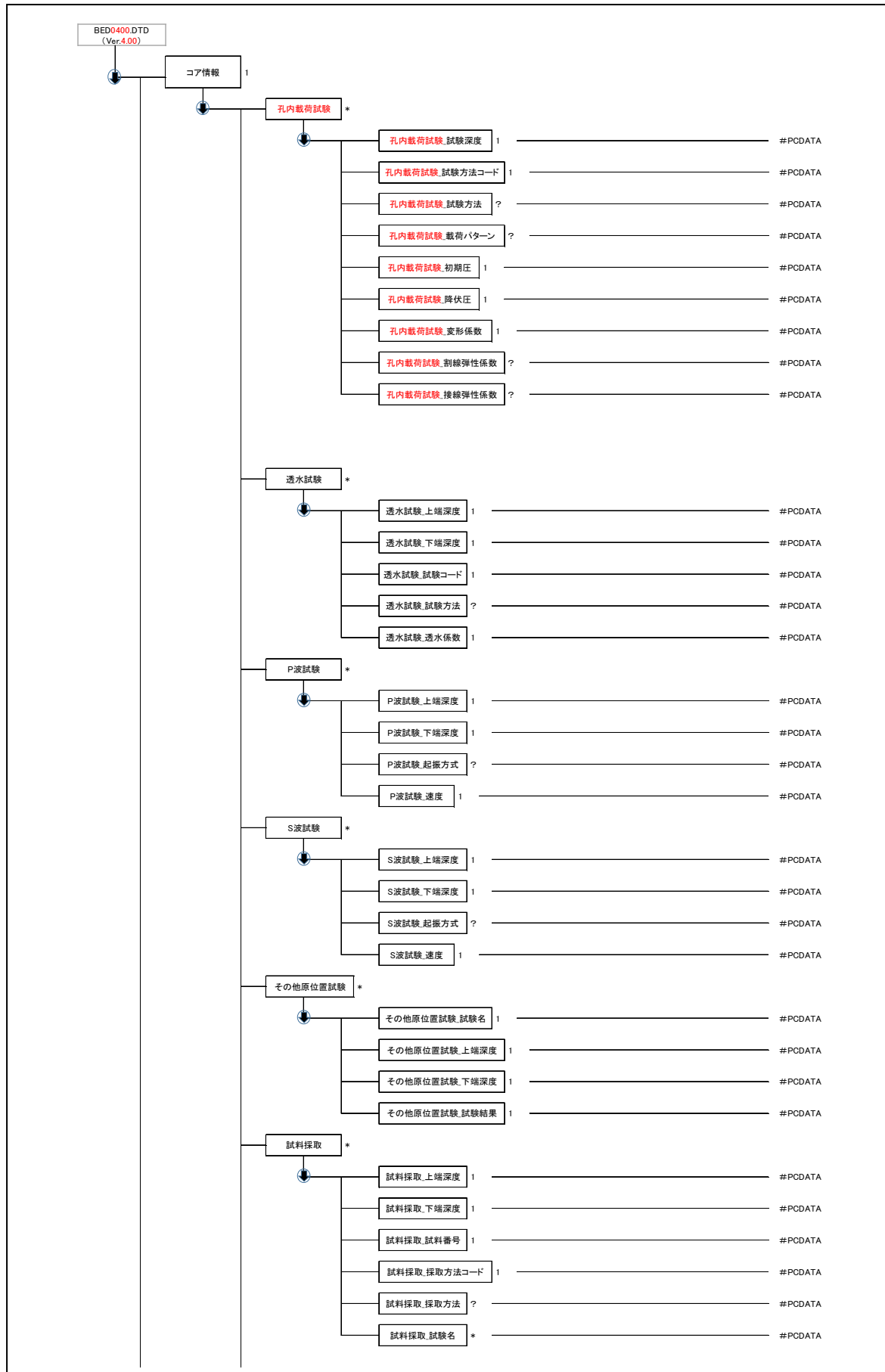




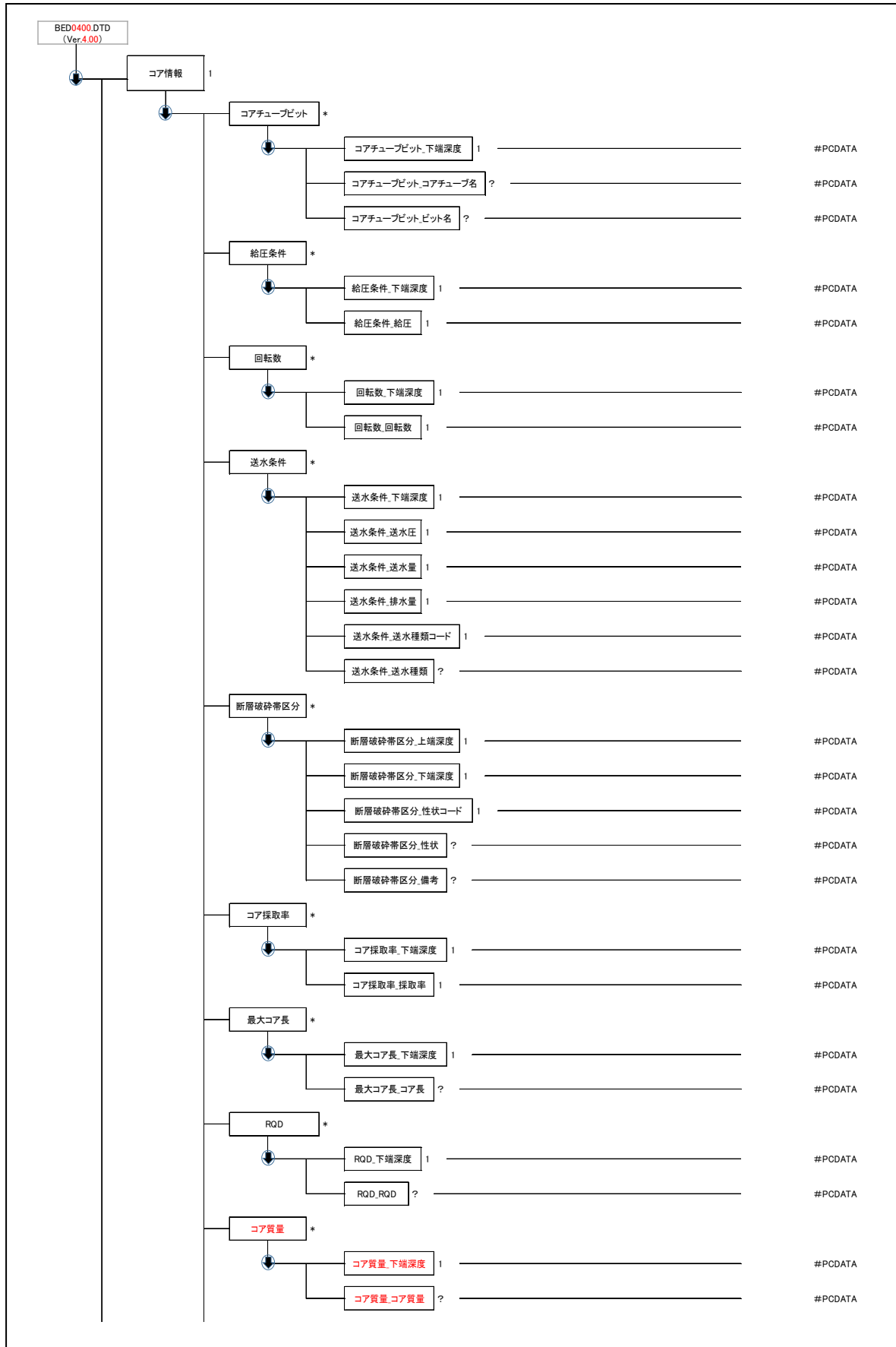




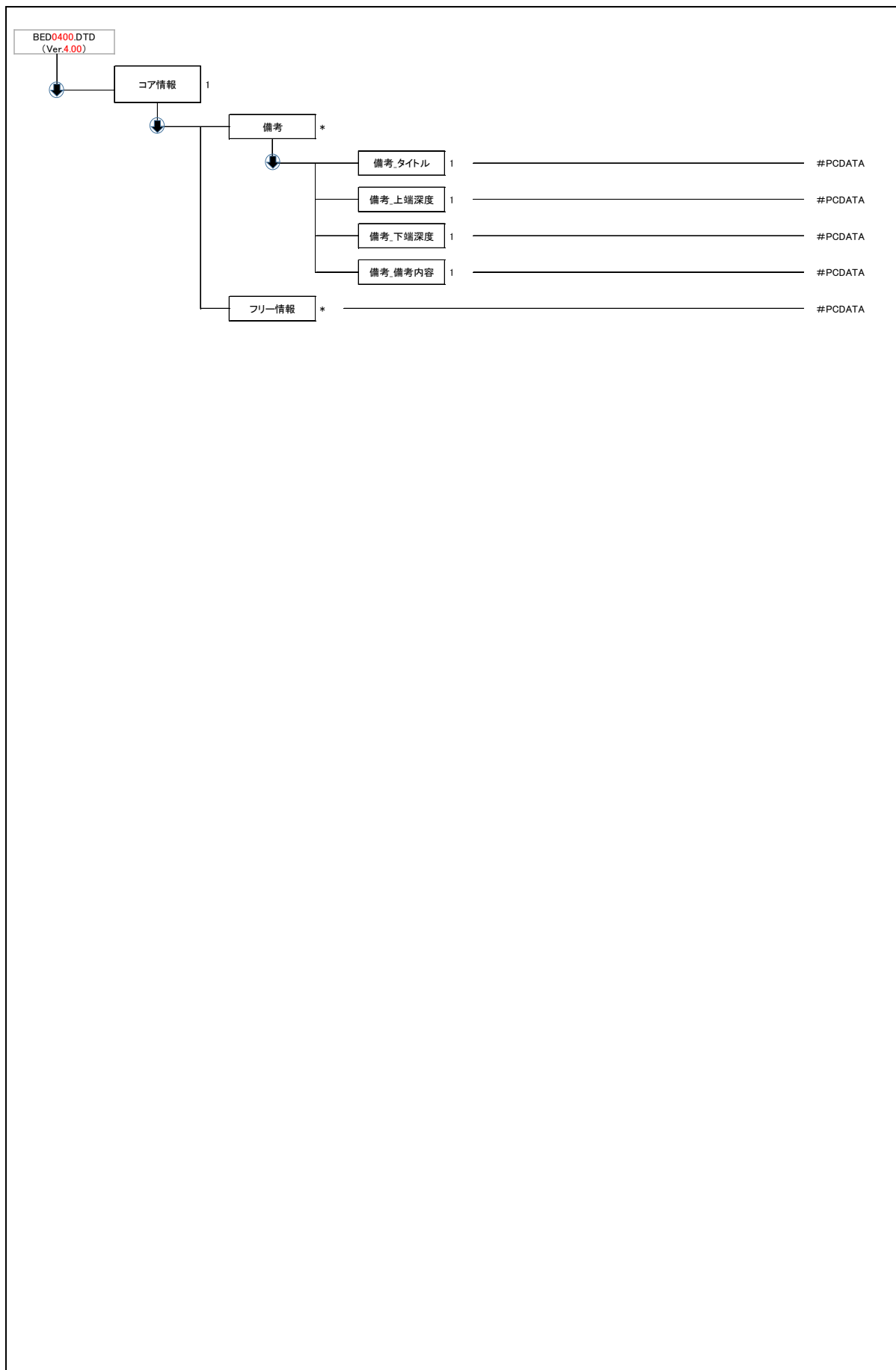
BED0400.DTD (Ver.4.00)	
コア情報	1
ボーリングコアの形状区分判定表 *	
ボーリングコアの形状区分判定表.コード	1
ボーリングコアの形状区分判定表.記号	1
ボーリングコアの形状区分判定表.区分	?
ボーリングコアの形状区分判定表.説明	?
ボーリングコアの形状区分 *	
ボーリングコアの形状区分.下端深度	1
ボーリングコアの形状区分.ボーリングコアの形状区分	?
割れ目の状態区分判定表 *	
割れ目の状態区分判定表.コード	1
割れ目の状態区分判定表.記号	1
割れ目の状態区分判定表.区分	?
割れ目の状態区分判定表.説明	?
割れ目の状態区分 *	
割れ目の状態区分.下端深度	1
割れ目の状態区分.割れ目の状態区分	?
風化の程度区分判定表 *	
風化の程度区分判定表.コード	1
風化の程度区分判定表.記号	1
風化の程度区分判定表.区分	?
風化の程度区分判定表.説明	?
風化の程度区分 *	
風化の程度区分.下端深度	1
風化の程度区分.風化の程度区分	?
熱水変質の程度区分判定表 *	
熱水変質の程度区分判定表.コード	1
熱水変質の程度区分判定表.記号	1
熱水変質の程度区分判定表.区分	?
熱水変質の程度区分判定表.説明	?
熱水変質の程度区分 *	
熱水変質の程度区分.下端深度	1
熱水変質の程度区分.熱水変質の程度区分	?
破砕度判定表 *	
破砕度判定表.項目名 *	
破砕度判定表.判定 *	
破砕度判定表.コード	1
破砕度判定表.記号	1
破砕度判定表.説明 *	
破砕度 *	
破砕度.上端深度	1
破砕度.下端深度	1
破砕度.破砕度	?



BED0400.DTD (Ver.4.00)	
コア情報 1	
地盤材料の工学的分類 *	
地盤分類_下端深度 1	#PCDATA
地盤分類_工学的分類記号 ?	#PCDATA
地質時代 *	
地質時代_上端深度 1	#PCDATA
地質時代_下端深度 1	#PCDATA
地質時代_地質時代名 1	#PCDATA
地質時代_形成年代上限 ?	#PCDATA
地質時代_形成年代下限 ?	#PCDATA
地質時代_変成年代上限 ?	#PCDATA
地質時代_変成年代下限 ?	#PCDATA
地層岩体区分 *	
地層岩体区分_上端深度 1	#PCDATA
地層岩体区分_下端深度 1	#PCDATA
地層岩体区分_地層岩体区分 ?	#PCDATA
孔内水位 *	
孔内水位_測定年月日 1	#PCDATA
孔内水位_削孔状況コード 1	#PCDATA
孔内水位_削孔状況 ?	#PCDATA
孔内水位_孔内水位 1	#PCDATA
孔内水位_水位種別備考 ?	#PCDATA
削孔工程 *	
削孔工程_測定年月日 1	#PCDATA
削孔工程_削孔深度 1	#PCDATA
削孔工程_ケーシング下端深度 ?	#PCDATA
孔径孔壁保護 *	
孔径孔壁保護_下端深度 1	#PCDATA
孔径孔壁保護_孔径 1	#PCDATA
孔径孔壁保護_孔壁保護コード ?	#PCDATA
孔径孔壁保護_孔壁保護方法 ?	#PCDATA
孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由 ?	#PCDATA
削孔速度 *	
削孔速度_下端深度 1	#PCDATA
削孔速度_削孔速度 1	#PCDATA



BED0400.DTD (Ver.4.00)	
コア情報	1
岩級区分判定表 *	
岩級区分判定表_項目名 *	#PCDATA
岩級区分判定表_判定 *	#PCDATA
岩級区分判定表_コード 1	#PCDATA
岩級区分判定表_記号 1	#PCDATA
岩級区分判定表_説明 *	#PCDATA
岩級区分 *	
岩級区分_下端深度 1	#PCDATA
岩級区分_岩級区分 ?	#PCDATA
保孔管 *	
保孔管_下端深度 1	#PCDATA
保孔管_種別コード 1	#PCDATA
保孔管_備考 ?	#PCDATA
計測機器 *	
計測機器_上端深度 1	#PCDATA
計測機器_下端深度 1	#PCDATA
計測機器_機器種別 1	#PCDATA
計測機器_備考 ?	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層 *	
トレーサーによる地下水流動層陰層_陰層番号 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_上端深度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_下端深度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_削孔深度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_孔内水位 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_陰層方法コード 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_電解質溶液濃度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層_測定時間 *	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層詳細データ *	
トレーサーによる地下水流動層陰層詳細データ_陰層番号 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層詳細データ_測定深度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層詳細データ_比抵抗値 *	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層判定結果 *	
トレーサーによる地下水流動層陰層判定結果_上端深度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層判定結果_下端深度 1	#PCDATA
トレーサーによる地下水流動層陰層判定結果_地下水流動層陰層結果 1	#PCDATA



4 ボーリング交換用データの DTD

ボーリング交換用データの DTD (BED0400.DTD) を次に示す。なお、DTD ファイルは、農林水産省のホームページから入手できる。

(農林水産省HP → http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/index.html)

```
<!ELEMENT ボーリング情報 (基礎情報, 標題情報, コア情報)>
<!ATTLIST ボーリング情報 DTD_version CDATA #FIXED "4.00">

<!--*****-->
<!--                基礎情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (適用規格+, 公開フラグ)>
<!ELEMENT 適用規格 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 公開フラグ (公開フラグ_コード, 公開フラグ_備考?)>
<!ELEMENT 公開フラグ_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 公開フラグ_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                標題情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標題情報 (調査基本情報, 経度緯度情報, ローカル座標*, 調査位置, 発注機関, 調査期間, 調査会社, ボーリング基本情報, 試錐機, エンジン, ポンプ, 櫓種類?)>

<!--*****-->
<!--                調査基本情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査基本情報 (事業工事名?, 調査名, 調査目的, 調査対象, ボーリング名, ボーリング総数, ボーリング連番)>
  <!ELEMENT 事業工事名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査目的 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査対象 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング総数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリング連番 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                経度緯度情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 経度緯度情報 (経度_度, 経度_分, 経度_秒, 緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒, 取得方法コード, 取得方法説明?, 読取精度コード, 測地系)>
  <!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 取得方法コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 取得方法説明 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 読取精度コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                ローカル座標                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ローカル座標 (座標定義, 座標)>
  <!ELEMENT 座標定義 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 座標 (#PCDATA)>
```

```

<!--*****-->
<!--          調査位置          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査位置 (調査位置住所, コード1次, コード2次, コード3次)>
  <!ELEMENT 調査位置住所 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コード1次 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コード2次 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コード3次 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          発注機関          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 発注機関 (発注機関名称, テクリスコード)>
  <!ELEMENT 発注機関名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT テクリスコード (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          調査期間          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査期間 (調査期間_開始年月日, 調査期間_終了年月日)>
  <!ELEMENT 調査期間_開始年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査期間_終了年月日 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          調査会社          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 調査会社 (調査会社_名称, 調査会社_TEL, 調査会社_主任技師_氏名, 調査会社_主任技士_地質調査技士登録番号?, 調査会社_現場代理人_氏名, 調査会社_現場代理人_地質調査技士登録番号?, 調査会社_コア鑑定者_氏名, 調査会社_コア鑑定者_地質調査技士登録番号?, 調査会社_ボーリング責任者_氏名, 調査会社_ボーリング責任者_地質調査技士登録番号?, 調査会社_電子納品管理者_氏名?, 調査会社_電子納品管理者_地質情報管理士登録番号?)>
  <!ELEMENT 調査会社_名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_TEL (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_主任技師_氏名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_主任技師_地質調査技士登録番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_現場代理人_氏名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_現場代理人_地質調査技士登録番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_コア鑑定者_氏名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_コア鑑定者_地質調査技士登録番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_ボーリング責任者_氏名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_ボーリング責任者_地質調査技士登録番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_電子納品管理者_氏名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査会社_電子納品管理者_地質情報管理士登録番号 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          ボーリング基本情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリング基本情報 (孔口標高, 総削孔長, 柱状図様式, 角度?, 方位?, 地盤勾配?)>
  <!ELEMENT 孔口標高 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 総削孔長 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 柱状図様式 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 角度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 方位 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地盤勾配 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          試錐機          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 試錐機 (試錐機_名称, 試錐機_能力?, 試錐機_方法?)>
  <!ELEMENT 試錐機_名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試錐機_能力 (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT 試錐機_方法 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          エンジン          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT エンジン (エンジン_名称, エンジン_能力?, エンジン_単位?)>
  <!ELEMENT エンジン_名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT エンジン_能力 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT エンジン_単位 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          ポンプ          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ポンプ (ポンプ_名称, ポンプ_能力?, ポンプ_単位?)>
  <!ELEMENT ポンプ_名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポンプ_能力 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ポンプ_単位 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          櫓種類          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 櫓種類 (櫓種類コード?, 櫓種類名称?)>
  <!ELEMENT 櫓種類コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 櫓種類名称 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          コア情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コア情報 (工学的地質区分名現場土質名+, 色調*, 観察記事*, 観察記事枠線*, 標準貫入試験*, 標準貫入試験詳細データ*, ルジオン試験*, ルジオン試験詳細データ*, 相対密度稠度*, 硬軟区分判定表*, 硬軟区分*, ボーリングコアの形状区分判定表*, ボーリングコアの形状区分*, 割れ目の状態区分判定表*, 割れ目の状態区分*, 風化の程度区分判定表*, 風化の程度区分*, 熱水変質の程度区分判定表*, 熱水変質の程度区分*, 破碎度判定表*, 破碎度*, 孔内載荷試験*, 透水試験*, P波試験*, S波試験*, その他原位置試験*, 試料採取*, 地盤材料の工学的分類*, 地質時代*, 地層岩体区分*, 孔内水位*, 削孔工程*, 孔径孔壁保護*, 削孔速度*, コアチューブビット*, 給圧条件*, 回転数*, 送水条件*, 断層破碎帯区分*, コア採取率*, 最大コア長*, RQD*, コア質量*, 岩級区分判定表*, 岩級区分*, 保孔管*, 計測機器*, トレーサーによる地下水流動層層検層*, トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ*, トレーサーによる地下水流動層層検層判定結果*, 備考*, フリー情報*)>

<!--*****-->
<!--          工学的地質区分名現場土質名          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名 (工学的地質区分名現場土質名_下端深度, 工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名, 工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名記号?, 工学的地質区分名現場土質名_岩石群+)>
  <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名記号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_岩石群 (工学的地質区分名現場土質名_岩石群コード, 工学的地質区分名現場土質名_岩石土コード+)>
    <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_岩石群コード (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_岩石土コード (工学的地質区分名現場土質名_岩相?, 工学的地質区分名現場土質名_岩石?, 工学的地質区分名現場土質名_變成岩岩相?, 工学的地質区分名現場土質名_變成岩岩石?)>
      <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_岩相 (#PCDATA)>
      <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_岩石 (#PCDATA)>
      <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_變成岩岩相 (#PCDATA)>
      <!ELEMENT 工学的地質区分名現場土質名_變成岩岩石 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          色調          -->
<!--*****-->

```

```

<!ELEMENT 色調 (色調_下端深度, 色調_色調名)>
  <!ELEMENT 色調_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 色調_色調名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 観察記事 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 観察記事 (観察記事_上端深度, 観察記事_下端深度, 観察記事_記事?)>
  <!ELEMENT 観察記事_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 観察記事_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 観察記事_記事 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 観察記事枠線 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 観察記事枠線 (観察記事枠線_下端深度)>
  <!ELEMENT 観察記事枠線_下端深度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 標準貫入試験 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標準貫入試験 (標準貫入試験_開始深度, 標準貫入試験_0_100 打撃回数?, 標準貫入試験_0_100 貫入量?, 標準貫入試験_100_200 打撃回数?, 標準貫入試験_100_200 貫入量?, 標準貫入試験_200_300 打撃回数?, 標準貫入試験_200_300 貫入量?, 標準貫入試験_合計打撃回数, 標準貫入試験_合計貫入量, 標準貫入試験_備考?)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_開始深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_0_100 打撃回数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_0_100 貫入量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_100_200 打撃回数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_100_200 貫入量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_200_300 打撃回数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_200_300 貫入量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_合計打撃回数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_合計貫入量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 標準貫入試験詳細データ -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ (標準貫入試験詳細データ_開始深度, 標準貫入試験詳細データ_打撃回数, 標準貫入試験詳細データ_貫入量, 標準貫入試験詳細データ_累積貫入量, 標準貫入試験詳細データ_備考?)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_開始深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_打撃回数 (標準貫入試験詳細データ_打撃回数, 標準貫入試験詳細データ_貫入量, 標準貫入試験詳細データ_累積貫入量, 標準貫入試験詳細データ_備考?)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_貫入量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_累積貫入量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標準貫入試験詳細データ_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- ルジオン試験 -->
<!--*****-->
<!-- 「ルジオン試験_試験番号」は、ルジオン試験詳細データの「ルジオン試験詳細_試験番号」と対応する。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ルジオン試験 (ルジオン試験_試験番号, ルジオン試験_上端深度, ルジオン試験_下端深度, ルジオン試験_圧力管理方法コード, ルジオン試験_圧力管理方法?, ルジオン試験_圧力最大スケール, ルジオン試験_注入量最大スケール, ルジオン試験_圧力開始点, ルジオン試験_注入量開始点, ルジオン試験_ルジオン値区分, ルジオン試験_ルジオン値, ルジオン試験_限界圧力)>
  <!ELEMENT ルジオン試験_試験番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ルジオン試験_上端深度 (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT ルジオン試験_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力管理方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力管理方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力最大スケール (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_注入量最大スケール (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_圧力開始点 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_注入量開始点 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_ルジオン値区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_ルジオン値 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験_限界圧力 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          ルジオン試験詳細データ          -->
<!--*****-->
<!-- 「ルジオン試験詳細_試験番号」は、ルジオン試験の「ルジオン試験_試験番号」と対応
する。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ (ルジオン試験詳細データ_試験番号, ルジオン試験詳
細データ_有効圧力, ルジオン試験詳細データ_注入量)>
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ_試験番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ_有効圧力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ルジオン試験詳細データ_注入量 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          相対密度稠度          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 相対密度稠度 (相対密度稠度_下端深度, 相対密度_コード?, 相対密度_状態?,
相対稠度_コード?, 相対稠度_状態?)>
<!ELEMENT 相対密度稠度_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対密度_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対密度_状態 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対稠度_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 相対稠度_状態 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          硬軟区分判定表          -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 硬軟区分判定表 (硬軟区分判定表_コード, 硬軟区分判定表_記号, 硬軟区分判
定表_区分?, 硬軟区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          硬軟区分          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 硬軟区分 (硬軟区分_下端深度, 硬軟区分_硬軟区分?)>
<!ELEMENT 硬軟区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 硬軟区分_硬軟区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          ボーリングコアの形状区分判定表          -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリングコアの形状区分判定表 (ボーリングコアの形状区分判定表_コード,
ボーリングコアの形状区分判定表_記号, ボーリングコアの形状区分判定表_区分?, ボーリン
グコアの形状区分判定表_説明?)>
<!ELEMENT ボーリングコアの形状区分判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT ボーリングコアの形状区分判定表_記号 (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT ボーリングコアの形状区分判定表_区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ボーリングコアの形状区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      ボーリングコアの形状区分      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT ボーリングコアの形状区分(ボーリングコアの形状区分_下端深度, ボーリング
コアの形状区分_ボーリングコアの形状区分?)>
  <!ELEMENT ボーリングコアの形状区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ボーリングコアの形状区分_ボーリングコアの形状区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      割れ目の状態区分判定表      -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****-->
<!ELEMENT 割れ目の状態区分判定表(割れ目の状態区分判定表_コード, 割れ目の状態区分
判定表_記号, 割れ目の状態区分判定表_区分?, 割れ目の状態区分判定表_説明?)>
  <!ELEMENT 割れ目の状態区分判定表_コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 割れ目の状態区分判定表_記号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 割れ目の状態区分判定表_区分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 割れ目の状態区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      割れ目の状態区分      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 割れ目の状態区分(割れ目の状態区分_下端深度, 割れ目の状態区分_割れ目の状
態区分?)>
  <!ELEMENT 割れ目の状態区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 割れ目の状態区分_割れ目の状態区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      風化の程度区分判定表      -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****-->
<!ELEMENT 風化の程度区分判定表(風化の程度区分判定表_コード, 風化の程度区分判定表_
記号, 風化の程度区分判定表_区分?, 風化の程度区分判定表_説明?)>
  <!ELEMENT 風化の程度区分判定表_コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 風化の程度区分判定表_記号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 風化の程度区分判定表_区分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 風化の程度区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      風化の程度区分      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 風化の程度区分(風化の程度区分_下端深度, 風化の程度区分_風化の程度区
分?)>
  <!ELEMENT 風化の程度区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 風化の程度区分_風化の程度区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--      熱水変質の程度区分判定表      -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。-->
<!--*****-->
<!ELEMENT 熱水変質の程度区分判定表(熱水変質の程度区分判定表_コード, 熱水変質の程
度区分判定表_記号, 熱水変質の程度区分判定表_区分?, 熱水変質の程度区分判定表_説明?)>
  <!ELEMENT 熱水変質の程度区分判定表_コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 熱水変質の程度区分判定表_記号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 熱水変質の程度区分判定表_区分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 熱水変質の程度区分判定表_説明 (#PCDATA)>

```

```

<!--*****-->
<!--          熱水変質の程度区分          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 熱水変質の程度区分(熱水変質の程度区分_下端深度, 熱水変質の程度区分_熱水
変質の程度区分?)>
    <!ELEMENT 熱水変質の程度区分_下端深度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 熱水変質の程度区分_熱水変質の程度区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          破碎度判定表          -->
<!--*****-->
<!-- 区分情報があるときは必ず判定表を付属させること。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 破碎度判定表(破碎度判定表_項目名*, 破碎度判定表_判定*)>
<!ELEMENT 破碎度判定表_項目名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 破碎度判定表_判定(破碎度判定表_コード, 破碎度判定表_記号, 破碎度判定表_
説明*)>
<!ELEMENT 破碎度判定表_コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 破碎度判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 破碎度判定表_説明 (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!--*****-->
<!--          破碎度          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 破碎度(破碎度_上端深度, 破碎度_下端深度, 破碎度_破碎度?)>
<!ELEMENT 破碎度_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 破碎度_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 破碎度_破碎度 (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!--          孔内载荷試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 孔内载荷試験(孔内载荷試験_試験深度, 孔内载荷試験_試験方法コード, 孔内載
荷試験_試験方法?, 孔内载荷試験_载荷パターン?, 孔内载荷試験_初期圧, 孔内载荷試験_降
伏圧, 孔内载荷試験_変形係数, 孔内载荷試験_割線弾性係数?, 孔内载荷試験_接線弾性係
数?)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_試験深度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_試験方法コード (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_試験方法 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_载荷パターン (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_初期圧 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_降伏圧 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_変形係数 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_割線弾性係数 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 孔内载荷試験_接線弾性係数 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          透水試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 透水試験(透水試験_上端深度, 透水試験_下端深度, 透水試験_試験コード, 透
水試験_試験方法?, 透水試験_透水係数)>
    <!ELEMENT 透水試験_上端深度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 透水試験_下端深度 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 透水試験_試験コード (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 透水試験_試験方法 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 透水試験_透水係数 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          P 波試験          -->
<!--*****-->

```

```

<!ELEMENT P 波試験 (P 波試験_上端深度, P 波試験_下端深度, P 波試験_起振方式?, P 波
試験_速度)>
  <!ELEMENT P 波試験_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT P 波試験_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT P 波試験_起振方式 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT P 波試験_速度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          S 波試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT S 波試験 (S 波試験_上端深度, S 波試験_下端深度, S 波試験_起振方式?, S 波
試験_速度)>
  <!ELEMENT S 波試験_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT S 波試験_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT S 波試験_起振方式 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT S 波試験_速度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          その他原位置試験          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT その他原位置試験 (その他原位置試験_試験名, その他原位置試験_上端深度,
その他原位置試験_下端深度, その他原位置試験_試験結果)>
  <!ELEMENT その他原位置試験_試験名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT その他原位置試験_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT その他原位置試験_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT その他原位置試験_試験結果 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          試料採取          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 試料採取 (試料採取_上端深度, 試料採取_下端深度, 試料採取_試料番号, 試料
採取_採取方法コード, 試料採取_採取方法?, 試料採取_試験名*)>
  <!ELEMENT 試料採取_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料採取_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料採取_試料番号 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料採取_採取方法コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料採取_採取方法 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試料採取_試験名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          地盤材料の工学的分類          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 地盤材料の工学的分類 (地盤分類_下端深度, 地盤分類_工学的分類記号?)>
  <!ELEMENT 地盤分類_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地盤分類_工学的分類記号 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          地質時代          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 地質時代 (地質時代_上端深度, 地質時代_下端深度, 地質時代_地質時代名, 地
質時代_形成年代上限?, 地質時代_形成年代下限?, 地質時代_変成年代上限?, 地質時代_変成
年代下限?)>
  <!ELEMENT 地質時代_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地質時代_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地質時代_地質時代名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地質時代_形成年代上限 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地質時代_形成年代下限 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地質時代_変成年代上限 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地質時代_変成年代下限 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          地層岩体区分          -->
<!--*****-->

```

```

<!ELEMENT 地層岩体区分 (地層岩体区分_上端深度, 地層岩体区分_下端深度, 地層岩体区
分_地層岩体名?)>
  <!ELEMENT 地層岩体区分_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地層岩体区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 地層岩体区分_地層岩体名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          孔内水位          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 孔内水位 (孔内水位_測定年月日, 孔内水位_削孔状況コード, 孔内水位_削孔状
況?, 孔内水位_孔内水位, 孔内水位_水位種別備考?)>
  <!ELEMENT 孔内水位_測定年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_削孔状況コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_削孔状況 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_孔内水位 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔内水位_水位種別備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          削孔工程          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 削孔工程 (削孔工程_測定年月日, 削孔工程_削孔深度, 削孔工程_ケーシング下
端深度?)>
  <!ELEMENT 削孔工程_測定年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 削孔工程_削孔深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 削孔工程_ケーシング下端深度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          孔径孔壁保護          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 孔径孔壁保護 (孔径孔壁保護_下端深度, 孔径孔壁保護_孔径, 孔径孔壁保護_
孔壁保護コード?, 孔径孔壁保護_孔壁保護方法?, 孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由?)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔径 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔壁保護コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔壁保護方法 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 孔径孔壁保護_孔壁保護実施理由 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          削孔速度          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 削孔速度 (削孔速度_下端深度, 削孔速度_削孔速度)>
  <!ELEMENT 削孔速度_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 削孔速度_削孔速度 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          コアチューブビット          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コアチューブビット (コアチューブビット_下端深度, コアチューブビット_コ
アチューブ名?, コアチューブビット_ビット名?)>
  <!ELEMENT コアチューブビット_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コアチューブビット_コアチューブ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コアチューブビット_ビット名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          給圧条件          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 給圧条件 (給圧条件_下端深度, 給圧条件_給圧)>
  <!ELEMENT 給圧条件_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 給圧条件_給圧 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          回転数          -->
<!--*****-->

```

```

<!ELEMENT 回転数 (回転数_下端深度, 回転数_回転数)>
  <!ELEMENT 回転数_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 回転数_回転数 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          送水条件          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 送水条件 (送水条件_下端深度, 送水条件_送水圧, 送水条件_送水量, 送水条件_
排水量, 送水条件_送水種類コード, 送水条件_送水種類?)>
  <!ELEMENT 送水条件_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 送水条件_送水圧 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 送水条件_送水量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 送水条件_排水量 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 送水条件_送水種類コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 送水条件_送水種類 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          断層破碎帯区分          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 断層破碎帯区分 (断層破碎帯区分_上端深度, 断層破碎帯区分_下端深度, 断層
破碎帯区分_性状コード, 断層破碎帯区分_性状?, 断層破碎帯区分_備考?)>
  <!ELEMENT 断層破碎帯区分_上端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 断層破碎帯区分_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 断層破碎帯区分_性状コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 断層破碎帯区分_性状 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 断層破碎帯区分_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          コア採取率          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コア採取率 (コア採取率_下端深度, コア採取率_採取率?)>
  <!ELEMENT コア採取率_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コア採取率_採取率 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          最大コア長          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 最大コア長 (最大コア長_下端深度, 最大コア長_コア長?)>
  <!ELEMENT 最大コア長_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 最大コア長_コア長 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          RQD          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT RQD (RQD_下端深度, RQD_RQD?)>
  <!ELEMENT RQD_下端深度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT RQD_RQD (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          コア質量          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コア質量 (コア質量_下端深度, コア質量_コア質量?)>
<!ELEMENT コア質量_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT コア質量_コア質量 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          岩級区分判定表          -->
<!--*****-->
<!-- 岩級区分_項目名のデータ数と岩級区分_説明のデータ数は一致させること。 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 岩級区分判定表 (岩級区分判定表_項目名*, 岩級区分判定表_判定*)>
  <!ELEMENT 岩級区分判定表_項目名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 岩級区分判定表_判定 (岩級区分判定表_コード, 岩級区分判定表_記号, 岩級
区分判定表_説明*)>
  <!ELEMENT 岩級区分判定表_コード (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT 岩級区分判定表_記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 岩級区分判定表_説明 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 岩級区分 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 岩級区分 (岩級区分_下端深度, 岩級区分_岩級区分?)>
<!ELEMENT 岩級区分_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 岩級区分_岩級区分 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 保孔管 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 保孔管 (保孔管_下端深度, 保孔管_種別コード, 保孔管_備考?)>
<!ELEMENT 保孔管_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 保孔管_種別コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 保孔管_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 計測機器 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 計測機器 (計測機器_上端深度, 計測機器_下端深度, 計測機器_機器種別, 計測機器_備考?)>
<!ELEMENT 計測機器_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 計測機器_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 計測機器_機器種別 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 計測機器_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- トレーサーによる地下水流動層検層 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層 (トレーサーによる地下水流動層検層_検層番号, トレーサーによる地下水流動層検層_上端深度, トレーサーによる地下水流動層検層_下端深度, トレーサーによる地下水流動層検層_削孔深度, トレーサーによる地下水流動層検層_孔内水位, トレーサーによる地下水流動層検層_検層方法コード, トレーサーによる地下水流動層検層_電解質溶液濃度, トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間*)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_検層番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_削孔深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_孔内水位 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_検層方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_電解質溶液濃度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ -->
<!--*****-->
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ (トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ_検層番号, トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ_測定深度, トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ_比抵抗値*)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ_検層番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ_測定深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層詳細データ_比抵抗値 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- トレーサーによる地下水流動層検層判定結果 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層判定結果 (トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_上端深度, トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_下端深度, トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_地下水流動層検層結果)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_下端深度 (#PCDATA)>

```

<!ELEMENT トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_トレーサーによる地下水流動層検層結果 (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- 備考 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT 備考 (備考_タイトル, 備考_上端深度, 備考_下端深度, 備考_備考内容)>

<!ELEMENT 備考_タイトル (#PCDATA)>

<!ELEMENT 備考_上端深度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 備考_下端深度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 備考_備考内容 (#PCDATA)>

<!--*****-->

<!-- フリー情報 -->

<!--*****-->

<!ELEMENT フリー情報 (#PCDATA)>

5 ボーリング交換用データの XML 記入例

ボーリング交換用データ (BEDnnnn. XML) の記入例を次に示す。なお、サンプル XML ファイルは、発注者側から提供を受けることができる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE ボーリング情報 SYSTEM "BED0400.DTD">

<ボーリング情報 DTD_version="4.00">

  <基礎情報>
    <適用規格>JIS A 0205-2012</適用規格>
    <適用規格>JIS A 0206-2013</適用規格>
    <公開フラグ>
      <公開フラグ_コード>1</公開フラグ_コード>
      <公開フラグ_備考/>
    </公開フラグ>
  </基礎情報>

  <標題情報>
    <調査基本情報>
      <事業工事名>〇〇農政局〇〇〇〇事業</事業工事名>
      <調査名>〇〇幹線用水路地質調査業務</調査名>
      <調査目的>15</調査目的>
      <調査対象>08</調査対象>
      <ボーリング名>B-2</ボーリング名>
      <ボーリング総数>10</ボーリング総数>
      <ボーリング連番>1</ボーリング連番>
    </調査基本情報>
    <経度緯度情報>
      <経度_度>135</経度_度>
      <経度_分>49</経度_分>
      <経度_秒>58.2000</経度_秒>
      <緯度_度>34</緯度_度>
      <緯度_分>59</緯度_分>
      <緯度_秒>53.2000</緯度_秒>
      <取得方法コード>02</取得方法コード>
      <取得方法説明>1,000 分の 1 地形図を 0.1mm 単位で読み取り</取得方法説明>
      <読取精度コード>1</読取精度コード>
      <測地系>02</測地系>
    </経度緯度情報>
    <ローカル座標>
      <座標定義>X</座標定義>
      <座標>3000.000</座標>
    </ローカル座標>
    <ローカル座標>
      <座標定義>Y</座標定義>
      <座標>4000.000</座標>
    </ローカル座標>
    <ローカル座標>
      <座標定義>D.L.</座標定義>
      <座標>50.00</座標>
    </ローカル座標>
    <調査位置>
      <調査位置住所>〇〇県〇〇郡〇〇町字〇〇</調査位置住所>
      <コード 1 次>5339</コード 1 次>
      <コード 2 次>65</コード 2 次>
      <コード 3 次>43</コード 3 次>
    </調査位置>
    <発注機関>
      <発注機関名称>〇〇農政局〇〇〇〇事業所</発注機関名称>
```

<テクリスコード>03006007</テクリスコード>
 </発注機関>
 <調査期間>
 <調査期間_開始年月日>2019-05-01</調査期間_開始年月日>
 <調査期間_終了年月日>2019-05-20</調査期間_終了年月日>
 </調査期間>
 <調査会社>
 <調査会社_名称>株式会社〇〇コンサルタンツ</調査会社_名称>
 <調査会社_TEL>012-3455-6789</調査会社_TEL>
 <調査会社_主任技師_氏名>〇〇〇〇</調査会社_主任技師_氏名>
 <調査会社_主任技師_地質調査技士登録番号>54321</調査会社_主任技師_地質調査技士登録番号>
 <調査会社_現場代理人_氏名>△△△△</調査会社_現場代理人_氏名>
 <調査会社_現場代理人_地質調査技士登録番号/>
 <調査会社_コア鑑定者_氏名>××××</調査会社_コア鑑定者_氏名>
 <調査会社_コア鑑定者_地質調査技士登録番号/>
 <調査会社_ボーリング責任者_氏名>□□□□</調査会社_ボーリング責任者_氏名>
 <調査会社_ボーリング責任者_地質調査技士登録番号/>
 <調査会社_電子納品管理者_氏名>◎◎◎◎</調査会社_ボーリング責任者_氏名>
 <調査会社_電子納品管理者_地質情報管理士登録番号>10000</調査会社_電子納品管理者_地質情報管理士登録番号/>
 </調査会社>
 <ボーリング基本情報>
 <孔口標高>0.23</孔口標高>
 <総削孔長>23.00</総削孔長>
 <柱状図様式>1</柱状図様式>
 <角度>15.00</角度>
 <方位>10.00</方位>
 <地盤勾配>15.00</地盤勾配>
 </ボーリング基本情報>
 <試錐機>
 <試錐機_名称>〇〇〇〇</試錐機_名称>
 <試錐機_能力>150</試錐機_能力>
 <試錐機_方法>1</試錐機_方法>
 </試錐機>
 <エンジン>
 <エンジン_名称>△△△△</エンジン_名称>
 <エンジン_能力></エンジン_能力>
 <エンジン_単位></エンジン_単位>
 </エンジン>
 <ポンプ>
 <ポンプ_名称>△△△△</ポンプ_名称>
 <ポンプ_能力></ポンプ_能力>
 <ポンプ_単位></ポンプ_単位>
 </ポンプ>
 <櫓種類>
 <櫓種類コード>記入する必要なし</櫓種類コード>
 <櫓種類名称>記入する必要なし</櫓種類名称>
 </櫓種類>
 </標題情報>
 <コア情報>
 <工学的地質区分名現場土質名>
 <工学的地質区分名現場土質名_下端深度>1.80</工学的地質区分名現場土質名_下端深度>
 <工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名>埋土(砂)</工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名>
 <工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名記号>FI</工学的地質区分名現場土質名_工学的地質区分名現場土質名記号>
 <工学的地質区分名現場土質名_岩石群>
 <工学的地質区分名現場土質名_岩石群コード>1</工学的地質区分名現場土質名_岩石群コード>

[illegible]

[illegible]

[illegible]

```

<色調>
  <色調_下端深度>3.00</色調_下端深度>
  <色調_色調名>黒灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>7.40</色調_下端深度>
  <色調_色調名>暗灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>10.60</色調_下端深度>
  <色調_色調名>暗灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>22.45</色調_下端深度>
  <色調_色調名>暗緑灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>23.70</色調_下端深度>
  <色調_色調名>灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>24.55</色調_下端深度>
  <色調_色調名>暗灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>27.95</色調_下端深度>
  <色調_色調名>淡灰</色調_色調名>
</色調>
<色調>
  <色調_下端深度>30.15</色調_下端深度>
  <色調_色調名>淡灰</色調_色調名>
</色調>
<観察記事>
  <観察記事_上端深度>0.00</観察記事_上端深度>
  <観察記事_下端深度>1.80</観察記事_下端深度>
  <観察記事_記事>含水量少ない。¥n 木片混入。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
  <観察記事_上端深度>1.80</観察記事_上端深度>
  <観察記事_下端深度>3.00</観察記事_下端深度>
  <観察記事_記事>含水量多い。¥n 腐植物混入。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
  <観察記事_上端深度>3.00</観察記事_上端深度>
  <観察記事_下端深度>7.40</観察記事_下端深度>
  <観察記事_記事>含水量多い。¥n 腐植物混入。¥n 部分的に砂を挟む。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
  <観察記事_上端深度>7.40</観察記事_上端深度>
  <観察記事_下端深度>10.60</観察記事_下端深度>
  <観察記事_記事>含水量多い。¥n 所々、腐植物混入。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
  <観察記事_上端深度>10.60</観察記事_上端深度>
  <観察記事_下端深度>22.45</観察記事_下端深度>
  <観察記事_記事>含水量中位。¥n 部分的に凝固している。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
  <観察記事_上端深度>22.45</観察記事_上端深度>
  <観察記事_下端深度>23.70</観察記事_下端深度>
  <観察記事_記事>含水量中位。¥n 部分的にシルトを挟む。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>

```

```

<観察記事_上端深度>23.70</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>24.55</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>含水量中位。Yn 部分的に砂を挟む。</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>24.55</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>27.95</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>砂岩</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事>
<観察記事_上端深度>27.95</観察記事_上端深度>
<観察記事_下端深度>30.15</観察記事_下端深度>
<観察記事_記事>シルト岩</観察記事_記事>
</観察記事>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>1.80</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>3.00</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>7.40</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>10.60</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>22.45</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>23.70</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>24.55</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>27.95</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<観察記事枠線>
<観察記事枠線_下端深度>30.15</観察記事枠線_下端深度>
</観察記事枠線>
<標準貫入試験>
<標準貫入試験_開始深度>1.15</標準貫入試験_開始深度>
<標準貫入試験_0_100 打撃回数>1</標準貫入試験_0_100 打撃回数>
<標準貫入試験_0_100 貫入量>150</標準貫入試験_0_100 貫入量>
<標準貫入試験_100_200 打撃回数>1</標準貫入試験_100_200 打撃回数>
<標準貫入試験_100_200 貫入量>160</標準貫入試験_100_200 貫入量>
<標準貫入試験_200_300 打撃回数>1</標準貫入試験_200_300 打撃回数>
<標準貫入試験_200_300 貫入量>140</標準貫入試験_200_300 貫入量>
<標準貫入試験_合計打撃回数>3</標準貫入試験_合計打撃回数>
<標準貫入試験_合計貫入量>450</標準貫入試験_合計貫入量>
<標準貫入試験_備考/>
</標準貫入試験>
<標準貫入試験>
<標準貫入試験_開始深度>2.15</標準貫入試験_開始深度>
<標準貫入試験_0_100 打撃回数>1</標準貫入試験_0_100 打撃回数>
<標準貫入試験_0_100 貫入量>120</標準貫入試験_0_100 貫入量>
<標準貫入試験_100_200 打撃回数>1</標準貫入試験_100_200 打撃回数>
<標準貫入試験_100_200 貫入量>120</標準貫入試験_100_200 貫入量>
<標準貫入試験_200_300 打撃回数>2</標準貫入試験_200_300 打撃回数>
<標準貫入試験_200_300 貫入量>160</標準貫入試験_200_300 貫入量>
<標準貫入試験_合計打撃回数>4</標準貫入試験_合計打撃回数>
<標準貫入試験_合計貫入量>400</標準貫入試験_合計貫入量>

```

[illegible]

[illegible]

[illegible]

```

<標準貫入試験詳細データ_貫入量>50</標準貫入試験詳細データ_貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>290</標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_備考></標準貫入試験詳細データ_備考>
</標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃>
<標準貫入試験詳細データ_打撃回数>4</標準貫入試験詳細データ_打撃回数>
<標準貫入試験詳細データ_貫入量>110</標準貫入試験詳細データ_貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>400</標準貫入試験詳細データ_累積貫入量>
<標準貫入試験詳細データ_備考></標準貫入試験詳細データ_備考>
</標準貫入試験詳細データ_打撃>
</標準貫入試験詳細データ>
<ルジオン試験>
<ルジオン試験_試験番号>0001</ルジオン試験_試験番号>
<ルジオン試験_上端深度>3.00</ルジオン試験_上端深度>
<ルジオン試験_下端深度>8.00</ルジオン試験_下端深度>
<ルジオン試験_圧力管理方法コード>1</ルジオン試験_圧力管理方法コード>
<ルジオン試験_圧力管理方法></ルジオン試験_圧力管理方法>
<ルジオン試験_圧力最大スケール>1</ルジオン試験_圧力最大スケール>
<ルジオン試験_注入量最大スケール>20</ルジオン試験_注入量最大スケール>
<ルジオン試験_圧力開始点>0.200</ルジオン試験_圧力開始点>
<ルジオン試験_注入量開始点>3.30</ルジオン試験_注入量開始点>
<ルジオン試験_ルジオン値区分>2</ルジオン試験_ルジオン値区分>
<ルジオン試験_ルジオン値>11.20</ルジオン試験_ルジオン値>
<ルジオン試験_限界圧力>0.720</ルジオン試験_限界圧力>
</ルジオン試験>
<ルジオン試験>
<ルジオン試験_試験番号>0002</ルジオン試験_試験番号>
<ルジオン試験_上端深度>27.95</ルジオン試験_上端深度>
<ルジオン試験_下端深度>30.15</ルジオン試験_下端深度>
<ルジオン試験_圧力管理方法コード>1</ルジオン試験_圧力管理方法コード>
<ルジオン試験_圧力管理方法></ルジオン試験_圧力管理方法>
<ルジオン試験_圧力最大スケール>1</ルジオン試験_圧力最大スケール>
<ルジオン試験_注入量最大スケール>20</ルジオン試験_注入量最大スケール>
<ルジオン試験_圧力開始点>0.200</ルジオン試験_圧力開始点>
<ルジオン試験_注入量開始点>2.30</ルジオン試験_注入量開始点>
<ルジオン試験_ルジオン値区分>2</ルジオン試験_ルジオン値区分>
<ルジオン試験_ルジオン値>15.70</ルジオン試験_ルジオン値>
<ルジオン試験_限界圧力>0.600</ルジオン試験_限界圧力>
</ルジオン試験>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.200</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>3.30</ルジオン試験詳細データ_注入量>
</ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.400</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>5.50</ルジオン試験詳細データ_注入量>
</ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.600</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>7.70</ルジオン試験詳細データ_注入量>
</ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>0.800</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>12.10</ルジオン試験詳細データ_注入量>
</ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ>
<ルジオン試験詳細データ_試験番号>0001</ルジオン試験詳細データ_試験番号>
<ルジオン試験詳細データ_有効圧力>1.000</ルジオン試験詳細データ_有効圧力>
<ルジオン試験詳細データ_注入量>17.70</ルジオン試験詳細データ_注入量>

```

[illegible]

```

<相対稠度_状態></相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<相対密度稠度>
  <相対密度稠度_下端深度>27.95</相対密度稠度_下端深度>
  <相対密度_コード>50</相対密度_コード>
  <相対密度_状態></相対密度_状態>
  <相対稠度_コード>40</相対稠度_コード>
  <相対稠度_状態></相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<相対密度稠度>
  <相対密度稠度_下端深度>30.15</相対密度稠度_下端深度>
  <相対密度_コード>90</相対密度_コード>
  <相対密度_状態>〇〇〇〇</相対密度_状態>
  <相対稠度_コード>90</相対稠度_コード>
  <相対稠度_状態>〇〇〇〇</相対稠度_状態>
</相対密度稠度>
<硬軟区分判定表>
  <硬軟区分判定表_コード>910</硬軟区分判定表_コード>
  <硬軟区分判定表_記号>A</硬軟区分判定表_記号>
  <硬軟区分判定表_区分>中硬</硬軟区分判定表_区分>
  <硬軟区分判定表_説明>ハンマーで容易に砕ける。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表>
  <硬軟区分判定表_コード>920</硬軟区分判定表_コード>
  <硬軟区分判定表_記号>B</硬軟区分判定表_記号>
  <硬軟区分判定表_区分>軟 1</硬軟区分判定表_区分>
  <硬軟区分判定表_説明>ピックでキズがつく。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表>
  <硬軟区分判定表_コード>930</硬軟区分判定表_コード>
  <硬軟区分判定表_記号>C</硬軟区分判定表_記号>
  <硬軟区分判定表_区分>軟 2</硬軟区分判定表_区分>
  <硬軟区分判定表_説明>カッターで削れる。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分判定表>
  <硬軟区分判定表_コード>940</硬軟区分判定表_コード>
  <硬軟区分判定表_記号>D</硬軟区分判定表_記号>
  <硬軟区分判定表_区分>極軟</硬軟区分判定表_区分>
  <硬軟区分判定表_説明>指先でへこむ。</硬軟区分判定表_説明>
</硬軟区分判定表>
<硬軟区分>
  <硬軟区分_下端深度>1.60</硬軟区分_下端深度>
  <硬軟区分_硬軟区分>940</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
  <硬軟区分_下端深度>2.00</硬軟区分_下端深度>
  <硬軟区分_硬軟区分>930</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
  <硬軟区分_下端深度>2.20</硬軟区分_下端深度>
  <硬軟区分_硬軟区分>930</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
  <硬軟区分_下端深度>3.90</硬軟区分_下端深度>
  <硬軟区分_硬軟区分>920</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
  <硬軟区分_下端深度>4.16</硬軟区分_下端深度>
  <硬軟区分_硬軟区分>920</硬軟区分_硬軟区分>
</硬軟区分>
<硬軟区分>
  <硬軟区分_下端深度>5.50</硬軟区分_下端深度>
  <硬軟区分_硬軟区分>910</硬軟区分_硬軟区分>

```

</硬軟区分>
 <硬軟区分>
 <硬軟区分_下端深度>5.80</硬軟区分_下端深度>
 <硬軟区分_硬軟区分>910</硬軟区分_硬軟区分>
 </硬軟区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>910</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>I</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>棒状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_説明>長さが 50cm 以上の棒状コア。</ボーリングコアの形状区分判定表_説明>
 </ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>920</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>II</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>長柱状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_説明>長さが 50～20cm の棒状コア。</ボーリングコアの形状区分判定表_説明>
 </ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>930</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>III</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>短柱状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_説明>長さが 20～10cm の棒状～短柱状コア。</ボーリングコアの形状区分判定表_説明>
 </ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>940</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>IV</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>岩片状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_説明>長さが 10cm 以下の短柱状から片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。</ボーリングコアの形状区分判定表_説明>
 </ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>950</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>V</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>れき状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_説明>主として角れき状のもの。</ボーリングコアの形状区分判定表_説明>
 </ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>960</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>VI</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>砂状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_説明>主として砂状のもの。</ボーリングコアの形状区分判定表_説明>
 </ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_コード>970</ボーリングコアの形状区分判定表_コード>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_記号>VII</ボーリングコアの形状区分判定表_記号>
 <ボーリングコアの形状区分判定表_区分>粘土状</ボーリングコアの形状区分判定表_区分>

[illegible]

</割れ目の状態区分>
 <風化の程度区分>
 <風化の程度区分_下端深度>1.05</風化の程度区分_下端深度>
 <風化の程度区分_風化の程度区分>015</風化の程度区分_風化の程度区分>
 </風化の程度区分>
 <風化の程度区分>
 <風化の程度区分_下端深度>4.04</風化の程度区分_下端深度>
 <風化の程度区分_風化の程度区分>014</風化の程度区分_風化の程度区分>
 </風化の程度区分>
 <風化の程度区分>
 <風化の程度区分_下端深度>8.03</風化の程度区分_下端深度>
 <風化の程度区分_風化の程度区分>013</風化の程度区分_風化の程度区分>
 </風化の程度区分>
 <熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表_コード>910</熱水変質の程度区分判定表_コード>
 <熱水変質の程度区分判定表_記号>1</熱水変質の程度区分判定表_記号>
 <熱水変質の程度区分判定表_区分>非変質</熱水変質の程度区分判定表_区分>
 <熱水変質の程度区分判定表_説明>極めて新鮮である。</熱水変質の程度区分判定表_説明>
 </熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表_コード>920</熱水変質の程度区分判定表_コード>
 <熱水変質の程度区分判定表_記号>2</熱水変質の程度区分判定表_記号>
 <熱水変質の程度区分判定表_区分>弱変質</熱水変質の程度区分判定表_区分>
 <熱水変質の程度区分判定表_説明>原岩組織を完全に残し、一部変質程度(脱色)が進んでい
 るものの、20%以上非変質部の割合が高いもの。</熱水変質の程度区分判定表_説明>
 </熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表_コード>930</熱水変質の程度区分判定表_コード>
 <熱水変質の程度区分判定表_記号>3</熱水変質の程度区分判定表_記号>
 <熱水変質の程度区分判定表_区分>中変質</熱水変質の程度区分判定表_区分>
 <熱水変質の程度区分判定表_説明>肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織は残
 るものの、全体に(脱色)変質程度。50%以上変質部を占めるもの及び網状変質部。</熱水
 変質の程度区分判定表_説明>
 </熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分判定表_コード>940</熱水変質の程度区分判定表_コード>
 <熱水変質の程度区分判定表_記号>4</熱水変質の程度区分判定表_記号>
 <熱水変質の程度区分判定表_区分>強変質</熱水変質の程度区分判定表_区分>
 <熱水変質の程度区分判定表_説明>構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、ほとんど
 変質し、30%以下非変質部を残すのみで、原岩組織を全くまたは殆ど残さないもの。</熱水
 変質の程度区分判定表_説明>
 </熱水変質の程度区分判定表>
 <熱水変質の程度区分>
 <熱水変質の程度区分_下端深度>7.00</熱水変質の程度区分_下端深度>
 <熱水変質の程度区分_熱水変質の程度区分>910</熱水変質の程度区分_熱水変質の程度区
 分>
 </熱水変質の程度区分>
 <熱水変質の程度区分>
 <熱水変質の程度区分_下端深度>8.90</熱水変質の程度区分_下端深度>
 <熱水変質の程度区分_熱水変質の程度区分>920</熱水変質の程度区分_熱水変質の程度区
 分>
 </熱水変質の程度区分>
 <破碎度判定表>
 <破碎度判定表_項目名>区分</破碎度判定表_項目名>
 <破碎度判定表_項目名>破碎の状態</破碎度判定表_項目名>
 <破碎度判定表_項目名>角礫の中央粒径</破碎度判定表_項目名>
 <破碎度判定表_項目名>基質の量</破碎度判定表_項目名>
 <破碎度判定表_項目名>粒度分布</破碎度判定表_項目名>
 <破碎度判定表_項目名>複合面構造</破碎度判定表_項目名>
 <破碎度判定表_判定>
 <破碎度判定表_コード>910</破碎度判定表_コード>
 <破碎度判定表_記号>C1</破碎度判定表_記号>
 <破碎度判定表_説明>地すべり・断層</破碎度判定表_説明>

```

<破砕度判定表_説明>粘土～砂</破砕度判定表_説明>
<破砕度判定表_説明>構成物質：粘土～砂</破砕度判定表_説明>
<破砕度判定表_説明/>
<破砕度判定表_説明>連続</破砕度判定表_説明>
<破砕度判定表_説明>場合によってあり</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>920</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Cr4</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>地すべり</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>角礫岩</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>2-5mm</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>60%以上</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>なし</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>930</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Cr3</破砕度判定表_記号>
<破砕度判定表_説明>地すべり</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>角礫岩</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>5-15mm</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>30-60%</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>不連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>なし</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>940</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Cr2</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>地すべり</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>角礫岩</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>15mm 以上</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>30%未満</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>不連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>なし</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>950</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Cr1b</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>地すべり</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>開口割れ目を細粒物が充填</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明/>
  <破砕度判定表_説明/>
  <破砕度判定表_説明>不連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>なし</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>960</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Cr1a</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>地すべり</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>開口割れ目</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明/>
  <破砕度判定表_説明/>
  <破砕度判定表_説明>不連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>なし</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>970</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Sh4</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>断層</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>角礫岩</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>2-5mm</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>60%以上</破砕度判定表_説明>

```

```

<破砕度判定表_説明>連続</破砕度判定表_説明>
<破砕度判定表_説明>あり</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>980</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Sh3</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>断層</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>角礫岩</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>5-15mm</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>30-60%</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>あり</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
<破砕度判定表_判定>
  <破砕度判定表_コード>990</破砕度判定表_コード>
  <破砕度判定表_記号>Sh2</破砕度判定表_記号>
  <破砕度判定表_説明>断層</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>角礫岩</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>15mm 以上</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>30%未満</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>連続</破砕度判定表_説明>
  <破砕度判定表_説明>あり</破砕度判定表_説明>
</破砕度判定表_判定>
</破砕度判定表>
<破砕度>
  <破砕度_上端深度>5.20</破砕度_上端深度>
  <破砕度_下端深度>7.00</破砕度_下端深度>
  <破砕度_破砕度>910</破砕度_破砕度>
</破砕度>
<破砕度>
  <破砕度_上端深度>7.00</破砕度_上端深度>
  <破砕度_下端深度>8.90</破砕度_下端深度>
  <破砕度_破砕度>920</破砕度_破砕度>
</破砕度>
<孔内載荷試験>
  <孔内載荷試験_試験深度>10.00</孔内載荷試験_試験深度>
  <孔内載荷試験_試験方法コード>12</孔内載荷試験_試験方法コード>
  <孔内載荷試験_試験方法/>
  <孔内載荷試験_載荷パターン>繰り返し載荷</孔内載荷試験_載荷パターン>
  <孔内載荷試験_初期圧>19.6</孔内載荷試験_初期圧>
  <孔内載荷試験_降伏圧>133.3</孔内載荷試験_降伏圧>
  <孔内載荷試験_変形係数>1.31E+03</孔内載荷試験_変形係数>
  <孔内載荷試験_割線弾性係数>2.43E+03</孔内載荷試験_割線弾性係数>
  <孔内載荷試験_接線弾性係数>3.15E+03</孔内載荷試験_接線弾性係数>
</孔内載荷試験>
<孔内載荷試験>
  <孔内載荷試験_試験深度>26.30</孔内載荷試験_試験深度>
  <孔内載荷試験_試験方法コード>12</孔内載荷試験_試験方法コード>
  <孔内載荷試験_試験方法/>
  <孔内載荷試験_載荷パターン>繰り返し載荷</孔内載荷試験_載荷パターン>
  <孔内載荷試験_初期圧>310.7</孔内載荷試験_初期圧>
  <孔内載荷試験_降伏圧>1555.3</孔内載荷試験_降伏圧>
  <孔内載荷試験_変形係数>2.47E+04</孔内載荷試験_変形係数>
  <孔内載荷試験_割線弾性係数>4.20E+04</孔内載荷試験_割線弾性係数>
  <孔内載荷試験_接線弾性係数>5.23E+04</孔内載荷試験_接線弾性係数>
</孔内載荷試験>
<透水試験>
  <透水試験_上端深度>6.30</透水試験_上端深度>
  <透水試験_下端深度>6.80</透水試験_下端深度>
  <透水試験_試験コード>02</透水試験_試験コード>
  <透水試験_試験方法/>
  <透水試験_透水係数>9.30E-06</透水試験_透水係数>
</透水試験>

```

```

<透水試験>
<透水試験_上端深度>24.80</透水試験_上端深度>
<透水試験_下端深度>25.30</透水試験_下端深度>
<透水試験_試験コード>02</透水試験_試験コード>
<透水試験_試験方法></透水試験_試験方法>
<透水試験_透水係数>2.50E-05</透水試験_透水係数>
</透水試験>
<透水試験>
<透水試験_上端深度>28.75</透水試験_上端深度>
<透水試験_下端深度>29.25</透水試験_下端深度>
<透水試験_試験コード>02</透水試験_試験コード>
<透水試験_試験方法></透水試験_試験方法>
<透水試験_透水係数>5.30E-05</透水試験_透水係数>
</透水試験>
<P波試験>
<P波試験_上端深度>0.00</P波試験_上端深度>
<P波試験_下端深度>2.00</P波試験_下端深度>
<P波試験_起振方式>ハンマーによる打撃</P波試験_起振方式>
<P波試験_速度>100</P波試験_速度>
</P波試験>
<P波試験>
<P波試験_上端深度>2.00</P波試験_上端深度>
<P波試験_下端深度>4.00</P波試験_下端深度>
<P波試験_起振方式>ハンマーによる打撃</P波試験_起振方式>
<P波試験_速度>300</P波試験_速度>
</P波試験>
<P波試験>
<P波試験_上端深度>4.00</P波試験_上端深度>
<P波試験_下端深度>10.00</P波試験_下端深度>
<P波試験_起振方式>ハンマーによる打撃</P波試験_起振方式>
<P波試験_速度>500</P波試験_速度>
</P波試験>
<S波試験>
<S波試験_上端深度>0.00</S波試験_上端深度>
<S波試験_下端深度>2.00</S波試験_下端深度>
<S波試験_起振方式>板たたき</S波試験_起振方式>
<S波試験_速度>50</S波試験_速度>
</S波試験>
<S波試験>
<S波試験_上端深度>2.00</S波試験_上端深度>
<S波試験_下端深度>4.00</S波試験_下端深度>
<S波試験_起振方式>板たたき</S波試験_起振方式>
<S波試験_速度>500</S波試験_速度>
</S波試験>
<S波試験>
<S波試験_上端深度>4.00</S波試験_上端深度>
<S波試験_下端深度>10.00</S波試験_下端深度>
<S波試験_起振方式>板たたき</S波試験_起振方式>
<S波試験_速度>300</S波試験_速度>
</S波試験>
<その他原位置試験>
<その他原位置試験_試験名>原位置ベーンせん断試験</その他原位置試験_試験名>
<その他原位置試験_上端深度>10.00</その他原位置試験_上端深度>
<その他原位置試験_下端深度>10.84</その他原位置試験_下端深度>
<その他原位置試験_試験結果>20.4kN/m2</その他原位置試験_試験結果>
</その他原位置試験>
<試料採取>
<試料採取_上端深度>10.00</試料採取_上端深度>
<試料採取_下端深度>10.84</試料採取_下端深度>
<試料採取_試料番号>T001</試料採取_試料番号>
<試料採取_採取方法コード>200</試料採取_採取方法コード>
<試料採取_採取方法></試料採取_採取方法>
<試料採取_試験名></試料採取_試験名>

```

```

</試料採取>
<試料採取>
  <試料採取_上端深度>16.00</試料採取_上端深度>
  <試料採取_下端深度>16.83</試料採取_下端深度>
  <試料採取_試料番号>T002</試料採取_試料番号>
  <試料採取_採取方法コード>200</試料採取_採取方法コード>
  <試料採取_採取方法></試料採取_採取方法>
  <試料採取_試験名></試料採取_試験名>
</試料採取>
<試料採取>
  <試料採取_上端深度>20.00</試料採取_上端深度>
  <試料採取_下端深度>20.90</試料採取_下端深度>
  <試料採取_試料番号>T003</試料採取_試料番号>
  <試料採取_採取方法コード>200</試料採取_採取方法コード>
  <試料採取_採取方法></試料採取_採取方法>
  <試料採取_試験名></試料採取_試験名>
</試料採取>
<試料採取>
  <試料採取_上端深度>25.00</試料採取_上端深度>
  <試料採取_下端深度>25.50</試料採取_下端深度>
  <試料採取_試料番号>T004</試料採取_試料番号>
  <試料採取_採取方法コード>999</試料採取_採取方法コード>
  <試料採取_採取方法>〇〇〇〇方式</試料採取_採取方法>
  <試料採取_試験名>土粒子の密度試験</試料採取_試験名>
  <試料採取_試験名>土の粒度試験</試料採取_試験名>
</試料採取>
<地盤材料の工学的分類>
  <地盤分類_下端深度>1.80</地盤分類_下端深度>
  <地盤分類_工学的分類記号></地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
  <地盤分類_下端深度>3.00</地盤分類_下端深度>
  <地盤分類_工学的分類記号>ML</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
  <地盤分類_下端深度>7.40</地盤分類_下端深度>
  <地盤分類_工学的分類記号>SF</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
  <地盤分類_下端深度>10.60</地盤分類_下端深度>
  <地盤分類_工学的分類記号>ML</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地盤材料の工学的分類>
  <地盤分類_下端深度>22.45</地盤分類_下端深度>
  <地盤分類_工学的分類記号>CL</地盤分類_工学的分類記号>
</地盤材料の工学的分類>
<地質時代>
  <地質時代_上端深度>0.00</地質時代_上端深度>
  <地質時代_下端深度>24.55</地質時代_下端深度>
  <地質時代_地質時代名>完新世</地質時代_地質時代名>
  <地質時代_形成年代上限>111010000</地質時代_形成年代上限>
  <地質時代_形成年代下限>111010000</地質時代_形成年代下限>
  <地質時代_変成年代上限/>
  <地質時代_変成年代下限/>
</地質時代>
<地質時代>
  <地質時代_上端深度>24.55</地質時代_上端深度>
  <地質時代_下端深度>30.15</地質時代_下端深度>
  <地質時代_地質時代名>更新世</地質時代_地質時代名>
  <地質時代_形成年代上限>111020000</地質時代_形成年代上限>
  <地質時代_形成年代下限>111020000</地質時代_形成年代下限>
  <地質時代_変成年代上限/>
  <地質時代_変成年代下限/>

```

```

</地質時代>
<地質時代>
  <地質時代_上端深度>30.15</地質時代_上端深度>
  <地質時代_下端深度>43.22</地質時代_下端深度>
  <地質時代_地質時代名>後期中新世</地質時代_地質時代名>
  <地質時代_形成年代上限>112121000</地質時代_形成年代上限>
  <地質時代_形成年代下限>112121000</地質時代_形成年代下限>
  <地質時代_変成年代上限/>
  <地質時代_変成年代下限/>
</地質時代>
<地質時代>
  <地質時代_上端深度>43.22</地質時代_上端深度>
  <地質時代_下端深度>60.38</地質時代_下端深度>
  <地質時代_地質時代名>中期中新世</地質時代_地質時代名>
  <地質時代_形成年代上限>112122000</地質時代_形成年代上限>
  <地質時代_形成年代下限>112122000</地質時代_形成年代下限>
  <地質時代_変成年代上限/>
  <地質時代_変成年代下限/>
</地質時代>
<地質時代>
  <地質時代_上端深度>60.38</地質時代_上端深度>
  <地質時代_下端深度>86.30</地質時代_下端深度>
  <地質時代_地質時代名>前期白亜紀</地質時代_地質時代名>
  <地質時代_形成年代上限>121200000</地質時代_形成年代上限>
  <地質時代_形成年代下限>121200000</地質時代_形成年代下限>
  <地質時代_変成年代上限/>
  <地質時代_変成年代下限/>
</地質時代>
<地質時代>
  <地質時代_上端深度>86.30</地質時代_上端深度>
  <地質時代_下端深度>90.25</地質時代_下端深度>
  <地質時代_地質時代名>地質時代不明</地質時代_地質時代名>
  <地質時代_形成年代上限>000000000</地質時代_形成年代上限>
  <地質時代_形成年代下限>000000000</地質時代_形成年代下限>
  <地質時代_変成年代上限/>
  <地質時代_変成年代下限/>
</地質時代>
<地層岩体区分>
  <地層岩体区分_上端深度>0.00</地層岩体区分_上端深度>
  <地層岩体区分_下端深度>24.55</地層岩体区分_下端深度>
  <地層岩体区分_地層岩体名>〇〇層</地層岩体区分_地層岩体名>
</地層岩体区分>
<地層岩体区分>
  <地層岩体区分_上端深度>24.55</地層岩体区分_上端深度>
  <地層岩体区分_下端深度>30.15</地層岩体区分_下端深度>
  <地層岩体区分_地層岩体名>△△層群</地層岩体区分_地層岩体名>
</地層岩体区分>
<孔内水位>
  <孔内水位_測定年月日>2001-05-20</孔内水位_測定年月日>
  <孔内水位_削孔状況コード>1</孔内水位_削孔状況コード>
  <孔内水位_削孔状況>2</孔内水位_削孔状況>
  <孔内水位_孔内水位></孔内水位_孔内水位>
  <孔内水位_水位種別備考>水位無し</孔内水位_水位種別備考>
</孔内水位>
<孔内水位>
  <孔内水位_測定年月日>2001-05-21</孔内水位_測定年月日>
  <孔内水位_削孔状況コード>1</孔内水位_削孔状況コード>
  <孔内水位_削孔状況>2</孔内水位_削孔状況>
  <孔内水位_孔内水位>5.05</孔内水位_孔内水位>
  <孔内水位_水位種別備考>清水位、被圧</孔内水位_水位種別備考>
</孔内水位>
<削孔工程>
  <削孔工程_測定年月日>2001-05-01</削孔工程_測定年月日>

```

[illegible]

[illegible]

```

<コアチューブビット_ビット名>メタルクラウン</コアチューブビット_ビット名>
</コアチューブビット>
<コアチューブビット>
  <コアチューブビット_下端深度>22.00</コアチューブビット_下端深度>
  <コアチューブビット_コアチューブ名>ダブルコアチューブ</コアチューブビット_コアチューブ名>
  <コアチューブビット_ビット名>ダイヤモンドビット</コアチューブビット_ビット名>
</コアチューブビット>
<給圧条件>
  <給圧条件_下端深度>1.50</給圧条件_下端深度>
  <給圧条件_給圧>1.0</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<給圧条件>
  <給圧条件_下端深度>7.00</給圧条件_下端深度>
  <給圧条件_給圧>1.5</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<給圧条件>
  <給圧条件_下端深度>9.00</給圧条件_下端深度>
  <給圧条件_給圧>1.0</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<給圧条件>
  <給圧条件_下端深度>22.00</給圧条件_下端深度>
  <給圧条件_給圧>2.0</給圧条件_給圧>
</給圧条件>
<回転数>
  <回転数_下端深度>3.50</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>120</回転数_回転数>
</回転数>
<回転数>
  <回転数_下端深度>5.20</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>250</回転数_回転数>
</回転数>
<回転数>
  <回転数_下端深度>7.00</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>300</回転数_回転数>
</回転数>
<回転数>
  <回転数_下端深度>14.50</回転数_下端深度>
  <回転数_回転数>350</回転数_回転数>
</回転数>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>3.50</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>0.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>0</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>0</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>1</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>5.20</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>1.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>60</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>6</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>2</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>7.00</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>1.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>40</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>5</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>2</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>

```

```

</送水条件>
<送水条件>
  <送水条件_下端深度>14.50</送水条件_下端深度>
  <送水条件_送水圧>1.0</送水条件_送水圧>
  <送水条件_送水量>30</送水条件_送水量>
  <送水条件_排水量>15</送水条件_排水量>
  <送水条件_送水種類コード>2</送水条件_送水種類コード>
  <送水条件_送水種類></送水条件_送水種類>
</送水条件>
<断層破碎帯区分>
  <断層破碎帯区分_上端深度>30.15</断層破碎帯区分_上端深度>
  <断層破碎帯区分_下端深度>30.25</断層破碎帯区分_下端深度>
  <断層破碎帯区分_性状コード>4</断層破碎帯区分_性状コード>
  <断層破碎帯区分_性状>角礫状</断層破碎帯区分_性状>
  <断層破碎帯区分_備考></断層破碎帯区分_備考>
</断層破碎帯区分>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>1.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>75</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>2.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>83</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>3.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>93</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>4.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>95</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>5.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>84</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>6.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>94</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>8.00</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>95</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<コア採取率>
  <コア採取率_下端深度>9.30</コア採取率_下端深度>
  <コア採取率_採取率>100</コア採取率_採取率>
</コア採取率>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>0.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>5</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>1.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>6</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>3.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>0</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>4.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>0</最大コア長_コア長>

```

```

</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>5.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>14</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>6.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>15</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>6.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>27</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<最大コア長>
  <最大コア長_下端深度>7.50</最大コア長_下端深度>
  <最大コア長_コア長>17</最大コア長_コア長>
</最大コア長>
<RQD>
  <RQD_下端深度>4.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>5.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>6.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>7.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>0</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>8.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>31</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>9.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>26</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>10.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>47</RQD_RQD>
</RQD>
<RQD>
  <RQD_下端深度>11.00</RQD_下端深度>
  <RQD_RQD>17</RQD_RQD>
</RQD>
<コア質量>
  <コア質量_下端深度>3.00</コア質量_下端深度>
  <コア質量_コア質量>12.4</コア質量_コア質量>
</コア質量>
<コア質量>
  <コア質量_下端深度>6.00</コア質量_下端深度>
  <コア質量_コア質量>12.5</コア質量_コア質量>
</コア質量>
<コア質量>
  <コア質量_下端深度>9.00</コア質量_下端深度>
  <コア質量_コア質量>12.8</コア質量_コア質量>
</コア質量>
<コア質量>
  <コア質量_下端深度>12.00</コア質量_下端深度>

```

<コア質量_コア質量>13.5</コア質量_コア質量>
 </コア質量>
 <コア質量>
 <コア質量_下端深度>15.00</コア質量_下端深度>
 <コア質量_コア質量>16.1</コア質量_コア質量>
 </コア質量>
 <コア質量>
 <コア質量_下端深度>18.00</コア質量_下端深度>
 <コア質量_コア質量>14.7</コア質量_コア質量>
 </コア質量>
 <コア質量>
 <コア質量_下端深度>21.00</コア質量_下端深度>
 <コア質量_コア質量>15.3</コア質量_コア質量>
 </コア質量>
 <岩級区分判定表>
 <岩級区分判定表_項目名>1. 硬軟の程度</岩級区分判定表_項目名>
 <岩級区分判定表_項目名>2. 風化変質の程度(細区分)</岩級区分判定表_項目名>
 <岩級区分判定表_項目名>3. 割れ目の状態</岩級区分判定表_項目名>
 <岩級区分判定表_項目名>4. コアの状態(細区分)</岩級区分判定表_項目名>
 <岩級区分判定表_項目名>備考</岩級区分判定表_項目名>
 <岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_コード>910</岩級区分判定表_コード>
 <岩級区分判定表_記号>A</岩級区分判定表_記号>
 <岩級区分判定表_説明>青灰～乳灰</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>極硬ハンマーで叩くと金属音。D.B で 2cm/min 以下。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>亀裂面ともおおむね新鮮。未風化。(A)</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>亀裂少なく、おおむね 20～50cm で密着している。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>棒状～長柱状でおおむね 30cm 以上で採取される。(1)</岩級区分判定表_説明>
 </岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_コード>920</岩級区分判定表_コード>
 <岩級区分判定表_記号>A</岩級区分判定表_記号>
 <岩級区分判定表_説明>乳灰～(淡)褐灰</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>硬ハンマーで軽い金属音。D.B で 2-4cm/min。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>おおむね新鮮なるも、亀裂面に沿って若干風化。変質褐色を帯びる。(B)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>割れ目間隔 5～15cm を主としてしる。一部開口している。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>短柱～棒状でおおむね 20cm 以下。(2)</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>3, 4A なるも 1, 2 が B のもの。1, 2A なるも 3, 4B のもの。</岩級区分判定表_説明>
 </岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_コード>930</岩級区分判定表_コード>
 <岩級区分判定表_記号>B</岩級区分判定表_記号>
 <岩級区分判定表_説明>褐灰～(淡)灰褐</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>中硬ハンマーで叩くと濁音。小刀で傷つく硬さ。D.B で 3cm/min 以上。
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>割れ目に沿って風化進行、長石等是一部変色変質している。(C)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>割れ目発達、開口部に一部粘土はさむ。ヘアクラック発達。割れ目易い。
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>大岩片状でおおむね 10cm 以下で、5cm 前後のものが多い。原型復旧可。(3)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>短柱状なるも風化進行軟質のもの。</岩級区分判定表_説明>

</岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_コード>940</岩級区分判定表_コード>
 <岩級区分判定表_記号>CH</岩級区分判定表_記号>
 <岩級区分判定表_説明>灰褐～淡黄褐</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>やや軟～硬。ハンマーで叩くと軽く割れる。爪で傷つくことあり。
 D. B で削孔適。
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>岩内部の一部を除き風化進行、長石、雲母はおおむね変質している。(D)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>割れ目多く発達 5cm 以下、開口して粘土はさむ。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>岩片～細片(角礫)状で碎け易い、不円形多く原型復旧困難。(4)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>軟岩で容易に碎け易いもの。</岩級区分判定表_説明>
 </岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_コード>950</岩級区分判定表_コード>
 <岩級区分判定表_記号>CM</岩級区分判定表_記号>
 <岩級区分判定表_説明>淡黄褐～黄褐</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>軟極く脆弱で指で割れ、つぶれる。M. C で掘進可。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>岩内部まで風化進行するも、岩構造を残し石英未風化で残る。(E1)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>割れ目多いが粘土化進行、土砂状で密着している。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>細片状で岩片残し、指で碎けて粉状。円形コアなし。(5)</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>破碎帯でコア部のみ細片状で採取のもの。</岩級区分判定表_説明>
 </岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_コード>960</岩級区分判定表_コード>
 <岩級区分判定表_記号>CL</岩級区分判定表_記号>
 <岩級区分判定表_説明>極軟粉体になりやすい。M. C で無水堀可。</岩級区分判定表_説明>
 </岩級区分判定表_判定>
 <岩級区分判定表_説明>おおむね一様に風化進行、マサ土化している。わずかに岩片を残す。(E2)
 </岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>粘土化進行のためクラックなし。</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>土砂状(6)</岩級区分判定表_説明>
 <岩級区分判定表_説明>破碎帯・粘土化帯でコア採取不可能なもの。</岩級区分判定表_説明>
 </岩級区分判定表_判定>
 </岩級区分判定表>
 <岩級区分>
 <岩級区分_下端深度>3. 50</岩級区分_下端深度>
 <岩級区分_岩級区分>960</岩級区分_岩級区分>
 </岩級区分>
 <岩級区分>
 <岩級区分_下端深度>5. 30</岩級区分_下端深度>
 <岩級区分_岩級区分>960</岩級区分_岩級区分>
 </岩級区分>
 <岩級区分>
 <岩級区分_下端深度>7. 00</岩級区分_下端深度>
 <岩級区分_岩級区分>950</岩級区分_岩級区分>
 </岩級区分>
 <岩級区分>
 <岩級区分_下端深度>10. 00</岩級区分_下端深度>
 <岩級区分_岩級区分>930</岩級区分_岩級区分>
 </岩級区分>
 <保孔管>

<保孔管_下端深度>22.50</保孔管_下端深度>
 <保孔管_種別コード>2</保孔管_種別コード>
 <保孔管_備考>VP40 ストレーナ加工塩ビパイプ</保孔管_備考>
 </保孔管>
 <計測機器>
 <計測機器_上端深度>10.00</計測機器_上端深度>
 <計測機器_下端深度>10.00</計測機器_下端深度>
 <計測機器_機器種別>地下水位計</計測機器_機器種別>
 <計測機器_備考></計測機器_備考>
 </計測機器>
 <トレーサーによる地下水流動層検層>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_検層番号>0001</トレーサーによる地下水流動層検層_検層番号>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_上端深度>24.00</トレーサーによる地下水流動層検層_上端深度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_下端深度>36.25</トレーサーによる地下水流動層検層_下端深度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_削孔深度>37.00</トレーサーによる地下水流動層検層_削孔深度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_孔内水位>23.40</トレーサーによる地下水流動層検層_孔内水位>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_検層方法コード>1</トレーサーによる地下水流動層検層_検層方法コード>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_電解質溶液濃度>1.0</トレーサーによる地下水流動層検層_電解質溶液濃度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>5</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>10</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>15</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>30</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>60</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>90</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 </トレーサーによる地下水流動層検層>
 <トレーサーによる地下水流動層検層>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_検層番号>0002</トレーサーによる地下水流動層検層_検層番号>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_上端深度>24.00</トレーサーによる地下水流動層検層_上端深度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_下端深度>36.25</トレーサーによる地下水流動層検層_下端深度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_削孔深度>37.00</トレーサーによる地下水流動層検層_削孔深度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_孔内水位>23.15</トレーサーによる地下水流動層検層_孔内水位>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_検層方法コード>2</トレーサーによる地下水流動層検層_検層方法コード>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_電解質溶液濃度>1.0</トレーサーによる地下水流動層検層_電解質溶液濃度>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>5</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>10</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>15</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>30</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>
 <トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>60</トレーサーによる地下水流動層検層_測定時間>

[illegible]

[illegible]

<トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_地下水検層結果>非検出</トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_地下水検層結果>
</トレーサーによる地下水流動層検層判定結果>
<トレーサーによる地下水流動層検層判定結果>
<トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_上端深度>28.00</トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_上端深度>
<トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_下端深度>35.00</トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_下端深度>
<トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_地下水検層結果>下降流状検出</トレーサーによる地下水流動層検層判定結果_地下水検層結果>
</トレーサーによる地下水流動層検層判定結果>
<備考>
<備考_タイトル>試錐日報解析結果</備考_タイトル>
<備考_上端深度>10.00</備考_上端深度>
<備考_下端深度>10.84</備考_下端深度>
<備考_備考内容>難透水層</備考_備考内容>
</備考>
<備考>
<備考_タイトル>試錐日報解析結果</備考_タイトル>
<備考_上端深度>10.84</備考_上端深度>
<備考_下端深度>15.22</備考_下端深度>
<備考_備考内容>逸水層</備考_備考内容>
</備考>
<フリー情報>
</フリー情報>
</コア情報>
</ボーリング情報>